



伊藤音次郎日記

1929(昭和4)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成30)年6月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼1ページ▲▼ 前年ヨリ繰越事項

昭和4年

▲▼2ページ▲▼ 昭和四年要記

航空タクシー

ライトプレーン

航空路

▲▼4ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月1日(火)

天気 晴

五時家内起シ五時半起床 満ダケヨク寢テ居タノデ外一同ト祝ヲナシ皆ノ來ルノヲ待ツ 安岡七時十分頃 鈴木山田八時來 スグ出カケル 十時児玉大佐宅着 不在デアツタガ上ツテ呉レトノコトニ坐敷デマツ。スグ帰ツテ來ラレテ酒ノ馳走ニナル 安岡ノ就職ニツイテハ望ミ少ナク、川西ニ対シテハ、益々悪感ヲ持ツタラシイコトヲ話シノ内ニ知ツタダケ 坂本氏小川氏ガ來タノデ辭シテ帰途明治神宮ニ參詣シ、安岡ハ前田氏ヲ訪問 鈴木、山田ト浅草ヘノ途中山田腦貧血デ電車内デ、タオレル 附近ノ醫師ニヨリ休息サセ注射シテ二時頃帰ル
夜大蔵、菊池、荒木、西田來 花合セシテ帰ル

▲▼5ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月2日(水)

天気 晴風強シ

時事 新潟県富山県ニツナミアリ一村全滅セシ處モアリ 裏日本吹雪強シ
七時起床 風強ク誰レモ來ラズ、出モ出來ズ
年賀状百五十枚ホド書イタノデスツカリクタブレシマツタ 晝迄カゝル 昨日大坂出張中ノ日記ヲ記入ス
午後雜誌ヲ讀ミ夕方三時頃ヨリ晝夜兼用ノ食事ヲナス 一人デ数本ヲカタムケ小供ヲ相手ニ愉快ニスゴス 六時スデニ床ニ入ル。ラジオ小破シテ聞ケズ
今日ハ本年度ノ計畫予算等ヲナス筈ノ處出來ナカッタ

裏日本ト表日本ツネニ天候相反ス 人世表裏ハタシテ如何

▲▼6ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月3日(木)

天気晴

十二時前カラ目サメテ眠レズ 吉田絃二ノ小説白路ヲ讀ミ明ス 五時起床 徳次モ起キル 仕度シテ押上五時三十分発ノ電車ヲ待チ五時四十五分千葉行ニ乗ル 六時津田沼着 成田線ニ乗替六時十分 発動仕立ノ電車トテ寒カッタ 電氣ストーブハナク乗合モ十数人シカナカッタノデ冷エタコト 四十分デ成田着 マダ各商店ガ漸ク店ヲ開ク處デアッタ 成田山ニツキ便通後洗手シテ参詣 昨年ノワビヲナシ本年ノ努力ヲチカヒ、ハトニ豆ヲヤリミクジオ引ク 大吉デ大ニ氣ヲ取りナオシ奥ノ院ニ参リ公園ヲ參觀シテ八時十分ノ電車デ帰ル 九時帰宅
眠カッタノデ眠ロウトシタガ眠レナカッタ
トナリカラ年賀ニ來タノデ答札ニ行キツヒデニ松永君ニモ行ク
午後金太郎ト大友來 酒杯ノ後花カルタヲシテ帰ル 入レ違ニ太田、佐々木來。東京ヘ行ク
入浴後六時食事ヲ終ル スグ床ニ入ル 今日モ氣ニナリツ、予算出來ナカッタ

▲▼7ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月4日(金)

天気晴

朝寢シテ十時半工場出 出勤者少ナク休ミトス
午後帰宅 年賀状ノ残リヲ出ス
夜オソク田中來 花ヲナシ後チ本年度ノコトニツキ話シ合ヒ十一時半帰ル

▲▼8ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月5日(土)

天気晴

八時起床 朝食ニ一杯ヤル 信太郎ニ手紙ヲ持タセテ工場ヘヤル
アトデ今年度ノノ計畫ヲ初メ最初ニ借金調べ 一二月ノ作業 毎月ノ支出予算ヲ立テ
ル 後チ航空タクシーノ予算書ヲ作ル 十二時過ぎ式年度分作製中高見氏來 小供
二人同伴 晝食ヲ出シ工場ニ行ク 荒木大蔵ニ一人共帰ツテ居ラズ。昨日ノ事ヲ打合せ
テスグ帰ル
夜安岡來 最(ママ)非工場ニ使ツテ呉レトノコトデアッタガ相談シテ居クコトトス

▲▼9ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月6日(日)

天気 晴

ユツクリ朝寝シテ起床 後二時間程工場予算ヤツテ計算ヲ立テ正午ヨリ上京 佐藤ニ
行キ所沢へ電話シタガダレモ居ラズ。佐藤ノ店主明日所沢へ行クトノコトニ赤塗料トセ
ルロイドヲ頼ミ帰宅ス
夜キント家内デ少シ花合セシテ眠ル

▲▼10ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月7日(月)

天気 晴

五時二家内ヲ起シ六時過ぎ起床 七草ノカユテ朝食 七時出デ八時工場ニ出ル 大蔵
宅ニヨリ東京ノ用件ヲタノミ八時工場出
昨夜西田宅へ樋ロアテノ電報預リ立川ヨリ來ル 日曜日ニコイトノコトデアッタトテ樋
口退所ノ報アリ。田中ヲ東京ニ出シテ後チ午後樋ロヲ呼び聞キタゞス 立川行ハ非(ママ)
定シタ タガ止メタイトノコトデアッタ イロ、説キヤ、安定ヲ得タノデ夜西田ニ行テ
止メルコトヲ止メサス
四時半終リ六時帰宅 夕食後床ニ入ル

▲▼11ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月8日(火)

天気 晴

六時半起床 朝食イモノカユ 寒イ朝ニヨイ 八時工場出 大蔵今日立川ニ行ク由
日本飛行學校ノハンサーノ件其他ヲ命ジ、昨夜西田ガ樋ロニ會ツタ結果ヲ聞キ樋ロヲ
呼び西田ト共ニ樋ロノ希望ヲ聞クコトニシタガ先生ロベタトテ紙ニ書イタモノヲ出シタ
ノノニヨルト今一年間働クカラ、ムヤミニ解雇シナイコト云フノガ條件デアッタ。アツ
ケナカツタガ外ニ昨夜西田ニ語ツタカレノ希望ナルモノハ相當正當ナモノデアッタノデ入
レルコトニ話シス

田中晝前漸ク出勤 昨日上京ノ用件一ツモ出來ズ 將來ノコトニツキ二時間程話シ明
日橋本ヲ菅野へ呼び相談スルコトニシ田中上京 所沢へ電話スルコトニス。十年式ホゞ
完成ス。樋ロ明日ヨリ出勤ノコト 検査ノ方同人ニ全権ヲユダネルコトトス 今村ニモ話
ス 四時半終リ六時帰宅

米代ノ爲メ昨冬出タ紋付ヲ今日又持ッテ行ク 菊池ニ今夜行クコトヲタノム(航空タク
シーノ書類ヲ完成ス)

▲▼12ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月9日(水)

天気 晴

朝工場出 田中呼ビニヤツタガ休ムトノコトニ行ツテ聞カセルト橋本來ルトノコトニ帰宅
正午橋本スデニ來テ居タ 同人ハ身ヲ引イテ日米ノタラノ販賣カ、航空輸送会社入り
ヲ希望シテ居タ。会社入りニヤ、ヨイカ鱈賣リニ返(ママ)對シテ居ク 尚居残ツテ本工
場デ働クコトヲ進メテ本人ノ考慮スルコト 本日中ハ所沢ニ止マルコトダケヲキメル。京
都ヨリ中村ナルモノ來ル 田中手紙ツケテ來タガ、トニカク津田沼へ返ス。六時頃田中
來 田中ヨリ橋本ニモ居残リヲ進メ、尚後進ミテ又支配人ノ登記云々ヲ持チダシタ
話シダケ聞イテ居ク 充分考慮ノ余地アリ

▲▼13ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月10日(木)

天気晴

大毎十年式検査 辻本氏外二名來場 遅レテ吉田氏モ來 三十分飛行ニテ試檢ヲ終
リ設計室ニテ晝食ヲ出シ三時頃吉田氏ヲ案内シテ帰宅
夕食後六時吉田氏帰ル
小供ノ學校ノコトデ添書ヲ貰フ 向島ノ第六中學ノ漢文ノ先生ガ友人ダトノコトデ一
應会ツテ見ルコトニシタ

▲▼14ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月11日(金)

天気晴

午前工場出 鈴木ノ計算ヲナシ十四日迄ニ、百円受取ルコトニ約束シテ上京 局ニ初メ
ニ行ク 新ラシク來タ今村少佐ニモ挨拶ス。根岸君ニ會フ。東日ニ行ツタガ吉田君マダ
鳥飼ニ行キ晝食ヲ馳走ニナリニ時東日ニテガソリン代受取り橋本国ニ材料代ヲ渡ス
五時佐藤ニテ田中橋本ト落ち合フ。材料ノ事デオソクナリ六時ニナツタノデ會合ヲ明
日佐藤氏自宅へ正午ヨルコトニシテ帰宅 床ニツイタガ眠レズツヒニアカツキニ及ブ

▲▼15ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月12日(土)

天気晴

昨夜ハ橋本ニ田中支配人ニ對スル自分ノ考ヘヲ話シタコトヲ悔ヒタ。氣ニナツテ眠レナカ
ツタノモ其時ヲ爲モアツタ様ダ
午前工場出 大蔵ニ、大毎ガソリン引取りヲタノミ
工場ニ出ル 樋口西田ト作業打合せヲナス 樋口昨日午後休ンダ由。多少尚アヤシイ
點アリトノコトニ明日ノ會見ヲ中止セシムベク明日菅野ニ荒木以上ノモノ全部會合スル
コトヲ西田ニ命ズ

上野。上野駅車中ニテ橋本ト丁度會ヒ佐藤氏自宅ニ行ク。田中來ラズ 話シテ見ルト、

ハタシテ昨夜田中ト話シ会ツタトノコトデ田中モ今日ハ來ルカ來ナイカ、ワカラヌトノコトデアツタ 後來夕結果橋本ハ航空輸送会社ニ運動スルコト 工場ヲ止メルコト、金ノ支拂ニツイテハ田中ト相談シテ居クコト 田中ハ時機ヲ待タセルコトニテ話シヲ終ル
夜早ク寝 十二時頃ヨリ大ニ考ヘル。自分自カラ先頭ニ活動スベシ 特ニ今日ヨリ、アラタムベキコト、人ヲ頼ムベカラズ

▲▼16ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月13日(日)

天気 晴

終日在宅 午後正午誰レモ來ラズ 大蔵上京ノ途中ヨル 皆オソクナルカ、ヒヨツトスルト來ラレナイカモシレヌトノコトニ二時頃上京 明日京成電気ニ金支拂フ爲メ佐藤(借リ(ママ)行ツタガ不在トノコト)デ明日ノコトニシテ帰ル
四時頃田中来 ダレモ居ラヌノデスグ帰ル 五時過ぎ西田、菊池、荒木來 六時半樋口來。食事中大坂ノ兄來 大体皆ハ作業ト入金予定ヲ知ラセテ貰ツタラ夜業シテモナシデモ間ニ合セルトノコトデアツタ 九時頃帰ル

▲▼17ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月14日(月)

天気 晴南風

四月頃ノ暖カサデアツタ 南風強ク午後三時頃止ム
終日工場 荒木所沢へ出張セシム
正午今村西田樋口、菊池ヲ呼び工場予定ニツキ打合せヲナス
久シ振リデ帳簿記入等ノ事務ヲ取ル
安岡ヲ呼び航空タクシーノ方ヲヤラセルコトニ話シス
朝兄ヨリ十円借リル 氣ノ毒デアツタガ之レデ今日ノ米代ト荒木ノ出張費ニ當テル
鈴木ノ金來ラズ

▲▼ページ▲▼

現像液處法

- 1 薬ハ順序ニ溶カス事
- 2 水ハ微温湯ヲ用ユル事
- 3 温度ハ華氏70。以下50。以上ナルベキ事

1. パイロメトール現像液

水5オンス メトール 1杯

パイロ 2杯
亜流曹 5杯
炭酸曹 5杯
以上露出不足ニ適ス

2. メトールハイドロキノン
水五オンス メトール 半杯
ハイドロキノン 1.5杯
亜流曹 5杯
炭酸曹 4杯
臭素加里 2適

3. アミドル
水二、五オンス アミドル 1杯
亜流曹 3杯
臭素加里 3適

▲▼18ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月15日(火)

天気晴

本日ノ記事八十四日分 昨日記入ノ分八十五日分ナリ
朝工場ニ出テ鈴木ノ金聞イタガ來ラズ
ヤツト三円ダケ取り之レデ上京。大毎機西田氏操縦立川へ帰ル
佐藤へ寄ツタガ金ナク困ツタガ止ムナク、キンニ京成へコトワリニ行ク様云ヒツケテ帰宅セ
シム

一時辨ゴ士会館ニテ小坂長太郎氏ト稲垣ノ件ニテ會フ。オトナシイ辨ゴ士デアッタ。
ムシロ稲垣ノ父ガ強行ノ様デアッタ 自分ヨリハ二月以後毎月今迄通り七十円ツ、確
実ニ入レルコト 小坂氏ヨリハ今月來月二回ニテ終ルコトトノコトデ話マトマラズ十二日
午前九時再会ノコトトシテ分レル。川上氏訪問 会エズ。相羽君ニ会ヒハンサーノ事ヲ聞
ク。大毎へ入レルトノコトデアッタ。
帰宅 電気ガツイテ居タノデホットシタ

▲▼19ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月16日(水)

天気晴

昨日ノ吹キカエシデ今日ハ寒カッタ 函根ノアブロ今日モ飛ベズ

大蔵上京ニ吉田氏ヨリ脚ト自動車賃ヲ貰ツテ來ル様事傳ル 夕方早く帰ル様命ジテ帰宅 小栗片岡來 今日甲一ヲコワシタカラ修理シテホシイトノコトデアッタ。ソコへ大蔵帰り來ル 林申吉田氏帰ラズ 廿四借りテ來タトノコトデアッタガ明日米ヲ買ツテヤラネバナラヌノデ京成ハ一ヶ月分持タセテヤッタガ受取ラナカッタ 小栗スグ帰ル 大蔵ニ所沢引受ケテヤル様話シス。ヤリタイ氣持モアリ、サリトテ進ンデト云フ程デモナク少シ考ヘサセテ呉レトノコトデアッタ

▲▼20ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月17日(木)

天気晴

工場出 八月份決算ヲ終ル

小坂ベンゴシヨリ昨日行カナカッタコトニツキ、キツイ手紙來 スグ返事ヲ書イテ出ス 電話ヲカケタコト 稲垣ノ父ニ会ヒタイコト

鈴木ノ金ツヒニ來ラズ 朝家内ヲ京成へヤッタ處ケンモホロナ、挨拶デシヤクニサワツテナラナカッタト

津田沼迄來タガツヒニ間ニ合ワズ、夕方橋本国來 共ニ帰ル 車中浦山高橋止メタイコト、高橋自分デヤリタイガ暮シ出來ナケレバ北山トヤリタイ希望ヲ有シスデニ話シテ居ルトノコト。兎三角大毎機仕上ル迄現状ノコト

四時半帰宅スルト電氣ガツイテ居ナカッタ シヤクニサワツタガ仕方ナシ 早く床ニツク 田中九時頃來 上京ス

▲▼21ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月18日(金)

天気晴

鈴木ヨリ百円受取ル スグ買物ヤ何ニカニ支拂ヲナシ午後宗里ニヨツテ帰宅 電燈会社へヤルメートルヲ止メル。スグ今日カラ取りハツシテ呉レタ 家内ハ昨日会社ノモノニケンツクラ喰ツタノデ自カラ行キ昨日ノモノヲ呼ンデ、サンバ、アヤマラセテ來テ氣ガリウインヲ下ゲテ居タ 夜早ク床ニ入ル

▲▼22ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月19日(土)

天気晴

九月份記帳ヲナス

小西返電ナシ。田中函根其他ニ上京セシム

小栗甲一到着シタガ左翼全部使用ニ堪エズ

昨夕大蔵稲垣ノ父ニ會フ 先方ヨリ会見申込ミ 金ニ困ルノデ今月百円ダケ都合シテ

呉レタラアト八月□出來ルダケデヨイトノコトデアッタ 之レニテヨシ

▲▼23ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月20日(日)

天気晴

八時起床 朝食後信太郎ノ先生ヲ訪問 中學入學ニツキ聞合セル マダ各校カラ皆來テ居ナイノデクワシイコトハワカラナカッタ 氏ノ意見デアハ一年ノバシテモヨイ中學ニ入レタ方ガヨイトノコトデアッタ

帰宅 昨日ノスゞメモヲ料理シテ居ル處へ知覽氏來 夕方五時半迄遊ンデ歸ル

昨年暮ニ病氣シタコト 奈良原氏ノ母堂ノ死ンダコト等 晝食後八幡迄散歩シツヒデアニ平塚篤氏訪問シタガ不在 帰宅 芋トシルコヲ喰テ歸ル

中島氏ニタノンデ、タンクノ製作ノ件。ソレヲ畑閣下ニ話シテ貰フコトノ案ニ知覽君モ讚(ママ)成シテ居タ

大蔵東京ヨリノ歸リニ立寄ル

▲▼24ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月21日(月)

天気晴

▲▼25ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月22日(火)

天気晴

朝工場出 午後上京 局へ電話シタガ森川氏一人デ分ラズ明日聞クコトニス。吉田君ニ電話シタガ之レモ居ラズ 病氣ニテ休ミ 金ニナラズ帰宅

▲▼26ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月24日(木)

天気晴

終日工場 三葉完成 試運轉ニモビールナク試運轉出來ズ

宗里ニ金取りニヤッタガ一文モ取レズ

工場作業ズン、進ム

小供ノ爲メ中學ニ學校等規則書ヲ請求ス

市税局ノ保俵(ママ)今日期日ダガツヒニカケラレナカッタ 京成田中行ク 今月末ノバス。保俵署モ手紙ニテコトワル

大蔵大坂ニ居ルノデ朝大坂へ打電ス 小西ニ会フ様

◆▼27ページ◆▼ 昭和4(1929)年1月24日(木)

天気 晴

宅二十五銭ヲ置キ自分六十五銭持ツテ上京 十時辨ゴ士会館ニ行ク 一時間待ツテモ來ラズ帰りカケテ途中デ会ヒ尚三十分余マタサレタ 稲垣ノ父モ來テ居ル筈ダト小坂氏ノ話デアッタガツヒニ來ラズ。ツヒニ大蔵ニ対スル稲垣ノ申出ノコトニ及ビ小坂氏少シモ知ラズ自分ノ出タラメト云ヒ出シタガ結局午後一時太陽光線デ会フコトニシテ局ニ行キ検査ノ打合せヲナシ井上氏ニハンサーノ金ノ事ワリヲナシ、馬話ニ会フ 荻野氏ノ香奠三十円出シテヤツテ呉レ 井上氏ニ預ケ呉レトノコトデアッタ。時間ガ來タノデ太陽光線ニ行ク 小坂氏居タガ稲垣氏旅行中トテ会エズ 十六時一時同所ヲ約シテ分レル 佐藤ニヨリ三十円借り協会ニ行キ知覽君ニ会フ 四時半九段ニ行ク 稲留氏ニ会フ知覽君ノ云フ程デモナカッタガ修理ハマダサルモ二三年ハアルトノコトデアッタ
ビワニツヲ聞テ六時半日比谷ノ松本ニ安岡ノ歓迎会ニ行ク 長岡氏モ來会 予定以上ノ盛会デアッタ

◆▼28ページ◆▼ 昭和4(1929)年1月25日(金)

天気 晴

九時宅ヲ出テ十一時吉田氏訪問 プロペラ買ツテ貰フコトス 有田ノ予定四十円ニナリ大ニ予算違ツタガ帰途東日ニテ金受取ル 大蔵大坂ヨリ今朝帰ル 共ニ佐藤ニヨリ昨日三十円借りタ内二十円返ス 帰途所沢行問題ニツキ今日吉田氏ト話シ會ツタ處大體ニ讚(ママ)成シテ居タコト。尚福知氏ニ大蔵ヲ大毎ニ入社サセル心配アリトノコトニ同氏ノ意見モ聞イテ貰フコトニシタコトヲ話ス 大蔵モ大坂ニテ福知氏兄ニモ相談シタル由福知氏ハ速反対意見デアッタ由。ソレニツキ根本問題ハ大蔵ガ大毎ニ入社スルカ、サモナケレバ所沢へ最(ママ)非行クコトニスル様ニ考ルコトヲ申渡シテ分レル

◆▼29ページ◆▼ 昭和4(1929)年1月26日(土)

天気 晴

定刻工場出 大蔵ニ寄りモビールノ件其他打合せ

十一時 九時頃田中來ナイデ行ク マダ寝テ居タ 昨夜菊池ト四時頃話シテ意見一致ヲ見タトカ云ツテ居タ 若イノデ何ニカセズニハ居レナイノダロウガ誠意ガナイカラダメダ。與ヘラレザレバヤラナイト云フカレデアリ又財政ノコトニツイテハ致(ママ)底マカセラレル人物デハナイ 保ヨリ以上ダラシガナイ方デアル。ソレハ第一ニ数理ニクライコト、彼レ自身非常ニケチナ人間デアルニカ、ワラズ税金ヲト、コウラセタリ其爲、家ヲ競賣ニ

サレタリシテ居ル。小坂ノ件ト小西上京ヲサガシニヤル。検査松浦駒林氏來場 甲三
用ローン八十内部 横廠ノ発運轉検査 十年式白滝ノ翼 鈴木甲三内部検査終了
三時帰ツテ共ニ宗里ニヨル 小栗來 共ニ工場ニ帰り甲一整備ニツキ打合せヲナス 翼無
検査ノマ、修理ハコトワル 代品サガセルコトニス
帰宅夕食後花ヲヤリ十一時眠ニツク。ドウモノボセテ顔ガ熱イノデイケナカッタ

▲▼30ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月27日(日)

天気 晴及曇リ

時事 久邇大将ノ宮本日午後セイキョアソバサル
十一時迄寢ル 顔熱ク気持チヨクナカッタ
午後小供ノ写真ヲ取ツテヤル 夜現像 ヨク写ツテ居タ
信太郎ノ學友数名來テ夕方迄賑カニ遊ンデ帰ル
色々考慮ノ末中學ヲ東葛中學、工業ヲ保善トニ校受檢サセルコトニ大体定メ尚先生
ニ相談シテ見ルコトコト

▲▼31ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月28日(月)

天気 晴

朝上京 帰場ノ途藤森ニ会フ 宅ヨリ工場ニ行ク 橋本国モ來テ居タ 決算ヲ見タガ
完成シテ居ナカッタノデ返ス 藤森ノ件ニツキ打合せ結果田中ヲ諏訪ニ同道セシムルコ
トニナル。橋本ヨリ所沢工場員ノ空氣不穩ヲ聞キ明夜行クコトヲ約シテ帰ス
三橋亭ニテ夕食ヲ共ニシテ帰ル

▲▼32ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月29日(火)

天気 晴

定刻工場出 大蔵三前田ノ件ヨク云ヒフクメ上京サス
終日工場 夕方帰り夜写真ノ焼付ヲナス 五十燭ニツツケタラ、ヒューズガ飛ンデ三
度モツナイダ 十時頃ツヒニ外ノ故障デ停電 終夜ツカナカッタ
明朝行ノ旨所沢へ打電ス

▲▼33ページ▲▼ 昭和4(1929)年1月30日(水)

天気 晴

今日ノ結果ガ氣ニナリ昨夜ハ三時間位シカ、眠レズ五時家内ヲ起テ六時起床 七時家

ヲ出テ道々モ今日ノ交渉順序ナド考ヘ九時半所沢着 高田ノ馬場ヨリ車中協会ノ別枝氏ニ会フ 山本ノ金六貫エルトノコトニ明日其廻ツタ金同人ノ鈴木渡シノ金ヲ借ルコトヲ考ヘル

上倉ニ老人ニ會ヒ今後工場ヲ引續キヤリタイガ旧費ノ返還方法ヲ具体化シテ中旬頃返事スルガ繼續シテ貸シテ呉レルヤ否ヤヲ念ヲ押ス。ムロン前ノトゴウリ家賃ノ方法サエツケバ貸ストノコトデ手土産ヲ居イテ橋本ニ行ク 上京不在 晝ニハ帰ルトノコトニ高橋ト浦山ヲ呼び今後ノ方針ト過己ノ成績 自分ノ考ヘ等ヲ話ス 大分諒解シタ様デアツタ

橋本帰り明日ノ打合せヲシテ上京 日日ヨツテ立川ノ大蔵ト電話デ前田君ノ打合せシタ 帰宅七時

◆◆34ページ◆◆ 昭和4(1929)年1月31日(木)

天気晴

七時起床 昨夜ノ計畫ヲムネニエガキツ、出懸ケル 割合ニ氣ガ楽デアッタ 今日ハ山本鶴一閣下ヲ初メテ見タ 電車ガ同ジデアッタノデ新聞ヲ見ルト千葉ノ學校ヘ今日秩父ノ宮殿下ガ御成ニナルト云ツテ居タノデ閣下ノ早イ出勤モウナツカレタ

山本ニ會ヒ今日帝國飛行協会ノ金取リニ行クコトニ同行スルコトヲ約シ鈴木ニヤル四百円ノ内式百円借リル約束ヲナス。工場ニ出テ用件ヲト、ノエ山本同道上京 協会ニテ千円受取ル 知覧君ニ会フ。電飾ノコト丁度会见方尽力ヲタノミ、佐藤ニ行キマダ來テ居ナカッタノデ小木曾ノ買物ニ行キ帰ルト菊池モ橋本モ來テ居タノデ菊池二百円橋本ニ五十円ヲ渡シ附近デウナドシ共ニ喰テ神田駅デ分レ日日ニ行キ吉田氏ノ百弍十円ヲ領収書ヲ出テ大蔵ニ置キ手紙ヲナシスグ帰宅 ヤ、ノンビリト、シヤシンノ焼付ナドシテ終ル

◆◆35ページ◆◆ 2月

航空タクシー

夜間広告飛行

◆◆36ページ◆◆ 昭和4(1929)年2月1日(金)

天気晴

昨夜オソク田中ヨリ明朝八時佐藤ヘ電話スルトノコト

六時半起床 八時十分前佐藤ニ行ク 九時二十分漸クカッテ來タ 三百円デクツクヤ

ツテ呉レトノコトデアッタガ運賃ヲ別ニスルコトニ命ズ
局ニ行ク 課長來ラズ。安藤ノ証明書ヲ写シテ帰ル。頭ガ変デアッタノデ宅ニヨル 少シ
床ニ入ル 信太郎ヲ工場へ手紙持タセテヤル

▲▼37ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月2日(土)

天気晴

九時工場出 三葉風強ク試飛行不能
保険署六日迄延期シ手紙ヲ持参サセル 其他モビールノ契約書ニ調印 他数通手紙ヲ
書キ一時半帰宅ス
大蔵ニ前田ノ方ニ型不調ノ場合山本ニ交渉スルコトヲ命ズ

▲▼38ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月3日(日)

天気晴

八時起床 信太郎中學撰定ニ學校へ行キ宇野先生ニ會テ相談ス 少シ頼リナカッタガ
佐倉ト保養工業ニキメル 帰ツテ写真ヲ写シ夜現像 午後吉田氏訪問ト思タガツヒニ
中止

▲▼39ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月4日(月)

天気晴

朝工場ニ出テ上京
吉田氏ニガソリン十五函日米デ取ツテ貰フコトヲキメル

▲▼40ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月5日(火)

天気晴

七時大蔵ニヨリ工場ニ行ク 三葉試験ツヒニ出來ズ
菊池行キ違ヒスデニ所沢へ出発 止ムナクスグ上京 押上ヨリ所沢へ電話シ高橋ニ万一
金不足ノ場合ノ注意ヲ與へ、局ニ行ク 課長イソガシク今日、タクシーノ願書出シソコ
ネ工場三型ノ險(マ)查明日ノコトダケキメテ函根ニ行ク 十五日ニシテ呉レトノコト。
日日ニ行ク大蔵ヲ待ち、前田ノ方タノミテ帰宅。帳簿記入少時

▲▼41ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月6日(水)

天気晴

六時半起床 八時工場出 行きニ鈴木克三ヨリ今日金來ルコトヲ確カメテ工場ニ行ク。河原木ニトラックノ件話シ心配サセルコトニス アプロ引取ノ爲メ

三葉試飛行二回 良

辻本松浦氏來 工場甲三完成済ミ 十年式胴体内部検査 クック翼検査ヲ受ケル。クックハ手入後又見ルトノコトデアッタ

小栗ノ使立花來 一型ノ見積リ渡シ内金ヲ頼ム

鈴木克ヨリ式百円受取ル スグ保健署、税金ヲ持タセテヤル 橋本浦山來 職工工賃ノ件明後日百円持参ノコト アト金策ノ上、大毎機材料廻スカラ完成ノコトニテ浦山帰ル 本橋(ママ)ニツイテ八十年式完成後暇ヲヤルコト

◆◆42ページ◆◆ 昭和4(1929)年2月7日(木)

天気晴

十時土浦着 金星ニヨル マダ來ナイトノコトニ飛行場へ先キニ行ク。関根ニ行キ中島組ノイス。パノヲ三十円トシテ十五円現金支拂ヒ隊ニ行ク 倉庫ノ前ニ信田君ニ居タ。コチラエ來ルトノコトニ待ツコトトス 午後一時全部アツマリ拂下品ヲ見テ散会 中務佐藤君片岡ト土浦ニ行キハックス試運轉。後スローキク様ニシテ前ノ金具ヲ動ク様ニスルコトヲ命ジ運送店ヲ聞キ合セ明日發送 領収書ヲ持ツテ金取りニ來ルコト。式百七十円現金渡ス處此度ノ分ヲ三百円ダケ呉レアトノデ差引スルトノコトニ其通りニス

五時十五分ニテ帰宅。食事中、葛西來 局カラ願書脚(ママ)下ニナッタト云ツテ來タカ尚ヤル氣アルノカ否ヤヲ聞クトヤルトノコトニ書類ヲ預ル

◆◆43ページ◆◆ 昭和4(1929)年2月8日(金)

天気晴

六時宅ヲ出テ工場ニ行ク 田中ニ所沢行キノ打合セシテ前田ノ金取レナイノデ、日本飛行學校ノ分ヲ五十円廻スコトニス。葛西ノ願書渡シタクシートノ關係ヲウマクヤルコトヲ考慮サセル

十時四十分發ニテ中務信田等ト一所ニナリ十二時田浦着 先着ノ井上、川辺氏等ト同道軍需部ニ行キ二回ノ入札デ尚予算ニ達セズ千五百円迄セリ上ゲタガ先方ハ式千百円ノ予算 ソレデモ契約書ダケ居イテ行クトノコトニ望ミヲ残シテ帰ル。日ニヨル前田マダ。鳥飼ニヨル。ライトプレーン寄附ノ件ニツキ用件アリトノコトニ用ヲ済マセテスグ帰宅

◆◆44ページ◆◆ 昭和4(1929)年2月9日(土)

天気晴

八時工場出。西田、菊池、西田ト作業ノ打合せヲナス 皆金ニコマツテ居タ。田中ニヨル。ビラ散布料這入タラ少シツ、分ケル様云ヒ居イテ上京 局ニ行キ検査ノ打合せ 三葉ト藤田ハ木曜日十四日 火曜日十年式トクックダケ見ルコト

新井サンニ輸送会社ノサルノ件聞ク 森川氏ガヤツテ居ルトノコトニ工場ノ立場ヨリ森川新井両氏ニ諒解ヲ求メ尚課長ニタクシート安岡使用ノコトノ諒解ヲ得サルノ事ニ及ブヤ、君ノ方ハ作業ガ悪イカラ推セン出來ナイガ注文サレルモノハ、ジヤマニハシナイトノコト。シヤクニサワツタガ止ムヲ得ナイ。北山ヲ呼ビ何ニカ話シテ居タガ多分仕事ノ事デアロウ

日ト鳥飼ニヨリ、佐藤ヨリ電話ヲ借リテ所沢へ藤田ヨリ五十円受取ル様高橋不在ニツキ家内ニ話ス。アンリオ荒木空中輸送ノ爲メ出張中 風強ク飛ベナイカモ知レヌトノコトデアッタ
佐野ニ塗料ヲ注文シテ帰ル

◆▼45ページ◆▼ 昭和4(1929)年2月10日(日)

天気晴

九時起床 平松ノ來ルノヲ待ツタガツヒニ夕方ニナル 佐々木、小西カラ來タ手紙持参 近日必ズ行クトノコトニ稍安心。ソコへ平松來 輸送会社ノ内容大分聞ク 飛行士ノ報酬ノ少ナイノニ驚イタ 其他大分知識ヲ得タ 明日森川、輸送会社ニ行ク予定ダガ金ナク鈴木克衛ガ呉レバヨイガト心配ス

遠藤辰氏來 横廠最(ママ)非貰フトノコト 実ハ小西へハンサーノ代リニヤルベク丁度手紙ヲ書イタ處デアッタノダカ中止ス 安藤へ手紙出シ遠藤へ賣ルコトノ照介(ママ)ヲナス花ヲ引キ十一時ニ及ブ 田中東京ノ帰リニヨル。明朝ノ米ガ無イトノコトデアッタガ十二時ニナツテ、ソシナコトヲ云ツテ來テ、ドウナルモノデナイ 明朝ダケ何ントカスル様事傳テ帰ス

◆▼46ページ◆▼ 昭和4(1929)年2月11日(月)

天気晴

六時前起床 八幡神社へ信太郎ト写真写シニ行ク途々中學準備ノコトヲ云ヒ聞ケル。八幡神社ニ参拜 一枚写シテ帰宅。後工場ニ行ク(米ノ事ガ氣ニナツタカラ) 昨日渡辺ヨリ取ツタトノコトニ一安心シテ帰リニ、西田ニヨルト今所沢ヨリ來電アリ 職工ケイサツニ相談ニ行クマイカトノコトデアッタトノコトニ、スグユク待テト打電サセ帰宅シタガ金ナク五十銭デア上京 日日ニ行ク 大蔵ヨリ五円借り前田ノ金マダ見込ミナイノデ止ムナク、其儘所沢行キ 橋本宅へ高橋浦山ヲ呼ビ一週間内ニ五百円作ツテヤルコトヲ約

シ差當リ明日藤田ヨリ百五十円又八四百円取レルコトノ手紙ヲ高橋ニ渡シ諒解サセル
心配シタヨリ、アツケナク終ツタ 帰途吉田氏訪問シタガ不在 明日会社へ御伺ヒスル
旨云ヒ居イテ帰宅 十時

▲▼47ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月12日(火)

天気 晴曇リ

午前中局提出書類ヲ作製

且代君ヨリ川辺ノ奨励金願書ニ捺印セルモノヲ受取ル 尚且代ヨリ學校ヲ止メルニツキ
安岡ニ學校ノ方ヲ手傳テ貰ヒタイトノコトデアッタガ其困難ナルコトヲ話ス 尚考慮ス
ルコトトナル

辻本氏來 十年式クック検査。午後四時頃ニナル

午後上京 輸送会社ト局ニ行ク 予定宜シ

定刻終リテ帰宅

金ナク發動機廢品整理 三十一円入金シ米トサンソヲ買ツテ丁度ニナル

▲▼48ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月13日(水)

天気 晴

工場ニ出テ上京 安藤君ニ会フ 遠藤ノ話シスル 一切マカセルトノコトニ午後早速遠藤
ニ行キ決定セルコトヲ話ス 十日以内ニ全額金作ルトノコトデアッタ

本日函根ノ明後日ノ受取金ヲ以テ鳥飼氏ヨリ五十円借り明日ノガソリン代其他ニ當
テルコトトス

▲▼49ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月14日(木)

天気 晴

辻本氏森氏來場 三葉検査アルノデ八時工場出 重心試験ニ晝過ぎ迫カハリ二時ヨ
リ二回飛行 上昇悪シク、少シテールヘビーニツキ同乗者ナシデヤッタラ丁度ヨカッタ。
ソレダケノコトデ堪航証ヲ先ヅ出シテ貰フコトヲ依頼ス 補助金出ルナラ便宜ヲハカル
トノコトデ明日ハ所沢行クカラ明後日局へ來テ呉レトノコト

夜遠藤辰へ田中ヲ金内金貰ヒニヤル

田中大蔵申出ノコトニテ障(ママ)突。田中ガ云ワレル様ナコトヲシテ居ルノモ悪イガ大
蔵モ人前モカマワズ、云フノモヨクナイ

▲▼50ページ▲▼ 大正8(1919)年2月15日(土)

天気晴

朝所沢へ電話ヲカケル爲メ押上ニ行ク 一時間半カ、ル
今検査ノコトト藤田ノコト打合セテ工場ニ出ル 昨日田中上京ノマ、帰ラズ 夕方鈴木
菊雄ニ金ノコト話シタガ出来ズ帰途小田君ニ立寄り早く帰宅ス 夜九時頃田中来 遠
藤ノ方二十三時頃トノコト 金ナイ由 拂下納金ノ通知ハ來テ居ルシ閉口 心細クナル
田中ト二時頃追話シテ帰ル

此頃所沢ヲマカセルコトニシタノデヤ、乗氣ラシイ

今日ノ心配デ又眠レナカッタガ先日來ノ話シノ片岡ヘイヨ、十年式ヲ赦スツモリデ明
日行クコトトス

▲▼51ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月16日(土)

天気晴

起キニクカッタ 八時起床 終日心痛ノ余リ頭ガ変デアッタ 自カラ元氣ノナイ事ガワ
カル

上京 局ニ行ク アト補助金ナク來年度トノコト三葉モ其事トス。然シ今月來月又無
収入デハ困ルノデ考ヘタ末片岡ヲ訪問 十年式賣ル事ノ話シヲシタ處三葉ノ内金取ッ
タ方ガヨカロウトノコトニイヅレニシテモ先方ヨリ廿二三日頃來ルトノ手紙ガアルノデ其
上ノ事トシテ晝メシヲ馳走ニナリ共ニ上京 鳥飼ニヨリ函根ノ金昨日取レテナカッタノ
デ明後日迄ニ何ントカシテ呉レトノコトニ受合ッタガ困ツタ。コレヨリ先キ協会三小松氏
訪問 馬話ノ件聞キ合ス ダメラシイ

日日ニヨル 大蔵立川行

工場出 四時鈴木カラ五十円這入ツタトノコトデー一寸安心 田中ヲ明夜島田ヘ立たセ
ルコト、ソレカラ所沢ヘ行クコトノ打合セシテ帰ル

▲▼52ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月17日(日)

天気晴

九時宅ヲ出テ高見氏ニ行ク 道々所沢ノ事氣ニナリ上野ヨリ高橋ニ電話シテ居ク。丁
度晝頃高見氏宅着 晝食ノ馳走ニナリ酒ガ出タ 食事中カラ食後ニ工場ノ話シ出ニ
百円借入申込ム 明後日望月氏ヨリ三千円材料代借り出スコトニナツテ居ルカラ内デ
融通仕様トノコトニ明後日午後四時京橋ノモクベート云フカフェエデ会フ約束ヲナシ、
尚工場賃金ニツキ自分ノ考ヘテ居タ三万円借入ノ件ヲ話ス 徳川氏ノ方ヘ話シ込シ、
見ルカラ工場ノ経歴ヲ知ラセテ呉レトノコトデアッタ 今、差當リ金ガ入ルカドウモ云
ヒ出セナカッタノデ小栗ニヨルコトトシ、高見氏上京ニツキ停留所デ分レ大森ニ下車 小
栗ニ行ク途中小栗君ニ會フ 之レカラ醫者ニ行クトノコトニ引返シ同車シテ新橋下車。

駅前ニテ話ス アト金出來ルダケツ、入レルトノコトニテケリ今日ハ金ナシトテスゴ、帰
ル

▲▼53ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月18日(月)

天気 雨

昨日午後カラノ曇リガ今朝來雨トナツタガ余リ降ラナカッタ。ソレデモ五十余日目ノ
雨トテ大嬉(ママ)ビデアッタ

朝起キル元氣モナク晝頃工場出。村山ノ妻君ノ花ニ会ヒ香奠ニ一骨折リ漸ク鈴木ヨリ
十円取り持ツテ行キ早ク帰宅 気分悪シ

宅モ米其日々々ノ買入レニ氣ノ引ケル事甚ダシ

明日高見氏ノ金ヲ樂シミニシタ處夜十一時頃望月氏廿三日帰ルイサイフミトノ電報ニ
接シギヤフント參ル

▲▼54ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月19日(火)

天気 晴風

北西ノ風強シ

晝頃ヨリ上京 局ニモ行ケズ函根土地(行ツタガ、ヤハリ廿五日ニシテ呉レトノコト 同
日ヲ約シテ日日ニ行キ大蔵ニ前借リヲ頼ミ、遠藤、高見氏ニ手紙出ス 小西ニモ。鳥飼
ニヨリ廿四日迄五十円ノ立替金延期ヲ乞ヒ佐藤ニ行ク 函根ノ分デ話シ仕様ト思ツタ
ガツヒニ出來ズ、帰宅 早ク床ニ入ル

▲▼55ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月20日(水)

天気 晴

大蔵ニヨリ工場出 荒木退所シタシトノコト大蔵ヨリ聞ク 呼ンデ留マル様ヨク話シタガ、
ドウモアヤシイ

樋口大友午後休ム 西田菊池午前休ミ 最モ材料ソロワズ仕事モ上々 女工六午後掃
除ヲサセル

諏訪出張ノ門松ヨリス。パートロンゲロン見込ミナシトノ電アリ 丁度田中ニ東京ヨリ手
紙出サセタ後デアッタノデ取リアエズ今一度工夫セヨ結果知ラセト打電シテ居ク。橋
本國來 金貰ヒニダガコチラモナク一円電車賃ヲ渡シ大蔵ニ會ツテ借出シノ内五円持ッ
テ行ク様ニハカラウ。今日ノ懇談会欠席 橋本ト共ニ帰宅 帳簿記入ヲナス

▲▼56ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月21日(木)

天気 晴

終日工場

晝頃遠藤君ガ飛行機デ來タノデ嬉(ママ)ンダラ廿五日迄待ツテ呉レトノコト 念ヲ押スト外交員カラ送金シテ來ルノダソウダ 少々之レモアテニナクナツテ來タ
夜田中來宅 今日ハツヒニ工場ニ帰ラズ 所沢ヲヤルコトニツイテ打合せ大分乘氣ニナツテ居ルガウマクヤレルカシラ

▲▼57ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月22日(金)

天気 晴

時事 貴族院ニ於テ田中首相問責案(優待問題ニツキ)可決ス

今日田口ガ來テモ金ヲ持ツテ來ソウナ氣ガシナカッタ ハタシテ人ダケ來タ 明日入所手續キスルコト 金五百円持ツテ來ルコトデ帰ル

廢材ヲ整理シテ三十余円入金 米ヲ取ラセ小僧連ニ風呂錢トシテ五十錢ヅ、ヤル宅カラ金ガ十五円持ツテ來タ 保険ガカケラレズ無効ニナツタ爲メノ戻リ金二口デ百余円這入ツタ爲メデアッタ。之レハ昨日安岡ニ借リタ三円ダケ返シテ其マ、持ツテ帰ル
十月分決算ヲ終ル

待チニ待ツタガ片岡ノ方モ小西モダメ

今夜九時半工場東方ノ伊沢別荘焼ク 飛行場ト間違ヒ見舞ガ來タ由。放火ラシ

▲▼58ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月23日(土)

天気 晴

南風アタ、カ

三年越シノ説教強盗ツイニ捕ル 美ニ帝都ヲオビヤカシ議會ノ問題ニマデナリシモノ 前科一犯ノ廿九才ノ青年妻木松吉ト云ヒ左官職。内縁ノ妻ニ一女一男アリ 第一回ニ這入ツタ米屋ニ指紋ヲ残シタ事カラ発見サル。指紋ノ調査ニ四十万枚ノ中ヨリ一週間カ、ツテサガシタ由

田口ヲ樂シミニ工場ニ行ク 晝ニナツテモ來ラズ 田中ヲ呼びニヤル 昨夜アスケヌ国へ帰ツテ來ルカラ少シ間ヲ呉レトノ電報ガ來テ居タ

スグ田中ニ支度ヲ命ジ帰宅 御産ノ準備金ヲ十五円旅費トシテ取り菅野停留所デ待ツ 随分待ツテヤット田中來 所沢ニヨリ諏訪ニ行カセル 上野デ分レタガ丁度四時 自分ハ大森ニ小栗ヲ尋ネル 今日入院シタトノコトニ片岡ニ行ク 不在 帰途々中デ会フ 今日岐阜ニ出張スルトノコト 來レバスグ電報ニヨリ引返ストノコトデアッタ 之レモ先ヅダメトシナケレバナライ

遠藤ニ行ク 不在 名刺ニ明後日金ノ件ヲ頼ミ会場所ヲ電報デ知ラセテ貰フベク五

十錢置ク。高見氏訪問 不在 局ノ通知書ト名刺ニ明日ノ会见打合セヲ書イテ預ケ
帰宅 九時過ぎ 十一時床ニ入ル

▲▼69ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月24日(日)

天気 晴風

四時ノ約束ニテ上京 五時高見氏來 竹村氏金都合悪シク大連ヨリ取り寄セル間七
日乃至十日間待ツテ呉レトノコトニガツクリシテ帰ル

▲▼60ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月25日(月)

▲▼61ページ▲▼ 昭和4(1929)年2月26日(火)

▲▼66ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月2日(土)

▲▼67ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月3日(日)

先月末ヨリ今日迄金策ニ東奔西走シテ成ラズ 所沢津田沼共ニ行キツマリ打開ノ道一
寸ナク閉口 尚金策ノ外ナシ。ツヒニ昨日知覧君ヲ相談ス

▲▼68ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月4日(月)

天気 晴

六時二十四分船橋發後車デ小見川行き 猿田ニ會フ クレルジ一賣込ガ借金ノ件タノ
ム 共ニ銚子ニ行キ飛行場ヲ見テ犬吠ニテ晝食ノ馳走ニナリ來週火曜日ニ二百円約手ニ
テ六十日間融通ノ約束ヲ得四時二十分銚子發ニテ帰途佐倉ニヨリ、中學ニテ入學手
續キ聞ク スデニ六時過ぎ 眞クラナ道ヲ京成ニ出テ帰宅

川辺氏來 鈴木克衛氏來。カスミヶ浦ノアブロ其マ、野外ニオイテアルトノコトニ明日早
ク関根へ引取り方打電スルコトトス

◆▼69ページ◆▼ 昭和4(1929)年3月5日(火)

天気 曇リ

七時ニテ上京 大崎ニ知覧君ヲ尋ネ山下氏、内藤君デ金貳千円聞イテ貰フコトヲ頼ミ高見ニ行ク 昨日手紙ニテ竹村ヨリ四五日内ニ來イトノコトデアッタトノコト明後日ヲ約シニ三十日聞イタガナク知覧氏ニ會フベク東京駅ニ歸ル 奥田氏ニ久シ振リデ會フ 知覧ノ方内藤ダメ 山下氏明後日先方へ行クトノコトニ其翌日ヲ約ス 尚宣傳飛行ニツキ松坂屋ノ方ヲ交渉タノム。小栗ヲ見舞ヒ三十円話シタガ出來ズ 五円ダケ受取ル 夕方帰宅。金太郎來ラズ

八時頃田中來 アトへ菊池、西田、荒木來。大友辭表受付ケル 荒木辭職願ヒ預テ居クコト 今日米ナク其爲メモビールデ融通 田中ト西田口論セシ由 十時過ギ皆歸ル 田中十一時過ギ歸ル

井上長一ヨリ株式会社ヲ作ルトノ手紙アリ。コレニ合同サセテ自分引退ヲ考慮ス

◆▼70ページ◆▼ 昭和4(1929)年3月6日(水)

天気 曇リ

今日ハ終日自宅 明日ノ準備トシテ小栗ニ打電

其他二三手紙ヲ出ス。井上長一株式会社ニスルトノコトニ幣(ママ)社合同考慮ヲウナガス手紙ヲ出ス

エミ子、仁三郎ヲ連レ打電ノツヒデニ鴻ノ台ヲ散歩 歸リニ、シルコヲ喰サセテ歸ル 仁三郎、クタブレテ夕食モ喰ベズニ眠リ早ク寢小便ヲス。ツミノナイモノダ

今日ハ静養ノ方ダガ反ツテ静養ニナラナイ ヤハリ外ニ出テ活動シテ居タ方ガ氣持チモヨクヤツテ居ル間ハ、ソレガ成功シヨト否トニカ、ワラズ張合ノアルモノダ

◆▼71ページ◆▼ 昭和4(1929)年3月7日(木)

天気 晴

マチカネタ日ナノデ時間ヲハカリ小栗へ行ク 金ナク明後日來テ見テ呉レトノコト ガツカリシテ東京駅ニ高見氏ヲ待ツ 一時半着 藤原ニ時信田君ト來 アブロン件タノマレテ四時迄待ツタガ高見氏來ラズ 日日ニヨリ大蔵へノ事ツテヲタノミ米代ヲ心配シテ鳥飼氏へ寄ツタガ不在 止ムナク帰宅 夕食後宗里ニ行ク ヤハリ不在 スグ工場ニ行ク 金太郎居ラズ、田中ニ會フ 明後日迄アルトノコトニ一寸安心 小西ヨリ又近日行クトノ、ハガキガ來 居所ガ變タトノコトデアッタ 西田ニヨリ西田ヨリ菊池其他ノ態度ヲ聞ク 荒木辭職届ヲ出シテ居タノハ西田ニ預ケル

明晩荒木自宅へ來ル様話シテ居ク 十一時帰宅就寢

▲▼72ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月8日(金)

天気 曇晴

八時半諏訪分着 高見氏ニ會フ 昨日丁度皇后陛下ノ東京駅御到着ヲ丸ビル前デ拝シスグ待合室ヘ行ツタトノコトデアッタ 丁度一足違ヒデアエナカッタ。結局尚二三日待テトノコト 十二日頃ニナルノダ。寒ニ困ツタガ止ムヲ得ズ知覽君ニヨル。山下氏ノ甘ハダメトキマル今日四時ニ會フトノコトニ六時東京駅ヲ約シ自分ハ榊原氏ニ會フベク湯島ヘ行ツタラ早稲田トノコトニ行ク 不在會エズ 此上ニ友野ニ頼ムツモリデ鳥飼ニ行キ差當リ明日ノ米代トシテ十円ダケ口実ヲ作り借り友野ノコトヲ話シタ處ソレヨリ夜間飛行ノ方早く契約シテ金ヲ取ツタ方ガヨイトノコトデ、明日打合せノ事トナリ知覽ニ會ヒニ行ク 山下ノ方ダメ 明日榊原ヘ知覽君ヲタノミ、佐野ヘ金ヤレヌ事ワリニ行キ佐藤氏自宅ヘ塗料ノ金ノ相談ニ行クガマトマラズ明日上京ノ節ヨツテ見テ呉レトノタヨリナイコトデ帰ル 九時田中來テ居タノデ米代事ツケル

▲▼73ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月9日(土)

天気 晴

東京駅ニテ知覽君ト會フ 榊原出來ソウダトノコトデタ方自分デ行ツテ見タガヤハリダメデアッタ

▲▼74ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月10日(日)

▲▼75ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月11日(月)

天気 晴

朝久シ振リデ工場ニ出ル ヤハリ工場デ作業ヲ見テ居ルノガ氣持ガヨカッタ。栄助、ミツヤ、女工金ノ請求ヲ受ケル 午後上京 小栗ヘ検査願トビラノ許可願ヲ持參シ、高見氏訪問 四月デナイト利子ノ計算月デ金ガ來ナイトノコト 明後日塗料金百円ダケ借リルコトヲ約シテタ食ノ馳走ニナリ、帰途赤坂ノ岡田勇ヲ訪問 手形延期ノ件ヲ頼ミ承諾ヲ得テ佐野ニ明朝渡ス金ガ出來ナイノデコトワリニ寄ロウト思ツタガ時間オンク帰宅 十一時半

本日ノ記事八十二日分ナリ

▲▼76ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月12日(火)

天気 晴風

七時佐野君來 今日中ニ何ントカシテ百円ダケ最(ママ)非作ツテ呉レト長イコト話シテ
帰ツタガ見込ミ立タズ十一時迄床ニツキ正午ヨリ上京 小栗ニ行ク 行違ヒニ立花三三
十円持タセテヤッタトノコト 尚二十円取り佐野ニ行キ明後日猿田ノ分デタ方百円ダ
ケ持参ノコトヲ約シスグ帰宅。今日佐野ニ渡スツモリノガ、ヤラナカッタノデ靴ヲ一足
求メ小供ガ産レルト必要ナノデ先日來タノマレタ湯上ゲヲ一ツ求メ帰宅
夜鈴木克衛君來 アブロ請求ヲ受ク

本記事八十三日分ナリ

▲▼77ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月13日(水)

天気 晴

本記事八十一日分

上京 明日猿田行キノ旅費トシテ小栗ニ行キヤット式十円受取ル 友野ニ行ツテ金ノ
相談シタガ駄目

夜田中來 終電車迄又計畫ナルモノ學校ヲ話シテ帰ツタ。ガアトデ聞ケバ乗リソコネ
津田沼迄歩イテ帰ツタトノコト

▲▼78ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月14日(木)

天気 晴

朝工場ニ出 後チ上京 小栗ニ行ク 高見氏ダメ 明日ヲ約ス

午前三時頃家内ガ陣痛ヲウツタエ一時頃カラ初マツタトノコトニ御母サントお金ヲ起シ
近所ノ産婆ヲ頼ミ準備シ自分ハ床ヲ方付ケテ小供ト一所ニモグル 四時前産婆來 四
時頃ヨリ、ウナリ声ハゲシク四時三十二分生声ヲ聞ク 女トノコトデアッタ。昨夜湯上
ヲ買ツタノガ丁度間ニ合ツタ

▲▼79ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月15日(金)

天気 晴

猿田行き 五時半出ル 九時半小見川着 不在 千葉へ行ツタトノコト 電話ヲカケテ
貰フ 良三氏來 電話ノ結果、金出來ズ増田氏ニ話シテアルカラ、同人ニ作ラセテ呉レ
トノコトデアッタ由 増田氏ヲ呼ビニヤツテ呉レタガ、ドコカ行ツテ居テ中々來ラズ三時
頃漸ク会フ 同氏ヨリ河久田氏ト云フノニ話シ猿田氏ノ引受ガアレバ貸ストノコト 夕
方漸クキマル。再ビ猿田氏ニ電話シ明朝一番テ帰ルトノコトニ泊ルコトニナル。今朝都新
聞ノ運勢ニ午前中ハカドラズ午後人ノ尽力ニヨリマトマルトアリ 丁度ヨク當テ居タノニ
ハ驚イタガ猿田ノ帰ル迄ハ安心ガナラナイ

◆▼80ページ◆▼ 昭和4(1929)年3月16日(土)

天気晴

七時頃起キデ又良三氏ト話シ会フ 話シモツキテ九時十時ト待チヤツト十二時ニ猿田
帰ル。スグ河久田へ行ツタラシク一時頃ヤツト会フ 河久田へ同道シテ三百円五月末日
ニテ借リル 利子五銭。スグ二時四十分ノ自動車ニテ佐原ニ出成田迄自動車ニテ行き
電車ニテ津田沼下車 工場ニ行き菊池ニ塗料ノ金ト外ニ小遣等百十円ヲ渡シテ帰宅。
帰途西田、安岡ニヨル 九時半頃ニナル。佐野利一君來 八十円ダケ渡ス

◆▼81ページ◆▼ 昭和4(1929)年3月17日(日)

天気晴

八時前宅ヲ出テ高見氏ニ行ク 十時着 今日ハ大丈夫ト思ツタニマダダメ 明日鳥飼
デ会フコトニシテ、スグ小栗ニ行ク 玉子ヲ見舞ニ持参。駅前ニテ晝食 吉田氏へ行ク予
定ナリシモ高見氏ノ金出來ズ。カスミヶ浦ニ行クコトニ決シテ関根ニ打電 馬車ヲタノミ
一時半ニテ行ク 三時着 馬車手配出來ズ 明日頼ムコトニシ三十円内金渡シ、中島
組ニヨリ運賃ヲ聞ク。御思召トノコトニハンサー引取りノ時ニ一所ニ拂フコトニシテ七時
ノ汽車デ帰宅。荒川沖ヨリ明日朝七時半迄ニ高野ガ高梨自宅へ來ル様打電ス。田中橋
本待ツテ居タ由

◆▼82ページ◆▼ 昭和4(1929)年3月18日(月)

天気晴

オダヤカナヨイ彼岸ノ入りデアッタ 照子ノ役場ニ登録ニヤル 大倉ヨツテ上京 夜來ル
トノコトデアッタガ、ツヒニ來ナカッタ
コト外七時半高梨高野二人トモ昨日上京 マダ帰ラナイトノコトデ佐々木來 カスミヶ
浦ニヤル 夜九時帰りニヨル 馬車明後日デナケレバナインノデ積込ミハ向フデヤツテ呉レ
トノコト 尚四台デ行クカモ知レヌトノコトデアッタ

二時鳥飼ニ行キ先日ノ十円返ス。高見氏置き手紙ニテ又明日トノコト。東京駅デ二時ニ会フト書イテアッタ。小栗ニ行キ鉄道省ノ井原氏ニ照(ママ)介ヲ貰フ。立花來ラズ金取レズ。橋本トハ時間行違ヒニテ会エズ。帰宅。七時頃來ル。橋本ニ三千五百円、金出來ル迄予定シテ証書ヲヤルコトニ話ス。荒木來。クレルジーホシイトノコトデアッタ。

◆◆83ページ◆◆ 昭和4(1929)年3月19日(火)

天気 曇雨風

今日ハ信太郎ガ佐倉中學ノ受験日。清平ニ同行サセル。六時半ニ食事モ終ツテ内ヲ出テ行ツタ。ウマクヤツテ呉レ。

八時宅ヲ出テ千葉ノ保険署ニ行ク。署長ノ來ルノヲ一寸待ツ。イロ、事情ヲ話シ二月分ヲ明日。アト一月分今月中。四月ハ一月分。出來レバ三月分。出來ナケレバ五月ニ五ヶ月分ヲ一度ニ入レル事ヲ申入レル。ヨク諒解シテ呉レタ。ソレカラ被保険者ヲ調べテ貰フ。工場ニ出ル塗料來テ居タノデホツトシタ。岡田勇ノ手形北川ノ手紙田中記入發送。荒木ニクレルジー約束百円受取ル。アト未給ニテ差引ノコト。本人ハコレヲ未給ノ方打切ツテ呉レトノコトデアッタガ尚余リガアルノデ自分ニ六心苦シカッタガ、イツレトモ決定ヲ與エズ。橋本国ノ証書作ツテ居クコトヲ田中ニ命ジ上京。明日ノ約束ノヲ明日保険署ニ持參サセル。二時東京駅ニテ高見來ツヒニ金出來ズ。アトハ一寸見込立タズ。今月中トノコトニアキラメルガ吉田氏ニ何ント云ツテヨイヤラ今日ハ、トテモ会フ氣ニナレナカッタ。橋本国ニ田中ノ分トシテ式十円ヤツタガ尚十円取ラレタ。明日大垣へ立ツコトニナルカラトノコトニ田中ヲ電報デ所沢へ行クコトニサセル。橋本ノ名デ打電。証書明日午後六時佐藤デ会フコトニシテ、知覽君ト松坂屋ニ行ク。永ク待ツタガツヒニ話シハ予算ガナクテマトマラズ。押上ニテ名刺ヲ注文シ、小栗ニ電話シタガ立花居ラズ、金ノ件分ラズ帰宅。

信太郎ノ受検様子ヲ聞ク。一ツばかり答案ヲ書カナカッタ外ハ皆書ケタガ一ツ面白クナイノガアッタ。ハタシテドウカシラ。

◆◆84ページ◆◆ 昭和4(1929)年3月20日(水)

天気 晴

午後上京。小栗ヨリビラ残金受取ル。

夕方佐藤ニテ橋本国ニ会フ。田中、中ニ這入ルコトヲコバンダトノコト。別ニ中ニ入レルツモリデハナカッタガ兎ニ角契約書ヲ書イテ呉レトノコトデ書類ヲ見タ。外ニ手形ヲ、ソエルコトトノコトニ明日手渡しスルコトニシテ九時頃迄夕食ヲ共ニ別レテ帰ル。

井上長一ヨリ手紙來。廿五日頃上京スルトノコト。会社ノ件考慮スル。国立ノ趣意書呉レトノコトニ明日川上ヨリ受取ルコトトス。

◆◆85ページ◆◆ 昭和4(1929)年3月21日(木)

天気晴

清平ニ佐倉ヘヤル 十一時過ぎ帰ル 幸ヒ合格シテ居タ ヤハリ嬉(ママ)バシカッタガ入
学費ガムネニツカエル

午後上京 小栗ヨリビライノ残弁阿佐ヶ谷ノ吉田氏訪問 廿四五日頃迄ニ最(ママ)非解
決シテ呉レトノコトデアッタ 所沢ノ九号機モ今月中ニ何ントモ出来ナケレバ立川デア
ルトノコト 之レハ何ントカシテ完成サセネバナラナイ。五時鳥飼ニ行キ橋本国雄ニ会フ
契約書ト手形渡ス。エビスノ川上ヲ訪問ス 不在 明日來ル旨ヲ女中ニ依頼シテ帰ル

◆◆86ページ◆◆ 昭和4(1929)年3月22日(金)

天気晴

八時半工場出 関根ト小西ヘ電報ヲ出シ、横浜飛行ノビラ撒布來ルヲ待ツ 晝頃ヤツ
ト來テガソリン代五十円ダケ持参 アト立川ニテ渡ストノコトデ明朝持参セシムルコト
トス

運送店カラ諏訪ノ飛行機ノ件ニテ來 田中呼ビニヤリ結局廿五日迄ヲ卅一日迄ニ解
決ヲ延期スルコトトス

スグ上京。東鉄案内所ニ茂手木氏訪問 千葉飛行ノ件交渉。活動ノウツス計畫アル由
ホゞ料金ヲ話シ追ッテ料金表ヲ送ルコトトシテ、久シ振リデ航空局ニ行キ補助金ヲ取
調ベル 割ニ皆沢山クレル様ニナツテ居タ 安岡ノ免状ヲ貰ヒ、数見氏訪問 不在 妻君
ニ会ッテ川上ニ行キ国立飛行機ノ書類ヲ貰ヒ、東京駅ヨリ井上ニ發送シテ帰宅 約八
時 夕食後少シ話シテ床ニ入ル 今日モ金出來ル迄ニイタラズ。

◆◆87ページ◆◆ 昭和4(1929)年3月23日(土)

天気晴

朝工場出 ビラ屋來タガ金持ッテ來ズ 立川ニテ渡ストノコトニ東日ヘ午後届ケルコトヲ
約シテ出發サセル。然ルニツヒニアヤシク小切手ニ金ニナラズ
明日ノ米ニ差支ヲ來スコトトナル

昨夜九時頃到着シタトデアブロ式機馬力四台來テ居タ 金ナク昨夜鈴木ノ三十円ト
工場ヨリ十円四十円渡シタ外ニ鈴木ヨリ十五円借りテ渡ス アト月曜日ニ送金スルコト
トス

◆◆88ページ◆◆ 昭和4(1929)年3月24日(日)

天気晴

午後ヨリ上京 小栗ヨリ明日返ス予定ニテ十円借り磯部氏ニ會ヒ平山トカ云フ出資ノ件 氣乗リセス、ヨイカゲンニテ帰ル。丁度金太郎ガ來テ居タノデ七円渡ス アスノ米代
暖イ春日和デ郊外ニ随分出タラシイ

▲▼89ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月25日(月)

天気曇リ

七時出 大蔵ニヨリ工場出 安岡ヨリ七十円受取り明日帰ルトノ昨日日付ノ電報ガ來テ居タ 作業ヲ見テ帰宅 航空タクシーノ願書書キ直スツモリノ處原稿ガドウシテモ分ラズ出來ズ 午後一時書類小供ヲ連レテ稿草(ママ)ニ行ク 四時頃田中安岡來 安岡一文モ持ツテ來ズ 今カラ取ツテ來ルトノコトニテ上京 田中三等受験ノコトト所沢行ヲ打合セテ帰ル

門松ヨリ手紙來 氣ノ毒デアッタノデ返事出ス

恵美子最高四十度五分 最低三十九度一分ノ熱デ心配ス

信太郎保善受檢 七時頃帰ル 本日スグ発表 ダメデアッタトノコト 三人同行一人通過シタ由

宗里氏ノ病氣ヲ見舞フ

▲▼90ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月26日(火)

▲▼91ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月27日(水)

▲▼92ページ▲▼ 昭和4(1929)年3月28日(木)

天気晴

時事 菊池良治大坂湾海岸ニテ墜死

上京ヨリ夕方帰ツテ夕食ヲシタ處へ工場ヨリ高野來。今堺ヨリ入電 菊池墜落重傷トノコトニスグアトカラ行クコトトシテ返ス 七時半大蔵ノ宅迄行ク 西田、今村モ來テ居タ 妻君モ泣キクツレテ居タガ、スグニ第二報ニヨリ死亡セル事ガ判タ 兎ニ角行カネバナラナイガ、今ノ場合自分デ行カレナイノデ、田中ヲ呼ビニヤル 近所デ四十円借り

大蔵新潟ノ四十円ト外ニ金物屋ニ、ラジエターヲ渡シテ五十円借り受ケ田中、今村、菊池弟ヲ出発サセ明朝ノ特急デ家内ニ西田ヲ付ケサセルコトニス。ヤレ、金ノ無イ時ニ困ツタコトダ。田中ニ六小西ヘ寄ラセル

◆◆93ページ◆◆ 昭和4(1929)年3月29日(金)

九時半ノ特急デ立ツノヲ見送ツテ早速金策ニ東奔西走ス 以下四月五日迄記入ナキモ金策ニカケ廻リタル外記事ナシ。シカモ一銭ノ借金モ出来ズ自カラ信用ノナクナツタコトニ驚ク外ナシ

◆◆94ページ◆◆ 昭和4(1929)年3月30日(土)

◆◆95ページ◆◆ 昭和4(1929)年3月31日(日)

◆◆102ページ◆◆ 昭和4(1929)年4月6日(土)

天気 晴風

時事 菊池告別式 麻布東町稱名寺ニ於テ

七時出テスグ寺ニ行ク 小サナ寺デアツタ 木暮氏一人來テ居タ ゴテ、準備シテ二時ニ丁度式ハ初メラレタ 自分ト川辺ノ弔辭ガアツタダケデアツタガ、水野氏、長岡氏等ガ來タノデ晴レ立ツタ。後計算ヤ礼状ヲ出スノニ六時頃迄カ、ル 支拂ハアト新聞廣告、印刷屋、井上病院。井上ノ礼ダケ残ル 香奠ヨリ弍百七十余円シテ貰フコトトス 計算書ヲ菊池ノ弟ニ渡シ残金モ渡シ受取リヲ取ル

ソレヨリ馬詰田中ト、ライオンニテ時間ヲツブス内馬詰ヨリ工場ニ対シ長谷川氏ニ、出資サセテハトノ話アリ馬詰自身ニ這入ツタ様子デアツタノデ、ソコヨロシクト、アタラズサワラズノ挨拶シテ居ク

日本橋迄ブラ、シ上野迄乗合デ行き、マダ早イノデ、ダルマニ入ル。モウ酒モ、サカナモウマクナカッタ。宿ハ田中ニ一寸電話サセルト今皆駅へ行カレタトノコト 十一時半ガ十時半ニナツタノダソウダ。大急ギデ駅ニ行き見送りヲスマセテ帰ル帰ル

◆◆103ページ◆◆ 昭和4(1929)年4月7日(日)

天気 雨

雨デモアルシ終日ユックリ寝タ 漸ク身体ノツカレモ多少慰(ママ)ヤス事ガ出来タ サー
又明日カラ金ノ心配ダ

◆▼104ページ◆▼ 昭和4(1929)年4月8日(月)

天気 曇リ

朝工場ニ行ク 栄助ガ工場内デ大声ニドナッテ居タ。ウルサイノデ会ワズ
晝頃上京 馬詰ト協会デ会见 告別式ノ計算書ヲ渡シアトノ支拂分擔ヲ定メル 自
分ノ方デ電通ト印刷屋ヲ引受ケ馬詰工場ノ支拂ヲタノム 之レデ、ヤ、平均スルコトニ
ナル。工場ノ件ニツイテハ最(ママ)非長谷川氏ニ一度会ワセル様ニ話シス 明日出發 行
キガケニ、ヨッテ行クトノコトデアッタ。小栗ニ行キ片岡ガ來ナイデ宅ニ行ク 皆不在
高見ニ行ツタガ不在 竹村氏ノ方ノコト手紙ニシテ書キ居ク 鳥飼ニ帰ルト片岡今帰ッ
タトノコトニスグ又大森ニ行ク。利子ガ二十五錢トノコト。ソレデヨケレバ出來ルトノコト
ニ止ムナク頼ンデ帰ツタガ、利子ニカコツケテ事ワル筈デハナカッタカト一寸ソソナ氣ガシ
タ 十時半帰宅

◆▼105ページ◆▼ 昭和4(1929)年4月9日(火)

天気 雨

シヤー、、大降りナノデ検査官來ナイト思ッテ静養スルコトトシ終日床ニツキ用件ダ
ケ手紙ニシテ、金ニ工場ハヤル。明朝ノ米ガナイトノコトデアッタ 信太郎ノ月謝モ明日
納入セネバナラヌノデ、今夕片岡ノ金出來テ居ル事ヲ祈リツ、五時頃ヨリ出懸ケル
片岡丁度來テ居タガダメ。寒ニ困ッテ、スグ数見氏ニ行コウト思ッタガ今日ノ金ニナル
見込ミナク明日ニス 久松氏ヲ訪ヒ、友人ニ会ツタノデ一寸入ルカラトテ三十円借リル
心ヨク社カラ借りテ貸シテ呉レタ。数見氏ニハ事情ヲ見シテ明日行クカラトテ速達ヲ出
シテ居ク

◆▼106ページ◆▼ 昭和4(1929)年4月10日(水)

天気 晴

暖イ風ナキヨイ春日和 桜ハ丁度見頃 ズイ分人ガ出タ様デアッタ
八時工場出 検査準備ヲト、ノエテ待ツ。駒林氏來場
其前二三帳簿ノ記入ト手紙ヲ書ク 根岸小栗(使)遠藤來。大蔵上京 安岡試飛行ス。
十年式一時十五分間飛行 地上共一時間三十分廻ス 調子ヨシ。鈴木甲二モ終ル。
小栗甲一発不良 クランクケース取替ルコトニナル。遠藤サル發内部未手入レノ爲メ追

テ見ルコトトナル 駒林氏随分勉強シテ呉レタ

五時終ル 久シ振りデ自分モ終日工場ニ居タ。根岸明日帰ツテスグ五百円電送ノコトヲ頼ム

清平ノ家ヲ借りニ上京ノ予定ナリシモ、オソクナツタノデ止メル 清平オソク帰ツテ來タ

田中京成ト所沢へ出張サセル。明日高橋ヤ浦山ガ來ルトノコトデアッタノデ來テモ仕方ガナイカラ其旨話シニヤル

▲▼107ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月11日(木)

天気 晴

上京 根岸ノ宅へ寄ルト請求書ヲ提出シテ呉レナイト金ガ出セヌトノコト 請求書ノ書方モ大ニアルラシイノデ、マゴツケバ日曜ニブツツカル恐レガアッタノデ今夜ノ汽車デ行クコトニシ根岸ニ打電。局ニ行キ登録申請ノ手續キラナシ、スグ工場ニ行キ今夜立ツコトヲ話シテ帰宅 十時宅ヲ出ル

今日カラ清平夜學ニ行クニツキ金ガ入ルノダガ兄カラ本代ダケ送金シテ來タ由 アト尚三十五円作ツテクレトノコトデアッタ

▲▼108ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月12日(金)

天気 曇後雨

五時静岡着 金ガトボシノデ駅前ノ宿ニ行クコトヲヤメ六時ニテ江尻ニ行キ駅前ニテ朝食 僅カニ二十銭ニ六驚イタ。ソレカラ時間モアルシ一度根岸ニ会ツテ居イタ方ガヨイト思ツタノデニ保ニ行ク。イツモノ舟ツキ場ト違フ氣ガシタガ上陸スルト御穂神社ニ近い方デアッタ アトデ聞クト飛行場迄二十七丁アルソウダ。ヅヒ分クタブレタ 根岸同道試験場ニ行ク 臼井氏親戚ニ葬儀アリ休ミ 請求書ヲ提出シタガ金ハ明日トノコト 困ツタコトハアスノ検査デアルガ止ムナク宿ヲ取ルコトニス。後 ■■ノ ■■ヲ見ルベク出カケタガ雨ニナツタノデ、スグ前ノ江尻旅館ニ入り小説ヲヨンデ終日ヲ終ル 西田ニ検査ノコト自宅へ泊ルコトノ打電ヲナス

▲▼109ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月13日(土)

天気 晴

八時半起床 朝食後領収書ヲ記キ十時試験場へ電話スル 根岸マダ、コナイトノコトデアッタガ兎ニ角行ツテ見ルコトニス 臼井氏ト話ス内根岸來 四百九十式円受取ル 丁度十一時二十分過ぎ スグ宿ニ引上げ根岸君ニ五十円渡し支拂ヲ済マセテ十二時一

分清水発ニ乗ル 非常ニコンデ居タノデニ等ニ乗リ替エル

四時半有楽町下車 鳥飼ニヨリスグ塩瀬デヨーカンヲ求メ朝日ノ久松氏へ此間ノ三十
円ヲ返シニ行ク 昨日電報ヲ請求シタトカデ、シキリニコトワリヲ云ツテ居タ 何ニカ話
シガアルカラ丁度ユツクリ來テ呉レトカ云ツテ氏ハ何處へカ出テ行ツタ。今日ハ美ハ仙台
定期ノ件ニツキ話シスルツモリデアッタガダメダツタ。帰りハ余リ永クナルノデ丸ビルニヨ
リ時計ヲ受取ル 修理費金三円 スグ帰宅

◆▼110ページ◆▼ 昭和4(1929)年4月14日(日)

天気 晴風

ユツクリ起キテ支拂ヒヲ計算シ残りヲ持ツテ工場ニ行ク 西田下志津へ行ツタトノコト
検査ノ模様分ラズ樋口ヨリ大体聞ク

信太郎津田沼ヨリ通学サセル爲メ連レテ行ク 追ツテ恵美子モ徳次モ御母サンニ免(マ
マ)倒ヲ見テ貰ツテ津田沼ニ連レテ來ルコトトス。樋口ニ弍十円ダケ渡シアトハ明日ノコ
トニシテ帰ル

清平何ニカ相談ガアルトノコトデアッタガ夜眠クテツヒニ聞イテヤルコトガ出來ナカツタ
根岸君來テ居タガ風強ク飛行機ガ出セナカツタ

◆▼111ページ◆▼ 昭和4(1929)年4月15日(月)

天気 晴

八時工場出 局提出書類ヤ手紙ヲ書キ根岸君ノ來ルノヲ待ツ 晝來 ガソリンノ請求
書ヲ渡シ送金方ヲ依頼シテ上京ス。二時半高見氏ト会フ 竹村氏トハマダ会ワナイ由
明日明後日中ニ会见ヲ依頼シ局ニ行キ根岸ノ奨励金願書ヲ提出シテ佐野へ高見ト会
見ノ結果ヲ速達デ出シ帰宅

今日ハドノ電車モヨツプライノ一人二人ハ必ズ居タ ヤハリ春デアルガ、今日皆シナニ支
拂ヒシタラツヒニ十円程不足ニナツテ帰宅シタラ僅カニ八錢シカ残ラズ春ドコロデハナカ
ツタ

◆▼112ページ◆▼ 昭和4(1929)年4月16日(火)

天気 晴

終日工場ニ居ル 昨日小遣ヲヤツタ爲メガ小僧連中ノ休ミ多ク樋口ノ外ニ三人ト女
工ダケシカ出テ居ナカツタ。西田へ根岸カラ發動機ニヨコセト昨夕電報ガ來テ居タノニ
対シ今朝故障個所知ラセテ返電シタ由 十時頃又西田宅へ行ツテ見ル マダ寢テ居タ
返電ハ來テ居ナカツタノデ打電先キヲ聞クト国府津駅止メデヤツタトノコト ソレデハ、

トテモダメナノデスグ一時二十分東京発デ佐藤へヤルコトニス

西田ヤット工場ヲ出タガ仕事ニ手ガツカズ、夕方三葉ノ急グコト等ヲ話ス。ドンナ気持チデ居ルノカ不思議デナラナイ

夜田中宅ニ寄ツテ夕食ヲ共ニシ所沢問題デ十時迄話シテ帰宅 西田ガ待ツテ居タ。シリンダーピストンヲ持ツテ来イトノ電報デアッタノデ明日行クコトトシ自分ハ東京デ金ヲ作ルコトニシ打合セテ十一時半西田帰ル

▲▼113ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月17日(水)

天気晴

七時起床 上京ノ予定ヲ仕度シテ居ル處へ大蔵來 根岸ヨリ発動機工來ルニ及バス所長ニ來テ呉レトノコトデアッタ。家ニアルダケノ金ト大蔵カラ二円取ツテスグ出カケル十一時半松濤園着 ロット折レテ克蘭ケース迄破ツタトノコト 善後策トシテ佐藤ノ話シニケースアルトノコトニ現在ノ発動機ヲ津田沼ニ送り一台マトメテ來ルコトニス。スベテハ本所ノ責任デアアルガ臼井氏モ場長不在中ノ事デモアリ何ントカ援助ノ方法ヲ仕様トノコトニナリ、神奈川県水産試験場ニ行ツテ道具ヲ借り小田原ノ運送店ヲタノミ、発動機ヲ降シ機体ヲ分解シテ松濤園ニ預ケ八時十分終ル スグ八時四十九分国府津発ニア帰宅 十二時

▲▼114ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月18日(木)

天気晴

朝工場ニ行ク 西田出ズ 晝頃漸ク來ル 三葉其他ノ件ヲクレ、話シテ帰宅 上京ノ予定ヲ変更シテツヒニ床ニツク

▲▼115ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月19日(金)

天気曇リ

工場へ御金ニ金七円持参サセ鈴木へ金ノ請求 西田へ出勤ノ事ヲ手紙デ持タセテヤル晝食後上京 局へ検査ノ日取りヲ電話デ話シ高見氏宅訪問 不在 帰途鳥飼ニヨルホ式150話シアリ マグネト一式個ボツシユヲ貰フコトニシテ手取り貳百二十円ニテ話シキマル。朝日ニ行ク 久松下坂不在

池田君へ行カウカ数見ニ話ソウカ色々思案シタガドチラモ中止シテ帰宅

夜田中來 十一時半帰ル 工場ノコトト所沢引繼ギニ関スル件打合

鈴木菊來 早ク帰ル

晝前ヨリ左手ノ平ニ三分間位ニ神経痛ヲオボエ困ル

◆▼116ページ◆▼ 昭和4(1929)年4月20日(土)

天気 雨

終日降り止まず 九時半工場出 西田モ出テ三葉ヤツテ居タ 終日工場ニテクラス
自分引越シテ來ル事ニヨツテ皆氣持ヲ引立テルコトトシ西田ニ話ス 樋口ニ六田中ヨリ話
ス

寺川本日退所 二十円渡シ帰国サス

門松ヨリ夕方電報來 金送ルカ田中來イトノコトデアッタ 停留所迄來テカラデアッ
タノデ明日田中午前中ニ宅へ來ル様西田ニ事傳ル 帰宅 夕食後スグ床ニ入ル
鈴木菊ヨリ五十円入り随分氣ヲツケタガ夕方ニ六五円シカ残ラナカッタ

◆▼117ページ◆▼ 昭和4(1929)年4月21日(日)

天気 晴列風

風速二十米突南風終日吹ク

一時頃田中來 諏訪ノ件想(ママ)談 宿ノ方セメテ五十円ヤラナイト行ケナイトノコ
トニ取アエズ、田中行キテカイケツスト門松ニ打電ス 三時ヨリ上京 風ノ吹クノニ花見
ニ出ル人ノ多イノニ驚イタ。電車ノ中ニモヨツパライガ多カッタ

東日ニ行ツタガ四時半デアッタ 吉田君モ帰ツタアトデ和田君ニ明日ニ約シテ鳥飼ヨル
ホ式ノ返事聞クツモリデアッタガ御岳山へ行ツタトノコトデ数見氏ニ電話シタガ之レモ
廿四五日デナイト帰ラナイトノコトデスグ帰宅 信太郎徳次ハ津田沼へ行ツタ 徳次モ
明日カラ津田沼ノ學校ニヤルコトニ手續キヲ終ル

◆▼118ページ◆▼ 昭和4(1929)年4月22日(月)

天気 晴

昨日ニ引替エオダヤカナ春日和デアッタ

八時工場出 工場内ノ自宅ヲ大掃除ヲサセル。

辻本氏來場 アプロト十年式検査ノ爲メ

正午ヨリ上京 局ニ行キ甲三補助金ノ件其他根岸ノ願書ニツキ打合セ

東日ニ共田君ト會ヒ麻布購シテ貰フコトニ話シヲ進メニ三日大坂ト協議ノ上ト云フコ
トニナル

鳥飼ニ行ク ホ式マダキマラズ 十円借りテ帰ル

◆▼119ページ◆▼ 昭和4(1929)年4月23日(火)

天気晴

気分進マズ九時工場出 床ノ中デ大蔵ニ池田君ヘ金借りニヤルコトヲ思ヒツイタノデア
ツタガスデニ上京シタアトデアッタ

工場ニ行クト鈴木克ノアブロ翼母骨全部補強ヲ要ストノ事。ソウスレバ十年式ノ飛行
試験ト共ニ明日來ル由 皆デハゲマシ自分今村ニモ手傳ワセテ仕事ヲヤル 午後田中二
局ヘ明日來テ貰フトノコトヲ電話カケサス 大体間ニ合フ

▲▼120ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月24日(水)

天気晴

今日ハ少シ早く出ル 大蔵ニヨリ池田ト鳥飼ヘ寄り今夜宅ヘ寄ル様ニ命ジ工場行キ 大
蔵ヘ昨日電話ニテ検査明日ニナツタトノコトデアッタノデ、ガソリンノ購入ヲ控エテ見タ
處十一時頃辻本氏十二時頃西河氏六年振りニテ來場 十年式ハ課長ノ意見ナリトテ
此際張換ヲ行フベシトノコトデアッタ 運動検査ダケ行フ。アブロノ方合格ス
西田此頃早く皆ヨリ働ラク様デアッタ。ヤハリ自分ガ出テ働ク爲メラシイ

今日ハ借金取りノ來ル日デアッタ。村山ノ母來 競賣ニシヨウト思フガ一度意見ヲ聞キ
ニ來タトノコトデアッタノデ辨ゴ土カラ一度督促ノ手紙ヲ呉レル様頼ム 然ル上大坂ノ
方促進サセルカラト諒解シテカエル。タ、ミヤ來 浦山來ル 田中ヲ呼びニヤリ結局田中
ノ行ク迄(來月中頃)何ントカヤツテ行ク様ニサス 出來レバ今月百円ダケデモ都合シテ
呉レトノコトデアッタ

▲▼121ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月25日(木)

天気晴

七時二十五分船橋發ニテ銚子行キ 丁度三時間ヲ要シタノニハ一寸驚カサレタ 飛行
場迄ハ約十五分ナリ ユックリ行ケル アブロノロンゲロン下部ノ後部二本新調ノコトニキ
メル 後郵便定期ニ関スル書類ノ作り方ニツキ教ヘ高安旅館デ晝食ノ馳走ニナリ銚子見
物ノ爲メ鎌田君ノアブロニ同乗シテ十五分ホド飛行ス 之レガ爲メ三時二十五分ニ間ニ
合ワズハンサーノ試飛行ヲ見ル 發故障ノ爲メニ千米突先キノ川中デストップシテ帰
レズ其内五時ニナツタノデ帰ル
八時半帰宅 大蔵ヨラズ

▲▼122ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月26日(金)

天気晴

七時半大蔵ニヨル 鳥飼ノ方マダ池田不在ノ爲メ会エナカッタ由。工場ニ出ル 明朝ノ

米無ナシ。鈴木ニ話シタガ無く、川辺鈴木遠藤ニ請求書ダケ渡ス。根岸ノ発動機モ到着シタ。廿四日二十銭諸掛ハ安イガ金ナインハ閉口。午後上京ノ爲メ帰ル。金太郎ニ入質ノ事ヲタノミタ方金ニモタセテヤル。

風又強クナル。夜田中寄ル。門松ヨリ電報來タ由。明朝自分ヨリ返事スルコトトス。

▲▼123ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月27日(土)

天気晴

工場出 午後上京鳥飼ニ行ク

朝ユツクリシテ上京。鳥飼ニ行ク。今日発動機ノ買手が上京スルコトデアッタ由。高見氏來。竹村氏ノ方ダメニ付氏モ困ツテ居ルノデ、少シナイカトノコトデアッタガ自分モ困ツテ居ル處ナノデ結局高見氏友人住氏ニ自分ノ手形ヲ持ッテ行ッテ見ルコトナリ共ニ菅野ニ帰り五百円ノ約手ヲ書キ高見氏ニ渡ス。住氏へ行ッタガ不在ニテ兎ニ角手形ニヨリ出來ルナラ作ッテ見ルトテ持ッテ帰ル。

▲▼124ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月28日(日)

天気晴

工場行 田中ニヨリ午後諏訪へ電話カケルコト。鳥飼ト遠藤ニヨルコト、所沢ノ九号機進行ニツキ打合せシテ工場ニ行キ信太郎ヲ相手ニ家ノマワリノ大掃除ヲ行フ。午後金太郎モ手傳ヒ樹木ノ植替モナス。鈴木菊ニ金ノ事話スガナク明日五円ダケ金太郎ニ渡スコトヲ約ス。

▲▼125ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月29日(月)

天気曇リ

昨日ノ爲メ身体中イタカッタ。終日床ニツキ長編小説全集ノ一昨日來タ菊池幽芳ノ白蓮紅蓮、忘レガタミノニ編ヲ讀破ス。

金一文モナクカツシカ会ノ出席ヲ申込ム。夕方、家内津田沼へ行ッタガ、タレモ留都(マ)デ一文ニモナラズ。信太郎明日學校ヲ休マセルコトニシタトノコト。不甲斐ナイ父ト思テ居ルダロウガ、貧棒(マ)程人間ヲヒクツニスルモノハナイ。

昨今何等積極的ノ考ヘノ出ナイ事。活動力ノナクナッタコトニ我レナガラ、アイソガツキル位デアル。何ントカ精神的ニモヨミガエラネバ。

▲▼126ページ▲▼ 昭和4(1929)年4月30日(火)

天気 曇り

工場二出デ色々金目ノ物ヲ物色 ナサケナイガ止ムヲ得ヌ 庫ノ白戸機ヲ處分スルコトトシテハツサセル。コレデ外ノモノト合セテ五十円ヲ得タ。ガ発動機ヲ引取ルコトハ出来ナカツタ 信太郎モ三ヶ月ノパスガ買エヌ又定期券ニス

◆▼127ページ◆▼ 5月

工場気分ノ轉換
方針ノ決定

◆▼128ページ◆▼ 昭和4(1929)年5月1日(水)

天気 晴

八時起床 本日ヨリ工場ニ泊リコトトシ朝酒ニ一本ヤツテ出ル 近頃馬鹿ニ児供ヲナツカシク感ジル様ニナツタノハドウモオカシイ

樋口又止メタイト申出テ來タガ今月中頃ニ六十年式ノ補助金ガ這入ルノデ式ヶ月分ヲヤルコト、思止マルコトヲ説ク 今村ハ止メルノデハナイガ、今後ドウナルノカトノ答ヒガアツタ。西田ヲヨビ色々話シス 国ノ父カラ帰レ、云ツテ來ルノデ困ツテ居ルトノコトデアツタ

◆▼129ページ◆▼ 昭和4(1929)年5月2日(木)

天気 晴

時事 英国皇帝ヨリ日本皇帝ヘガーター勲章御贈呈ノ爲メグロスター公殿下御入京六時起床 二時頃田中ニ起サレタ 又彼レノロニナヤマサレテツヒニ朝迄眠ラズ。

宅ニ一寸ヨリ服ヲ着替テ上京 スグ山口銀行ニ行キ金受取り佐藤商店ニ行ク 丁度九時半 十時過ぎ佐野君來 明日夕方池田ニ行ツテ返事スルコトヲ約シテ帰場。スグイスパノ二百ヲ引取り、鈴木菊雄ニ交渉シテ明日四五十円取ルコトトシ、ソレト合セテ田中下諏訪へ出張サセルコトトス。其旨門松へ打電

西田国へ帰ルトノ話シガ出タガ一度ハ父ノ意見モアルノデ帰ラネバナルマイガ、ソレニシテモ根岸ノハ最(ママ)非マトメテ、其内ニ補助金モ出ルカラ土産ノ一ツモ持ツテ帰ルコトヲ進メル 尚西田ハ絶対ニ止メル意志ハナイトノコトデアツタ

◆▼130ページ◆▼ 昭和4(1929)年5月3日(金)

天気 曇り

昨日ノ三十円ニ鈴木ノ四十円(十年式練習費)ヲタシ七十円田中ニ持タセテ門松ヲ迎
ヘニヤル 五円デモ取ツテ居キタカッタガ田中困ルト云ノデ皆ヤル アト一寸トモナク困
ツタガ米八二斗借りテ明朝ノ間ニ合ス
夜早ク床ニ入ル

▲▼131ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月4日(土)

天気 雨

七時起床 スグ佐野君來 大蔵ヨリ昨日夕方ハガキデ不得要領ノコトデアッタトノコト
デ大蔵ヲ呼びニヤツタガ昨夜帰ラナイトノコトニ止ムナク手紙ヲ書イテ大蔵ノ處ヘヤリ
午後自分上京スルコトヲ約ス。今日モ検査官來ラズ。大蔵帰ラナイノデ様子不明
イス。パノ220コワレタノヲ見ツケ出シテ拂下 片シリンダー無シデ四十円程ニナツタ
外ニ少シ出シテ丁度五十円ニナル。先ヅヨカッタガ西田ノ家内ガ流産シタトノコト二十
五円ヲ渡シ、アト皆ニ少シツ、ヤリタカッタシ賄ノ昨日借りタ米代モ拂ヒタカッタガ佐
野ニ少シデモヤリタイト思ツテ上京 東日ニ電話シタガ大蔵スデ二十分程前ニ帰ツタト
ノコトニ、スグ佐野ニ行ク 二十円ダケ渡シ明日朝池田ノ方返事スルコトトシテ帰宅 押
上ニテ清平ト一所ニナリ帰宅 菅野ニ泊ル

▲▼132ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月5日(日)

天気 晴

八時起床 スグ工場行き 防(ママ)ガシキリニ行キタガッタ
北西ノ風強ク夕方工場ノ垣ガ三間程タオレタ 最モ下ガクサツテ居タ
鈴木十年式ニテ初飛行 二十五分 地上共約一時間
大蔵ニヨル マダ池田ニ会ワナイトノコト 行キニクイラシイ 明朝行ク様ニ云ヒツケル
西田新潟へ出張ノ金ニ困リ先頃借りタ十円ヲホシイトノコトデアッタガ今日ハ何ントモ
ナラズ明日ニサス。佐野利一へハ朝池田ノ方ダメモシテ打電 手紙ヲ出シテ居ク
今日ノ仕事トシテハマキヲハサミ、草花ノ種蒔キヲナス 何トシテモ、頭ガマトマラナイノ
ニハコマツタ
門松ニ会フ 昨夜帰ツタトノコト 今後ニツキ一寸話シテ居ク
菊池家内高山ヨリ帰ル

▲▼133ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月6日(月)

天気 晴風

今日カラ乾燥室ヲコワシ初メル 一人デアッタノデ、ハカドラズ
大蔵ニ池田へ行く様手紙ヲ持タセテヤルト十年式ノ鈴木練習ノコトニツキ不平ノ手紙
ヲヨコシタ ソレニ対シ返事ハモタセテヤッタガ、手紙ノ書方ノ失敬千万ナノニ、アイソガ
ツキタ。金ガナイトカクモ目下ノモノニ迫馬鹿ニサレルノヲ悲シム
安岡新潟へ出張スルノニ金ナク、腕時計ヲ貸シテヤル。ソレデモ尚不足デー一円貸ス。西
田ヨリ五円取ツタガ昨夜家内ガ來テ明日ノ米ガ入ルト云フデ三円モ持ツテ行ツテヤロ
ウト思ツタノガ一円シカ居イテキテヤレナクナツタ 夜一寸行ツテスグ帰ル。ソレデモ九
時ニナル
徳次ガ來テ寢テ居タ

▲▼134ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月7日(火)

天気 晴

静カナ日デアッタ 朝又拂下ヲ行フ 十四円余ヲ得米屋へ拂ヒニヤル
今日ハ中川、ヲ助手トシ田中、金太郎モ手傳テ乾燥室ヲコワシニカ、ル 大ニハカドツタ
ガ下ノ方ガ二尺バカリ、クサレテ居タニハガツカリシタ

西田午後出テ來タガ何ンダカ自分勝手ナ事ヲヤツテ居テ一向仕事ニカ、ラズ、シヤクニ
サワツタ 一方過日返事ヲシテヤツタ鈴木(入所志願)復興ニツトメラル、会社ニ絶対的
努力ヲオシマナイ。報酬ノ如キモ物質ヨリハ精神的デアレバ満足トノコトデアッタガ、ス
グコイトモ云ツテヤレナイ現状ニ悲嘆ス

夜田中來 一時過ギ追話ス。アプロノ共同製作ノ案成リ材料ニツキ田中考慮スルコトト
ナル

三時漸ク眠ル

信太郎発熱 休マセル

▲▼135ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月8日(水)

天気 雨

信太郎七度バカリデアッタガ行クト云フノデヤル 歸ツタラ八度出トアリ。ペソ、泣イ
テ居タノデスグ寢サセル

明日京成電気ノ事モ氣ニナルノデ色々物色ノ後チ発動機ヲ出スコトトス

駒林氏來 根岸三百分解 破損原因調査ノ結果ヤハリ排気弁折損シリンダーヲ破
リピストンヲ壊シケースヲ傷ケタモノト判明 他ニ故障ナシ。鈴木克ノ発ヲ見テ貰ツテ
終ル

▲▼136ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月9日(木)

天気 曇リ

昨日四十円ばかりノ拂下ゲデ今日ノ京成電車ノ拂ハ出來ルガ又明日ノ米ノ心配モアル
ノデ上京スルコトトシ先ツ局ニ行キ補助金ノコトヲ調べル モー出ルトノコトデアッタ 其
他試験ノ打合せナドシテ、スグ池田ニ行ク 入院中トノコト。渡辺ニ会ヒペラノヌリ屋ヲ
タノム 鳥飼ニ寄ツテ十円借り様ト思ツタガナイトノコトニ、佐藤ニテ材料ヲ少シ買ヒ、
スチレドヲ買フ爲メ上野迄歩キ佐野ニ行キ不在ナノデ二時間モマツテ、会ヒ鈴木克用
ノ塗料ヲタノミ帰宅 夕食後津田沼ニ帰ル 信太郎大変ヨクナツテ居タ

▲▼137ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月10日(金)

天気 雨

終日雨 早夕鈴木ノ處へ補助金通知來タトノコトニ田中ヲ局ヘヤル 再三ヨビニヤツテヤ
ツト晝頃來タ 根岸ノ分ト鈴木ノ分ヲヤル 明日間ニ合スコト

西田晝出勤。夕方迄ニ田中ノアンリオノ爲メニコーン八十馬出シテ居クコトヲ命ジタガ、
ツヒニ出サズ 食事中ニ行ツテ話シタラ出スト云ヒナガラ置手紙シテ帰リカケタノデ呼
ビトメテ種々話シタガ、私的感情ニカラレテ、ヨクナカッタ 明日最(ママ)非出スコトニ話
シス

一時頃田中帰ル 明日受取レルトノコトデアッタ

今日ハ支拂ヒ予定ヲ作ツタガヤハリ不足デコマツタ。補助金余分ニツキ残金借用ノコトヲ
確井君ニ手紙出ス

信太郎今日ハヨカッタガ月謝ガナク静養ニ名ヲカリ休マセル

▲▼138ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月11日(土)

天気 曇

田中局行キ 夜ニ入ツテ帰ル。ソレカラスグ計算シテ工場員ダケ今村ニ持タセテヤル

▲▼139ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月12日(日)

天気 曇リ

栖原サンへ行クベク清平同道上京 電話シタラ大坂へ出張中トノコトニ浅草ニ行キトー
キーヲ見テ帰宅ス 夜明日ノ天気ガアヤシイノデ八幡迄レンコートヲ買ヒニ行ク 金五
円也デアマリ不テイサイデモナイノガアツタ 洋服モ作ルトノコトニ試ミニ聞イテ見ルト
三十五円位デ一寸見ラレルノデ特ニ残り布ニデ式十五円ト云フノガアツタノデ一着注
文スル

▲▼140ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月13日(月)

天気 曇リ

今日ハツヒニ降ラナカッタ 菅野ヨリカスミケ浦行き 一汽車早ク行き中島運送店ニヨリ運賃延期デ發送交渉シタガマトマラズ、関根ニ預ケルコトニ決意ス。次ギノ自動車ニテ井上長一ト同車。車中水上飛行定期クラブノ件ヲ聞ク。今村サンノ發案トノコトデアッタ。大坂名古屋ヲ井上ニ 名古屋清水間ヲ安藤ニ 清水品川間ヲ相羽ニトノコトソコデ東京鹽釜ヲウチデヤラセテ貫フコトニスベク明日課長ニ会ヒニ行クコトニス。今村氏ハ猿田ニデモト云フ意向ガアッタトノコト。関根ニヨリ四時半ニテ井上下共ニ帰ル

▲▼141ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月14日(火)

天気 雨

上京 九時局ニ行ク 課長ノ手明キヲ待チ十一時會ヲ

水上定期ノメンバー加入ヲ申込ミ考慮ヲ乞フ 要スルニ金ノ問題デアルガ、ソノ點ハ確實ナ仕事ニツイテハ出資者モ得ラル、見込ミヲ説ク

話シノ内ニ工場ノコトニ及ビ材料ノ廻ラナイコトナドデ出張スルモノガ、イヤガリ指定工場ヲ取消シテ呉レトノ申出モアルトノコトデアッタガ考慮ヲ約シテ呉レタ。アト井上安藤相羽ト打合せシテ居タ様デアルガ、御原氏ト晝食ニ出タノデ結果ハ聞ケナカッタ。後チ二三度電話シタガ井上六居ナカッタ

▲▼142ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月15日(水)

▲▼143ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月16日(木)

天気 雨

朝大雨 晝頃ヨリ小降りトナル 自動車ヲ菅野ヘヤル

第一回ノ自動車三時半頃來 二回目ハ、ヤ、クラクナル 従ッテ片ツクノハオソクナッタガ引越シヲ終ル

保俚(ママ)署來 氣ニナッテ居タ矢先デアッタ。結局七月分四十三円余支拂フ。電通ヨリ菊池ノ広告料取りニ來ル 來月末ニコトワル

田中所沢行き。夜一時半頃帰ッテ來タ 試験 西川氏ノ方モウマタ行ッタ由

▲▼144ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月17日(金)

天気 曇少雨

西田此頃朝早くナル

田中所沢行キツカレタカカスミケ浦行き出来ズ午後追寝ル

風呂場出来上ル

小栗ヨリ立花、片岡來。ローンノペラハツス

夜九時頃安岡ヨリ電報ニテマグネト悪ルク引返ス 西田ニマグネト持チ來テ呉レトノコ

ト 佐藤ヲ出張サセル 十一時ノ汽車二間ニ合ツタ筈 之レデ金ガナクナツタノデ明日

ノカスミケ浦ノ金ヲ取りモドスコトトス

▲▼145ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月18日(土)

天気 曇リ

朝田中ニ行キカスミケ浦行き 三十円ノ内式十円取りモドス

同人上京 山下ノガソリンヲ交渉ノ上カスミケ浦ニ出張ノコト

終日樋口、金太郎亀山トテ裏ヲ土丹ベイニスル。六時頃終ル 一文モ現金ヲカケズニウ

マク出来上ツタ。コレデ幾分気分モヨクナツタ

安岡飛行終ツタ由

樽木暇ヲ呉レトノコトニヤル 内拂五円渡ス

▲▼146ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月19日(日)

天気 雨後晴

清平ノ約束ニテ七時宅ヲ出大蔵ニ一寸寄ル 昨日清平へ時間ノ打合せヲ電話スル様云

ツテ居イタノニ忘レタトノコト 止ムナク、清平ハ止メテ上京 佐藤ニ寄ル 自動車屋マダ

來テ居ナカッタ イオ、ベニヤハ來テ居タ。岡田へ電話シタラ十時カラ町会ガアルトノコト

二午後一時ヲ約シ鳥飼ニ行キホ式ノ話シテ晝食ノ馳走ニナリ 肩一時岡田ニ行ク

鈴木克ノ委任状ヲ渡シ三百円ヲ前ノ内入ニ外二十年式分ノ羽布ヲ貰ヒ以上ヲ手形ニシ

殘金ヲ返シテ貰フコトノ約束成立ス。栖原氏訪問ヲ止メテ帰宅 途中自動車屋へ寄り

明日 上京ヲ佐藤へ寄ルコトヲタノム

▲▼147ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月20日(月)

天気 晴

樋口休 組立ノ方ハマルデ休業ノ様 戸締リヤ何かト終日ハタラク 夕方ノメシノウマカ

ツタコト

荒木病院ヨリ帰ル 夕食ヲ共ニス

川辺ヨリ十五円受取ル

▲▼148ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月21日(火)

天気 曇後晴

時事 早慶決勝戦 慶應ツヒ二十対七ニ勝ツ 技量伯仲 非常ナ接戦ナリシ由

今日ハ風呂場ノセメント及ビ各戸締リヲナス

田中ヨリ霞ヶ浦ノ報告ヲ聞ク 中島ハ今迄ノ分運賃七月十五日付手形ニテ支拂フコト

代百〇四円余 関根ヘノ運搬ハ関根二十円ニテ引受ケル由

門松佐藤新潟ヨリ帰場ス

▲▼149ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月22日(水)

天気 晴

終日自宅

▲▼150ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月23日(木)

天気 風雨

朝カラ降ツテ居タ 上京ス。スグ巴町ノ渡辺ニ行キ。ペラノ塗リ屋へ同道ス 五六日間ニ七
円位デ約束シテ、岡田ヘ行ク 不在ニツキ名刺ニ用件ヲ書キ(羽布二十五ヤルダケ佐藤
へ届ケテ貰ヒタイコト)外ニ手形二枚三百円來月末 残りヲ七月末トシタ分ト鈴木克
ノ委任状マダナノ見込仕様書ダケ預ケテ局ニ行ク 宗里ノアブロ完成 根岸ノイス。パ
ノノ試験ニツキ打合せ。田中アンリオノ試験ト操縦試験ガアト明日一日シカナイノデ
打合セヲナシ所沢へ電話シテ明日午前中ニ終ツテ明日中ニ登録、堪航書ヲ出ストノコト
デアツタ。清平ニ電話スル 田中先生イソガシク栖原先生來テ居ナイトノコトニ行クノ
ヲヤメテ帰ル

此頃ヨリ雷リ鳴ル 津田沼着頃最モハゲシク、大蔵ニヨリアンリオノ打合せト前田ノ金
廿五日ノ事ヲ話シテ雨止ミヲ待ツテ五時過ギ帰宅ス

田辺一木氏宛手形書留ニテ送ル

▲▼151ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月24日(金)

天気 晴

風強カッタガ晴レ 夕方スッキリ夙(ママ)ギル

寢テモ寢テモ眠ク七時起床 終日頭ガボンヤリシテ仕事ガ手ニツカズ

早朝田中ヲ見ニヤル 來タノデ昨日局デ打合セタ通りヲ話シテ大急ギデ所沢へ出張サ
セル
午後局へ電話デ試験ノ日ヲ聞キ合セル 日曜日頃最一度聞イテ見テ呉レトノコトデア
ッタ

▲▼152ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月25日(土)

天気晴

十時頃荒木田中アンリオニテ到着 十二時森氏來場 スグ佐々木ヨリ試験初マル
佐々木スラヽト終ル 田中スベテ思ワシカラズ 最後ニ一回ヤリ直シテダメ。色々所沢
トノ事情ヲ話シタガ一ヶ月延期ノ事トナル
井上保氏ヨリ大場ノ機体式百五十円ニテ賣ルトノコトヲ返事シテ來タ。大蔵大毎機ニ
テ八丈ニ飛行 前田君ニ金ノ話シシタノカドウカ分ラズ 處ガタ方西田ヨリ前田君ガ
今明日中ニ來ルトノコトデアッタ
七時頃清平來泊

▲▼153ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月26日(日)

天気晴

ユツクリ起キテ午前中今後ノ予算ヤラ予定ヲ作ル
午後小説ナド讀ミ休養 前田君ノ來ルノヲ待ツタガ、ツヒニ來ラズ
夜田中來 所沢一ヶ月延期ニツキ方針ヲ定メル 日本ビール会社広告部員來 夜間飛
行ヲスヽメテ居ク。ネオンヲ研究シテ返事シテ呉レトノコトデアッタ

▲▼154ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月27日(月)

天気晴

今日八十錢シカ金ガナクナリ困ツタ 田中ヲ上京 前田ニ會ワス 夜帰り來月二日金五
百円持ツテ來ルトノコト
岡田ハ明日廿五ヤールダケ送ル由。ネオン電気ハ東電ノ中ニアルノデ聞カナカッタトノコ
トデアッタ
夜母ガ左官屋デ五円 金太郎ガドコカラ十円借りテ來タ 之レデ明日ノ信太郎ノ月
賦金ガヤレル事ニナツタ

▲▼155ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月28日(火)

天気 晴曇り

塩田ヲ飛行場トスルノ請願ヲ縣ニナスベク朝川辺君ヘ行ク 東京製作所ヤメテ鉄工所トスルコトトノコトデアッタ 朝日デ局ノ委託生ヲ引受ケル由 塩田飛行場ニハ讚(ママ)成シテ居タ ソコニ関根來。霞ヶ浦工場ハ■分関根ノ前ヲ借りルコト 四日ニ自分ガ行ツテ今度ノ拂下品ヲ見ルコトトス 晝頃帰ル

山形ノアンリオオ甲三ノ間違デナイカ電報デ聞キ合セタ處兩方アルガアンリオオノ方デアルトノコトデアッタ 昨日名儀(ママ)変更ノ件デ手紙出シテ居イタノデ其返事有次第行ク旨打電ス

▲▼156ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月29日(水)

天気 晴

今日ハ塩田飛行場ノ請願書ニ半日ヲツヒヤス

四国ノ中村氏來 アプロガホシイトノコトデアッタガ第一ヘヤル 午後再ビ來 フロートト脚ヲ賣テ呉レトノコトデ七十円ニキメ五十円現金受取ルコトトス。之レデ一寸前田君ノ金取ル迄イキガツケル 何シダカ今度津田沼ヘ來テ以來間ガ好サソウダ 寢ル時コーヒーノコイノヲノンダラツヒニ眠レナカッタ

▲▼157ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月30日(木)

天気 晴

田中帰ラズ夜中ノ十二時過ギニ帰り明日十時ニ前田君ト會フ約束ニナツテ居ルトノコトデアッタ

昨日ノ中村氏晝過ギ迄來ラズ心配シタガ午後ニヤツテ來テホツトシタ 五十円入金スグ渡辺ノ拂トヤスリヲ引取りヲナス

午後宗里機ノ試飛行門松ニヤラセル 鈴木菊ニ同乗シテ貰フ 五回バカリヤッタ 塩田飛行場ノ請願書ヲ作ル 鈴木菊ニモ話シス

昨夜ハ一眠モセズ四時半起キテシマッタ 朝顔ノ植替エヲナス

▲▼158ページ▲▼ 昭和4(1929)年5月31日(金)

天気 曇り

朝石橋サントカ云フ人ガ來テ話シテ居タト思ツタラ今日カラヤルノダトテ夕方大勢來タ 千葉ノ一番エライ防(ママ)サンダト云ノモ來テ、イワユル御看経ナルモノガ初マル 自分モ参詣ス 一週間デ必ず動ク様ニスルガ家族全体ガ一生懸命ニナラネバダメダトノコ

トデアツタ

◆▼159ページ◆▲▼ 6月

- 一 塩田飛行場設置運動
- 一 勸業銀行運動
- 一 南洋飛行場運動

◆▼160ページ◆▲▼ 昭和4(1929)年6月1日(土)

天気晴

田中前田へヤル 今日ハダメトアリ 田中オソク帰ル
前田晝頃來 明日ノ飛行ニツキ警視廳提出ノ書類ヲ持ツテ帰ル。アンリオヲ以テ學校
デ費用ヲ出サセル予定ダソウダ

◆▼161ページ◆▲▼ 昭和4(1929)年6月2日(日)

天気晴

前田氏來テ飛行モ終ツタガ十円置テ行ツタキリ
五百円ノ件明日今夜熱海ノ叔母サントカニ話シテ借りテ來ルトノコトデ大ニ期待シテ
依頼シテ居ク
高橋、峯岸來 ホ式買手アルトノコトニ現金三百五十円ニキメ内五十円高橋ニヤルコト
ニス 五日迄ニ返事ナケネバ取消シ
今日モ熱心ニヤツテ來テ呉レタ。成程ナオルモノト信ジレバヤレルノデアロウ

◆▼162ページ◆▲▼ 昭和4(1929)年6月3日(月)

天気晴

前田君へ田中ヤル 万一ノ場合ヲ思ヒ千葉ノ白戸へ家内ヲヤツタガドチラモ不調 九時
頃漸ク分ル 大蔵ニ小川屋デ五十円程借りサセルコトニシタガヤラズ。金太郎ニ近所デ
借りサセルコトニス
実ニ閉口ス。自分ハ芝ノ植替ヲナス
徳次ノ右手関節ガ時々ツキン、ハ、イタミヲ感ジルトノコトデ大分嬉シガツテ居タ

◆▼163ページ◆▲▼ 昭和4(1929)年6月4日(火)

天気晴

金太郎ノ方ノ金策ヤツト七時半ニ出來スグ出カケル 四十円ノ内五月米一斗分家ニ居ク 二十五円持ツテ出タガ心配ダツタ。金町デハオソクナルト思ツタノデ市川ヨリ乗合デ松戸ニ出タガ、ヤハリ十分バカリ遅レタ。次ギノデ我孫子ニ行キノコカラ佐野ニ〇出來又旨打電シ十一時半荒中着ニ行ク 丁度手續キノ終ツタ處デアツタノデ書類ダケ貰ヒ皆食事ニ行ク 自分ト鈴木菊ト別ニ行ク 鈴木ヨリ第一ノアトノ話シヲ聞ク 山田君ニ引受ケテ呉レトノコトデ山田ハ鈴木ト提携シタイトノコトデアルガ鈴木ハ自分一人ナラ引受ケルコトニシテ居ルトノコトデアツタ。支拂十円程ニナル 鈴木ガ拂ツタ。引取リヲ終リ猿田氏ニアブロノ羽布其他ヲ事傳テ関根ニ今日ノ拂下ヲ皆預ケル。関根ニモ今日百円持ツテ來テヤル予定ガヤレズ。高利ヲ借りテ大分困ツテ居ル様子デアツタ。五時ノ汽車デ帰ル。夜大蔵來 木下氏ニリバテイ用。ペラ交渉サセル。ホ式引取りニ來三百円入金 ヤレ有難シ

今日參詣シタ人達ガドウモ身ガ入ラナイノハ外ニマダお守カ、ナニカアルノダロウトノコトデアツタ 自分ノ服ノポケットニ成田山ガ一枚アル事ト裏ノ稲荷ト辨天様ヲ明日コワス事ニナル。先ヅヤルナラ徹底的ニヤラセル方ガヨカロウ

▲▼164ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月5日(水)

天気晴

竹内トカ云フ辨ゴ士カラ佐野清ノ代理ダトテ会见ヲ申込デ來タ 山形カラハ飛行機イツ引取りニ來ルカ静岡カラモイツ出來ルカ聞合セアリ 之レニ十五日迄ニ検査ヲ受ケル旨返電ス 佐野カラ〇電送セヨト云ツテ來タ

田中上京 鈴木ノペラ引取ラセル 帰途氣持チガヨカッタトテ船橋ノ町長ニ会ツテ塩田飛行場ノ件ヲ話シタソウダ 大変嬉(ママ)ンデ居タソウデ地主ニモ照(ママ)介ノ名刺ヲ呉レタソウダ。明日自分上京明後日塩田見分ニ行クコトニ相談ス

カスキヶ浦ノハンサー引取り明後日行クコトヲ関根へ打電ス

家内ハ晝前ヨリ石橋サント千葉ノ寺へ御参リニ行キタ方帰ル 夕方ヨリ又初マル 自分モ参列ス 徳次ハ今日遠足ニ行ツタノデ、クタブレタガイイ氣持チニ居眠リヲシテ居タ。今日モマダシルシ見エズ

▲▼165ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月6日(木)

天気晴

▲▼166ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月7日(金)

天気 曇り

田中ト船橋ノ塩田ヲ見ニ行ク 十一時分レテ上京
川崎ノ東京電気ノ技師河野氏訪問 ネオン電気ニツキ打合せシテ、設計上必要ノ機
体圖面ヲ送ルコトトシテ帰ル
行ニ研究所ヘ寄ッテ見タガ丁度栖原、田中両氏共出カケル處デアッタノデ話シ出來ナ
カッタ

田中所沢ト塩田持主三会见サセル 次ギノ日曜日ニ会ヒタイトノ由デアッタ
静岡縣ノ上野ヨリ五十円來 一百円ノ予定ガ一寸ハヅレタ

▲▼167ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月8日(土)

天気 晴

終日自宅 遠藤君來 二十円受取ル。ペラ一本賣ル

今朝ノ千葉版ニ塩田飛行場ノ件ガ出テ居タ 地主ハ秘裏ニシテ呉レトノコトデアッタ由
今夜初メテ三本初メカラ終リ迄自分モ御経ヲ上ゲタ

▲▼168ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月9日(日)

天気 晴

ドウモ頭ノハッキリシナイ日デアッタ

十時頃ヨリ千葉海岸ニ保健署長鈴木芳次郎氏訪問 次回入金ノ件ニツキ懇談 二十
日迄二ヶ月分 來月宗里ノ分トテ三ヶ月分 アト三葉ノ分ニテ約全額ト云フコトニキ
メル。帰宅途中稲毛ニヨル 主人不在 三四日帰ラナイトノコト 海岸ヲブラハ、散歩シ
テ自宅等ノ居タ頃ヲ思ヒ出ス。自動車ガ來タノデ帰宅

夕方関根同道中村帰ル 三日カヅッテ漸ク運搬シタ由 関根金ホシイノデアッタロウガ
五円ダケ貸シテ帰ヘス

朝佐藤喜三郎氏來 ローン百二十手入ルトノコトデ三百円分値ヲ貸ス

▲▼169ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月10日(月)

天気 晴

安藤氏カラ今日午後二時會フトノハガキガ來タノデ十時頃カラ出懸ケル 局ニヨリ檢
査ノコトヲ木曜日ト大体定メ、ペラノ件ヲ頼ンダガ責任ヲ生ズル様デハ困ルトノコトデ
ダメ。多分ソナ事ダト思ワレタ。時間ガアッタノデ日比谷ノサツキヲ見テ政友會本
部ニ行ク。イクラモ待タズ會議中デアッタガ會フ 南洋ニ飛行場ヲ作ルコト 其方法ト

シテ定期ナリ學校ナリヲ立テルコトニツイテ話ス 拓務省モ今日カラ出來タノデ海軍省ト両方聞イテ居コウトノコトデアッタ 尚何等カノ参考ノ爲メ千葉縣立飛行場設置願書ヲ讀ンデ置イテ貰フコトニシテ居イテ帰ル 鳥飼ニヨル。又コノモ移轉セネバナラヌトノコトデアッタ 家君ノ話シ 庭ハ塩瀬ノ箱デ一杯ニナツテ居タ 氣ノ毒ニナル 日日ニ行キ吉田氏ニ会ヒ朝日ニ行ク 丁度木下氏ガ來テ居タノデペラノ件依頼シ手紙ヲアトヨリスグ立川迄出シテ居ク。新部長ニモ会ツテ会(ママ)拶ヲス。再ビ日日ニテ清平ニ会 毛利ニテ夕食ヲ共ニシ帰ル

▲▼170ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月11日(火)

天気 晴

温イ日デアッタ 晝ノ手紙ノ來ルノヲ待ツテ上京 局へ電話デ検査ヲ金曜日ニシテ貰フコトヲ話シ研究所ニ行キ田中サンニ清平ノ件ヲ依頼シ清平ニ会ツテ、スグ飯沼君へ行クツイタラ五時頃ニナツタ ビールノ馳走ニナル。共同事業トシテヤルコトニ話シアンリオ引取り方ニツキ相談。ニユポールモ取レバ引取共五百円位。アンリオ式五百円 引取り百五十円 二式百円位ノ予算 明後日三百円ダケ受取ルコトニツキ電報ヲ貰フコトニ極メテ帰ル 帰宅十一時ニナル

▲▼171ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月12日(水)

天気 曇リ

根岸三百完成 夜発送ス 車ガ弱クテ何回モツミ替エ十一時頃ニナツタ由 樋口猿田ヨリ帰ル

午後局へ電話シテ金曜日検査ノ件ヲタシカメ川辺ニ行キ二十円受取ル。今月ハ金ガナクナルト少シヅ、デモ這入ツテ來ルノデ大ニ助カル 之レモ御利益ノ中カモ知レナイガ今日家内ガエミ子ニ薬ヲノマセナカッタノデ夜少シ障突シタ

▲▼172ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月13日(木)

天気 曇晴

飯沼君ツヒニ何ソノ返事ナク夕方打電ス 夜イサイツミトノ返電アリ。多分ダメダロー夕方境八百四郎氏橋本国ノ代理デ來 手形七月式十五日ニ書替エ支拂場所ヲ九八ニス 尚附言シテ七月廿五日迄三利子ヲ入レルコト 元金ハ工場担保ノ借カン成立後ノコト ソレハ目下交渉中ノ事

田中アンリオ練習

遠藤甲三ニテ來 十三円受取ル

根岸イス。パノ昨夜十一時迄ヤツテ運送店ニ出ス。今夜ヨイ汽車ガナイトノコト。ソレナ
ラアンナニ急ガナクテモヨカッタ。今荷造ラシナオス
エミニ子熱高ク今日モヤスム 午後急ニ下リ元氣ヨク起キル 風薬リノマス

▲▼173ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月14日(金)

天気 曇り晴

今朝ハ眠クテ仕様ガナカッタ

坂本氏外ニ森川氏ノ代リノ人來 元支部ニ居リ僕ヲ知ツテ居ルトノコトデアッタ 宗里
アプロ濟ミ工場十年式上翼取替エルコトニ鈴木 ■アプロ内部検査ヤツト通過ス
カナリヤ玉子ニツニナル
エミニ子朝三十九度一分アリ氷デ冷ス 夕方ハケロリトナオツテ元氣ニ起キテ居タ

▲▼174ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月15日(土)

今日カラ家内ト徳次千葉へ辨當持チデ參詣ニ行ク 一週間ノ予定

▲▼175ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月16日(日)

天気 晴

樋口ヨリ夜発ツイタトノ入電アリ 金ナク困ル

朝西田ヲ寄(ママ)ビニヤリ打合セヲナシ、佐藤交渉ノローンノ部品ナド出サセテ居ク
菊ノ植替エナド行フ

▲▼176ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月17日(月)

天気 晴

金太郎ニ二十円作ラセテ西田ニカストル一鐘持タセ出発サセル。残デ米ニ一斗ヲ買ヒア
ト少シ残ル 鈴木取りニヤツタガ今日夕方迄ツヒニ帰ラズ。女工モ再三貫ヒニ來ルガヤレ
ズ閉口ス
夜着陸ニ参加シタガ眠クテタマラズ中途ニテ止ス

▲▼177ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月18日(火)

天気 雨

鈴木朝來タガ 金ナク今カラ取りニ行ツテ見ルトノコト 西田出テ來テ昨日ノ旅費残

リ七十五銭戻ル 内五十銭家内ニ渡シ。パスヲ取り漸ク七十五銭ノ現金デ上京ス 宗里ニヨリアブ願書ト委任状ノ判ヲ貰フ 非常ニ元氣ソウデ以前ト変ラナイ様デアッタ 実ニ、メヅラシイ事デアル。然シ本腹(マ)サレテ何ヨリ結果デアッタ スグ局へ行く 西川氏大毎検査ニ立川へ行き不在 根岸ノ検査キメラレズ。明日來ルコトニシ根岸へ打電シ明日局デ会イタイト申込ム 金策ノ爲メ 岡田ニ行き検査未了ニツキ手形延期ノ件ヲ乞ヒ承認ヲ得。帰途鳥飼ニヨッタガタレモ居ラズ大毎ニヨル 立川雨デアッタガ十五分ノ飛行デスンダ由 西川氏ノ話シハ根岸機ヲ、ドチラカノ飛行場へ輸送セヨトノコトデアッタ 夜鈴木終リ 明日送金シテ來ルコトニナツテ居ルトノコトデアッタ 今朝看経ヲナシ夜モ行フ 今日ハ不思議ト眠クナク、カチモ初メテ打ッテ見タ。之レニヨッテ雑念ハ去ル様デアッタ

▲▼178ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月19日(水)

天気 晴

スバラシイ晴レ方デ、ナンダカ氣オクレガシタ 金ノナイ精ダロウ上京ノ途田中ニヨリ昨日岡田ニ會ツタコトヲ話シ今日鈴木カラ金ガ取レタ時ノ處置ヲ話シテ、所沢ニ行くコトヲ命ジ出カケタ處へ佐藤氏來 明朝発動機見ニ來ルトノコトデ分解手入レ中ニツキ運轉間ニ合ワズ万一ノ場合藤田ノヲ廻シテ見セルコトニシテ、打合せ共ニ上京 局ニ行く 丁度十二時根岸君來テ居タ。ドウモ飛行場へ送ラネバナナイ様子デアッタノデ尚懇願シタ處飛行場ノ模様ヲ下志津へ電話シテ聞イタリ話シテ三時過ギ漸ク課長ノ手ガ明イタガ結局課長ノ意見デ不時着陸場デ検査スルコト出來ヌトノコトニナリ西川氏ト打合せ津田沼ニ送ルコトニス。尚根岸君ト佐藤店ニ行き、静岡へ電話カケル 碓井氏ノ諒解ヲ求ム 佐藤ニモ電話シテ貨車ト運賃調べテ打電スルコトヲ命ズ。今日ニナツテ飛行場ハ送リカエセデハ実ニ前後弍百円ノ損害ダ 西川氏ガ行ッテヤルト言明シテ居タ 關係上氣ノ毒ガツテハ居タガ仕方ガナカッタ。十年式ノ翼相談シタガヤハリ取替ノコトトナル

夜十時頃小栗ノローン八十到着ス

▲▼179ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月20日(木)

天気 曇リ

碓井氏へ運賃依頼ノ手紙ヲ書キ東京駅デ入レルコトヲ大蔵ニ事傳ル 根岸へモ佐野電報ヲ打ッ

▲▼180ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月21日(金)

天気 晴

暑い日デアッタ 午後ヨリ上京 佐藤氏へ行き五十円借りル予定ノ處三十円ニナルソレデアツテ帰ツテスグ米屋ヲ拂ヒ近所ノ借りヲ返シ小供連ニ少シツ、分ケタラアト四五円シカ残ラズ心細カッタ。連山形ヨリ電報來 アンリオノ件

◆▼181ページ◆▼ 昭和4(1929)年6月22日(土)

天気 晴

鈴木克ノ発試運轉 ドウモウマク行カナクテ困ツタ。ツヒニ出來ナイ仕舞 小栗ノ立川マグネト―持参ス

佐藤本日帰ル マダツミ込ミ終ラズ

御原氏ヨリアンリオ六百五十位ナラ買フ由返事アリ 七百五十円ナラ賣ル旨打電ス夜イサイフミトノ返電アリタリ

碓井氏ヨリ電話ニテウンチン不可能ノ返電アリ行き違ヒニ。根岸へ御尽力乞フ旨打電ス然シダメトスレバ止ムヲ得ズ佐藤氏ニアンリオノ件ヲ以テ話スヨリ外ニ方法ガナイ

金太郎二十円都合サセルコトニシタ 樋口へ少シヤラネバナライノデ 杉本信雄友人ト家ヲ見ニ來ル 夕食ヲ共ニス 大蔵モ來。朝日ノペラ出來ソウデアッタ

◆▼182ページ◆▼ 昭和4(1929)年6月23日(日)

天気 曇リ

十時半ヨリ清平ト上京 其前英商会來 四ミリストランド三十米渡ス 共ニ押上道行ク 黒江町ノ清平ノ下宿ヲ見ニ行ク ヨサソウデアツタノデ取極メルコトニシテ分レ上野ノ佐藤氏へ行ク 昨夜急ニ大坂へ行き火曜日ノ朝帰ルトノコトデアツタ サ―仕舞タ

昨夜会へバヨカッタト思ツタガアトノ祭り ドウモ今日ハ朝カラ、ダメナ様ナ氣ガシテナラナカッタ。少シ途方ニ暮レタガ、ツイデダカラ佐野利一へ一寸寄ツタガ之レモ、タレモ居ナカッタノデ名刺ニ入レテ居ク。スグ帰宅 帰リニ西田ニヨリ買ッテ來タ肉デ一杯ノム南洋行ノ話シラスル。安岡今日帰宅ス。山形ノアンリオニツキ相談 飛行会ヲ催ス件ニツキ明日田中ト三人相談スルコトトス

家内ハ朝カラ徳次ヲ連テ船橋ノ御講ニ行ク。ドコデモ御供養ガ出ズ腹ヲヘラシテ帰ッテ來タ

夜自分導師トナリ一本御看経ヲナス

◆▼183ページ◆▼ 昭和4(1929)年6月24日(月)

▲▼184ページ▲▼昭和4(1929)年6月25日(火)

天気晴

曇リガ晴レテ暑クナル 第一二佐藤ニ行ク 丁度昨夜帰ツタ由 シバラク待ツ 交渉シタガ金出来ズ 來月十日頃ナラ見當ガツクトノコトニアキラメ二十円ダケデモト話シタガツヒニ五円ヨリ出来ズ 色々考ヘタ上鳥飼ニ行ツテ話ス。明朝幸樂へ話シテ見ルトノコトデアツタ。大蔵ニ会フ 前田君來。塩瀬デお茶ヲノミ、イヨ、法政大學デ二十人ノ同志ヲ得タノデ飛行部ヲ初メルコトニナツタ由 來年カラ學校トシテヤル由。終ツテ飯沼君ニ行ク 丁度居タ。今夜一二軒行ツテ見ルトノコトデアツタガ期待出来ズ。一寸話シガ出タノデ、増田君へ帰りニ電話ヲカケタガ不在 明日行クコトニシテ居ク

▲▼185ページ▲▼昭和4(1929)年6月26日(水)

天気晴

時事 不戦案御前会議開カル(人民ノ名ニ於テ)ノ字句ニ関ル問題

朝氣ガ、リノ事多ク御看経ヲナシテ後升勇氣ヲツケ運送店ニ行ク。ウマク話マトマリ根岸機運搬サセルコトナル 川辺ニヨリ金聞イタガ夜ナラ出來ル見込ミトノコトデ間ニ合ワズ 晝ノメシニ差支ルノデ、自分渡辺ニ行キニ斗持ツテ來ルコトニス。ヤット一安心ツイタガ金ナク上京出來ズ 橋本ノ家内來 利子ダケ今月最(ママ)非入レネバナラヌトノコトニ明日上京。アンリオノ金出來タラ、ヤルコトニキメーバン泊ラセル 出來ナイ時ハ止ムナク大坂ノ兄ニ手紙ツケル事トス

▲▼186ページ▲▼昭和4(1929)年6月27日(木)

天気晴

橋本來ルトノコトデアツタガ午後後家内ガ來タ 國ノ母ノ事ヨリ泣キツカレテ開口 利子六ヶ月分百七十五円ダケ最(ママ)非作ツテ呉レトノコト止ムナク山形ノ飛行機引取ル爲メ飯沼君ヲ頼シダ金ガ出來タヲ半分ヤルコトニシテ今日其返事ヲ待ツ 夜ダメトノ返事アリ

七時ニ出テスグ帰ルカ色々マヨツタ末川島氏訪問スルコトニ決シ行ク 病床デ會フ 思ツタヨリ老人デ非常ニ丁寧ニサレテ嬉シカッタ

後チ橋本ノ家内ニ手形百七十五円ヲ渡シ大坂デ金ニカエテ貰フコトヲタノンデー先ツ返へス

以上廿八日ノ記事

▲▼187ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月28日(金)

天気 曇リ

橋本ノ家内昨夜川辺デ泊ル 今夕ヲ約シテ自分モ運動ノ爲メ上京。鳥飼ノ方モ來月トノコト 夕方王子ノ内へ行キ大坂ノ兄ノ方へ行クベキ手紙ヲ書イテ渡ス 尚念ノ爲メ手紙ハ東京駅カラ出シ、妻君ハ明日日迄居ルコトニナル。當テトシテハ今日話シタ、増田君ダカ、之レモ七八分ダメト思ヒナガラ行カヌ訳ニ行カズ帰リニ増田へ寄ル 主人居テ會ワズ 佐藤ニ會ツテ呉レトノコト モウダメト思ツタガ佐藤君ニ頼ンデ帰ル 今夜清平ノ宅ニ泊ル

本記事廿七日分

夜南洋問題ニツキ照会サレタ小沢トカ云フ人ヲ訪問ス 浪人デアッタ 共ニ宇佐氏ヲ問頼ミ話シタガ、此人デハダメダト思ツタガ川島清太郎氏ニ名刺ヲ呉レタノデ會ツテ見ルコトニス

▲▼188ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月29日(土)

▲▼189ページ▲▼ 昭和4(1929)年6月30日(日)

▲▼191ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月1日(月)

▲▼192ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月2日(火)

天気 晴

猿田ヨリ今朝検査立會ヲ乞フトノ入電アリ 時間ヲ見ルト九時ノ汽車ニ間ニ合フガ金が不足デドウシヨウカト思ツテ居ル内中村ガ田中ニ何ニカ云ツテ居タ 田中承認ヲ與ヘテ居タト思ツタラ鈴木ガ飛ブンウデストノコトニ止メニ行ツタガ見向キモシナイデ、スグニ発動機ヲ廻シテ居タ。乗ツタカラ居ルコトモカワイソウ思ツタノデ、ツヒアキラメテ引返シタガ出ダシガドウテ ■ コウフンシテ居ルノデハット思ツタガ一廻リシテ降りタノデヤレ、ト思ツタラスグ又飛ビ出シタガ一安心シタノデ猿田へ行クベク田中ト旅費ノ話シヤスル中、落チタ、トノ声ニ出テ見ルト幕張ノ手前岸ニ近クペシヤンコノ翼ガ見エタ。ブ

リルデ三回ばかり廻ッタトノコトニ皆走ラセル。ケガ、入院、金、飛行機未検査、今月末ノ金三頭ノ中ハタチマチ以上ノ事ガ繰リ返サレタ。早速猿田ヘ行ク決心ヲシ計算書ノ内半金ヲ入金スルコトトシ残りヲ金デ借リルコトニ決シテ行ク。十一時半ニノル。二時半着。検査ヲ終リ発動機ダケ明日ニ残ル。五時ニ乗ルベク大急ギデ計算ノ話シヲナス。金アトカラ送ルトノコトニ旅費十円ヲ借リテ帰ル。考ヘテ見ルト朝カラ何ンモ喰テ居ナカッタノデ佐倉デスシヲ一ツ買フ。

▲▼193ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月3日(水)

天気 雨

晝前ヨリ田中ト病院ニ行ク。川辺君來テ居タ。保俵(ママ)署這入レルモノナラ入レタイト思ツテ行ツテ見ル。昨日田中カラ話シタコトガ返ツテ悪ルカッタ。出來ナイノデ引返シ學究患者ヲ聞クコトニシテ一時普(ママ)返入院手續キヲ取ル。夕方帰ル。

▲▼194ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月4日(木)

天気 雨

ハゲシイ雨デアッタ。朝門松、太田、佐藤ヲ呼び西田止メタコトニツキ此際退所スルモノ止マルモノ一新ヲ期シテ一人一人聞ク。三人共運命ヲ共ニスルトノコトニ嬉シカッタ。夜田中來。樋口、今村其他皆止メルトノコト。止メルモノハ追ハナイコトトス。九時頃高橋氏來。ニオン電機ノ件ニツキ知覧君ノ照(ママ)介ニテ共同事業トシテヤリタイトノコトニ共ニ上京。局ニ行キ十年式検査打合せ明後日ト決定。佐藤デ金ノ件。

▲▼195ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月5日(金)

天気 曇少晴

今日カラ自分デ仕事ヲナス。腹ガヘルコト。田中練習ス。十年式明日ノ準備ヲナサシム。今日ハ高野ヲ呼び話シス。止メタイトノコトニ止メサセルコトニス。時機ハ三葉試験後トス。彼レナラソウキメテモナマケタリナニカスル恐れガナイカラ夕方ヨリ病院ヘ代リニヤル。田中午後病院行き。

▲▼196ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月6日(土)

天気 曇リ

根岸ノ検査ニ西川氏來場予定 待ツタガツヒニ來ナカッタ 最モ東京ハ朝雨デアッタ由。
万一ヲ思ツテ大蔵ニ朝今日ハ來ナイ時ニハイツ來ルカ聞合セサセル
安岡一日長野行キヲ延期サセタノモ水ホウトナル 夜出發 金不足トテ五円貸ス
猿田ヨリ金來ラス。佐藤氏月曜日ニ都合スルトノコトデハマ朝カラ持タセテアッタノデ
又金物ヲ整理シ二十円作り内十円ハマニ渡ス 今日ハ足立ヲ病院ニヤル ヤ、意識ヨクナ
ツタンウダガマダアバレル由。ソレデモ昨夜ハ大分ヨカッタトノコト
朝中村ノ親戚ナルモノニ名來 今日帰国スルトノコトニ話シノ結果退院迄工場ニ免(ママ)
倒ヲ見ルコト 退院後ハ親元ニ引取ルコトニ決定シ母親ヲ患(ママ)病ニヨコスコトトス
福島行キノローン完成ニタ方六時半迄カ、ル 佐藤、門松居残り
夜中川龜山ニ二三日内ニ退所カ止マルカ返事スルコトヲ命ジ其他種々話シテ聞カセル
後チ二本御看經シテ床ニツク
田中練習ス

▲▼197ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月7日(日)

天気 曇リ

終日在所 工場ノ方針決シヨウト思ツテモ中々定マラナイ
中川龜山夜話シテ止メルカ止メナイカ決定スルコトヲウナガス。自分ノ経歴ニツキ順々
ト話シテ聞カセル

▲▼198ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月8日(月)

天気 曇リ

田中三等試験ノ爲メ森齋藤両氏來場 晝前無事終ル 然シ余リ好イ成績デハナカッタ。
突然西川氏來 十年式ノ検査ニ來タトノコト。土曜日、大蔵打合せニヤッタラ今日來
ラレナイトノコトデアッタトテ操縦士居ナイコトデ、ツケタガ、プン、オコリナガラ機
体ノ検査ニカ、リ、ゴム紐ヲ卷キ替エ、エレロン操舵線取替ノコトトナル 左下翼ガ一本キ
レテ居タ爲メ、発動機テスト 左マグネット不良 取替エルコト

▲▼199ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月9日(火)

天気 曇リ

サンヲ出ソウト思ツタガ古物屋夕方ニナリ明日ノコトニス
青山伊吉氏ノ甲三宗里ヨリ引取ル
龜山中川止メル旨申出アリ(先日ノ返事)

◆▼200ページ◆▲ 昭和4(1929)年7月10日(水)

天気 曇雨

サンビーム拂下ノ爲メ分解 半日余り全員、デカ、ル 八十五円程ニナツタ。五十円受取り内五円以前ノ分一円入、金太郎ニ、十五円返シ米ヲ拂ヒ、キク、樋口三五円ツ、ヤツタラナクナツテ仕末(ママ)ツタ

明後日入院料五十円八用意シナケレバナラナイ

田中學科ニ上京

知覧へヘラ送ル

◆▼201ページ◆▲ 昭和4(1929)年7月11日(木)

天気 曇り少雨

午後ヨリ上京 佐藤ニテ發動機ノ金ヲ計算シ四十円六十銭受取り借リヲ返ス。東日ニヨリ吉田君ト東洋軒ニ行ク 十年式イス。パノ三百部品ホシイトノコトデアツタ 調査シテ送ルコトニス

鳥飼氏ニヨリ先日ノ五十銭ヲ返シ協会ニ行ク 柴少佐ノ獨逸航空界ノ狀況講演ヲ聞ク

其前電話デ打合せ ニオノ小曾根氏ト倶楽部ニテ会フ 発電装置ヲ要スルコトニナツタトノコトニ内ニアル」ダイナモヲ試験スルコトニナリ明日取りニ來テ貰フコトニス

◆▼202ページ◆▲ 昭和4(1929)年7月12日(金)

天気 晴

今日カラスツカリ夏ラシクナツタ 温度モ八十七度以上ニ昇ル

根岸君來。ニオンヨリ高橋君來 共ニ晝食ヲナス 高橋氏ニ、ダイナモトプロ。ペラ渡ス。

根岸君發テテスト見テ局へ行ク 明日検査ノ爲メ

金太郎賄ノ方ヲ止メ工場ヲ手傳フコトヲ命ズル

◆▼203ページ◆▲ 昭和4(1929)年7月13日(土)

天気 晴

早朝大倉ニ行ク 今日検査アル場合ノ打合せタガ來ラレナイラシイ。役場ニ税金ヲ八月末迄延期ヲ頼ミ承認ヲ得。局へ電話シテ検査ノコトヲ聞ク 月曜日ニ行クトノコト

根岸君來 試運轉 北上ダケ又少シ調子ガ悪ルカッタガ直ル。大蔵ニ電話シテ西田來ル様頼マセル

夜大蔵來 十五号機製作ノ爲メ手放セナイトノコト
金太郎

◆▼204ページ◆▼ 昭和4(1929)年7月14日(日)

天気 晴

六時起床 ヤット作ツタ五十円ノ金ヲ佐野へ持ッテ行テヤル 途中谷津デ降りテ森サン
ニ頼マレタ件ヲ交渉シテ上京。佐野不在 妻君ニ渡シ帰途例ノ肉ヲ買ッテ帰ル
田中来テ居タ 丁度十二時 明日検査來ルノデ立川ノ航空輸送ノ招待ニ應ズルコト出
來ズ、田中出張サセセルコトニシ、リバテイノペラノ件ボス調ベノ件ヲ頼ム
根岸君來 四時頃二十分間試飛行 左ノシリンドラーノ方ガオチ少シ變調ダカ大体
ニヨク明日此マ、受檢ノコトトス 根岸氏又來場 ガソリンノ件ニツキ共ニ石井へ行ツタガ
モノニナラス 決局根岸君ノ父ニ一時立替エテ貰フコトニナル
自動車ノ來ル暇宗里君ニヨル 大変丈夫ニナッテ居タ。夜荒木來 再ビ入所ノコト話シ
タガ、ダメラシイ 考慮スルコトニシテ返ス
九時頃鈴木克衛來 初メテ自分ノ悪ルカッタコトヲ、謝シ帰ツタ。田中鈴木ヨリ見舞金
ノ委任状受取ッテアル由

◆▼205ページ◆▼ 昭和4(1929)年7月15日(月)

天気 晴

今日ハ輸送会社ノ旅客輸送開始デ立川へ招待ヲ受ケテ居タガ行ケナイノデ田中ヲヤ
ル 午後西川氏來タガ 四時過ギテモ汐變リノ爲メニ引カズ、ツヒニ明早朝來ルコトニナ
ッテ帰ル
電通へ金ノコトワリヲ出ス

◆▼206ページ◆▼ 昭和4(1929)年7月16日(火)

天気 晴

西川氏八時ニ出ルト云フノデ七時ヨリ機体ヲ出シ準備ス
八時半ヨリ飛行開始 根岸君卅五分小栗機ト上昇試験ノ爲メニ回飛行。スラ、ト
終ル

午後一時ニナルモ樋口君一人シカ來ナイデ見ニ行クト佐藤門松ハ寢テ居タ 今村ハキン
グヲ寢ソベテ讀ンデ居タ ムシヤクシヤシテ居ル處へ中川ガ午後休マセテ呉レト云ッテ來
タノデシカリツケ皆呼ンデ來ル様云ヒツケ樋口、佐藤、門松、今村四人ニ順々トシテ現
在ノ狀況ニ対シ不真面目ナル働キ振ヲセメテ今後ソノ様ナコトナキ様ニ云フ 今村一人

今後ノ方針ヲ聞カセテ呉レト出タナケレバ働ケナイト云フノデ、ソレナラ止メテ貰フ外
ナク此際無條件デ働ク人以外ハ入ラナイ 明朝迄ニ返事スル様申渡ス
後チ樋口夜佐藤門松ニ打解ケテ話シ合ウ 皆嬉(ママ)ンデ働クコトニナル

▲▼207ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月17日(水)

天気 晴

今日ハ終日事務デイソガシカッタ

止メルモノノ整理ト補充ニツイテ手紙ス

▲▼208ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月18日(木)

天気 晴

安岡ト霞ケ浦ニ行ク。ハンサーノプレん、トテモヒドクナツテ居タ プレイトハンサトアブ
ノプレんダケ先キニ送ルコトニ頼ンデ帰ル。荒川沖合同運送店ニヨルツモリデアッタガ土
浦ニ出タノデ中止シテ五時帰宅

後、佐々木、足立ト話シ合ヒ止メルコトニ決定ス

帰宅後根岸君十一時ニ立ツタコト 無事着イタ事ノ報ヲ聞ク

▲▼209ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月19日(金)

天気 晴

暑イ日デアッタ 風ガナカッタノデ尚サラデアッタ

今朝今村ト話シ、ヤハリ行キ先キニモ困ル處カラ残ルコトトナツタガ、今日以後ハ事務所
ノ仕事ハ少ナイカラ工場ノ仕事ヲヤルコトニス。早速働キ初メタ

猿田カラ金ガ來ルカト待ツタガツヒニ來ラズ

中川ヲ親ノ處へ手紙ヲツケテ返ス

今日ハ自分ノ事ムノガデ大變

今日ハ午前中事ム 午後藤田ノ機体手入レヲナス 自分デヤルトヤハリ、ヨイカゲンノ事
デ済サレナイノデー一時間延バシテ脚廻リダケ終ル。同時ニ運轉試験モ行フ。ペラノ位置
ヲ代エタラ大變振動モナクヨクナツタ

▲▼210ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月20日(土)

天気 曇少雨

時事 両国ノ川開キ

露支風雲益々急

四時半起床 五時出ガケニ田中ニヨリ局ノ金ノ事聞ク 昨日取レズ今日取ル由。門松
鈴木同道霞ケ浦ニ行ク バラ、降り出シタノデ、心配シタ 後チ晴レタガ雲アリ返ッテ
暑サヨケニナッテ、ヨカッタ。七時七分ニテ金町発 関根へ行ッタラ昨夕積込ミ、スデニ
出シタトノコト、ニ多少心配ニナッタガ充分注意シタトノ事ニ胴体ノ方調査シ一台ハ
廃ニシ翼ヲ全部持ッテ帰ルコトトス。次回ノ二台ハ翼一台ト胴体八十三號一台分送ルコ
トヲ頼ム 二時四十三分土浦発ニテ帰ル

夜十時半馬車式台着 少シ雨ガ降テ居タ。食事ヲサセ、風呂ニ入レ床ヲ取り宿直室ニ
寝サセル

▲▼211ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月21日(日)

天気晴

今村弟死亡ノ爲メ帰国 二十円渡 其他止メルモノ佐々木、足立、中川亀山ニソレ、
旅費トシテ給料ノ内ヨリ支給

保俵(ママ)署ノ分ヲ取ッタラ皆ニ五円ツ、ヤッテ僅カ二十円残ッタダケデアッタ

金太郎今日初メテ無儘(ママ)ノ金ノコトヲ話シタ 大口ニ五十円バカリ取ラレタコト

昨日家内ニ聞イタ話ヲシテ居タ 今日ハ行ッテ懸合ッテ來ルノダト出テ行ッタガ近所ノ
手前モアルカラ、馬鹿気タ、ケンカラシナイ様ニ云ッテヤル

晝迄帳簿ヤ手紙ヲ書キ田中ニ話シヲキキ分工場ノ骨子案ヲ示シス。晝頃清平來 今日

ハ昨夜十時半頃馬力ガツイテ食事ヲサセタリシタノデオソクナリニ時頃ヤット眠ニッ
ケタノデ眠ク午後ハウツ、机ノ下デ新青年ヲ讀ミナガラ眠ッタガ眠リ足りナカッタ。

夕方安岡小供入院ノ爲メ千葉へ行クノデヨル

▲▼212ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月22日(月)

天気晴

朝一寸降リソウデアッタガ後チ晴レテ暑クナル

猿田ノ金マダ來ナイノデ小見川ヘイツオクッタカ聞イテヤル 返ナシ 少々心配ニナッテ
來タ

八時半局へ電話カケル 藤田機完成 鈴木アプロ内部検査申請ス 明日カ明後日中ニ
行クトノ事デアッタ

後チズット鈴木菊雄ノプレーン手入レヲナス

鈴木菊ニ今月中ニ最低百円最(ママ)非作ッテ入金スルコトヲ命ズ

夜大蔵來。ペラ明日ノ分呉レルコトニ決定シタトノコト スデニ早クカラ、キマッテ居タモ
ノデアッタロウ

廿七日西田點呼ノ爲メ來ノデ其時飛ンデ見タイトノコトデアッタ。田中報告ニ中村帰
リタガルトノコトニ母ヲ呼ビヨセルコトニ決定ス

▲▼213ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月23日(火)

天気晴

朝事ム所ト屋根ノ掃除ヲ行ツテ仕事ニカゝル ドウモ朝少シ早く起キナケレバ考ヘル余裕
ガナイ 自今予定ヲツケルコトニシタイト思フ

朝鈴木菊雄ニ今日ノ試飛行ヲ頼ミニヤリガソリンヲ買ヒニヤル

九時局へ電話カケニ行ク 十時半頃漸クカゝル 今日行ツタトノコト 帰ツタラ辻本氏來
テ居タ。ソユエ石ノ會計ガ來テ居タ 田中ト話サセタガ、ラチアカズ自分交渉シテ今
月中ニ支拂日ヲ返事スルコトトス。後坂本氏來ル 検査鈴木アブロ内部検査終了 左上
翼一枚テスト試験ノ上決定スルコトナル。藤田ノ分千百位ニテ少シ振動アリ 翼ワイ
ヤーベ直スコト。エレロン胴体下ノワイヤー新ラシクスルコトニテ試飛行行ワズ

▲▼214ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月24日(水)

千葉保儉(ママ)署來ソウナ氣ガシタラハタシテ正午頃ヤツテ來タガ手紙ヲ出シタアトデ
アツタノデ写シヲ見セル。京成先キニ支拂ツテ保儉(ママ)ヲアトニシタコトハ非常ニ氣ガト
ガメタガ止ムヲ得ナカッタ アトハタゞ猿田ガ金ヲ送ツテ呉レルヤ否ヤニアルノデ心配デ
アツタ 昨日手紙出シタガ今日又電報デ打ツ

田中所沢ノ條件ヲ定メル。骨子トナル處ノモノ營業權ヲ五千円 之レハ責(ママ)權責(マ
マ)務ヲ以テ田中引受ケルコト 但シ本工場千四百円ノ責(ママ)權ヲ認メルコト 建物
器ヲ千五百円トシ之レハ田中ノ預リト未給千五百円デ差引 残高ハ新規貸金トシテ認メ
ルコトトス 自分顧問タルコト田中ヨリモ望ミ承認。今日ハ東日ヘヤル脚ヲヤツタガ夕方
ニハ非常ニツカレル 暑サノ爲メカモ知レナイ

▲▼215ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月25日(木)

六時宅ヲ出大蔵ニヨリ上京 佐藤へ鈴木ノ配電盤トピンヲ頼ミ立川ニ行ク 途中万世ニ
テ土産モノヲ買ヒ、食事ヲシテ十一時立川着 木下氏宅へ寄り飛行場ニ行ク 一二三日
内ニ神田ノ佐藤込自動車デ届ケサセルトノ事ニ依頼シテ帰ル。藤田ニ会ヒ荒木ニ会ヒ、
朝日ノ義勇號ノ操縦線ヲ取替中ノ高野上野ニ会フ。日本航空ヲ見学シ、東日ニ西田
ト会ヒ保儉(ママ)証ヲ受取り帰途ニツク

池袋ノニオンニヨル 小曾根氏病氣デ会空ズ 一二日内ニ工場へ來ルトノコトデアッタ 東
日ニヨリ、清平ノ下宿ニ行ク 五時ヨリ八時迄待ツ。電気ノ事ニツキ知識ヲ求メ黒江町

ニテ夕食ヲ取ル。安ス洋食ノ爲氣持チ悪ルカッタ
立川へ。テラ取りニ行クコト

▲▼216ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月26日(金)

天気晴

昨夜來十数回ノ下痢デー一寸モ寝ラズツヒニ出ルモノガナクナツテ胃ガ悪ルク上ゲ初メ
タガ之レ又出ルモノナク晝頃最モ苦シカッタノデ宮内醫師ヲ頼ム 少シ眠タラヨカロウ
トテ注謝(ママ)シテ呉レタノデヌツカ間モナク 眠ツタヨイ氣持デウツ、シタラモウスツ
カリ直ツテ居タ
猿田へ二通金ノ打電シタガ返ナシ
夜川辺へ名刺ヲ持タセテヤツタガ不在
夜田中來 根岸機又破損シタノデ金呉レソウニモナク止ムナクバ發動機ヲ貰ツテ來ルコ
トニスル爲田中ヲ出張サセルコトニキメル

▲▼217ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月27日(土)

天気晴

七時十分前起床 終日マダ下腹ガ変デアッタ
午前中帳簿ヤ手紙ヲ書キ午後一寸仕事ヲナス
夕方漸クヨクナッタ

川辺金 ダメ
小栗金 田中出張
猿田金 返ナシ

▲▼218ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月28日(日)

天気晴

朝出縣(ママ)様ト思テ居ル内ニ佐野利一來 最近ノ材料ノ手形ヲ渡ス 九時頃ヨリ信
太郎ヲ連レテ太神宮下ノ柴田養蜂所ニ行キ二時間余リ話シヲ聞イテ一個巢箱ヲ求メ
宗里ニ行キ金ノ件ヲ頼ミ帰宅ス。橋本國來 今夜泊ラセル
午後田中船橋へ飛行ニ行ク 夜清水へ金ノ交渉ニヤル予定ノ處万一不在ノ場合ヲ考慮
シテ明日ノ事トス

▲▼219ページ▲▼ 昭和4(1929)年7月29日(月)

天気 晴

朝山田君二會ヒ尚宗里金ノ件ヲ頼ミ、佐藤へ電話ヲカケテ帰宅 晝前田中出張 橋本ハ格納庫登記シテ呉レトノ希望デアッタガ、登記スルト公ニナツテ今後ノ活動ノジヤマニナルノデ譲リ渡シ及ビ名儀(ママ)変更ノ委任状ヲ書イテ渡シ之レノ預リ証ヲ受取ツテ居ク

午後仕事ノ手傳ヒヲナス

夜九時頃アンマシテ貫ツテ居ル處へ今日仙台へ飛ンデ行ツタ鈴木カラ昇降舵ガ壊レタカラ代リヲ持ツテ來テ呉レトノコトニスグ手配シタガ今夜ノ汽車ニ間ニ合ワズ、トラックヲ頼ンデ明朝ノ一番ニ乗ルコトニ手配シタガ二時ニ起スノガ十分遅レタ、メ、乗リオクレ他ノ自動車ヲ頼ンデヤッタノデ一番ニ合ツタカドウカ不明デアッタ 午前四時眠ル

◆▼220ページ◆▼ 昭和4(1929)年7月30日(火)

天気 晴

七時十五分前起床 事務所ノ掃除ヲナシ猿田其他ノ手紙ヲ書ク

木工場ヲ整理シ鈴木ノアプロ受檢準備フトトノエテ待ツタガツヒニ來ラズ。正午過ぎ片岡、立花來 明日檢査來ルトノコトデアッタ。小栗機試運轉ノ手傳ヒ

夜夕食後夕刊ヲ讀ミ切ラヌ内ニ眠クナリ床ニツク

鈴木菊雄朝帰ツテ來テ、スグ門松ノアトヲ追ワセル

◆▼221ページ◆▼ 昭和4(1929)年7月31日(水)

天気 晴

六時起床 今日ハ借金ノ事ワリヤラ何ラカト手紙ヲ十数通書ク

片岡立花早く來テ飛行シタガ立花君ガ電話ヲカケニ行ツタラ今日モ檢査ニ來ラレナイトノコト 明後日頃ニナル由 イヤニナツテシマウ。午前中ハ手紙ト帳簿デ終ル

朝田中帰ル スグガソリン代トシテ(運賃)請求書提出ス

午後仕事ヲナス 宗里今日モヤツタガ金呉レズ鈴木モアス送ル予定トノ電報アリ 止ムナク夕方イスパノノシリンダー拂下ヲ行ヒ五十余円ヲ得 夜八時床ニ入ル

學校復活ニツキ學校ヲ廢シライトプレーンクラブトシテ練習生ヲ募集スルコトトス

◆▼222ページ◆▼ 8月

鈴木機完成

ハンサー着手

工場アブロ
三葉完成

▲▼223ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月1日(木)

天気晴

朝局へ電話カケル 明日ハ必ず行クトノコトデアッタ
田中佐藤へ配電盤取りニヤル
學校復活ニツキ考慮ノ末ヤハリライトプレーンクラブデヤルコトト決シ今日ハ其規則書
ヲ作ル

午後一寸作業ヲ手傳フ

鈴木菊宅ヨリ五十円持参 アト五十円スグオクル様打電ス 門松本日モ帰ラズ

▲▼224ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月2日(金)

天気晴

辻本氏十時過ぎ來 小栗機飛行ス
鈴木アブロ下翼ニ一枚通過 胴体ヨシ 上翼ニ一枚明日判定ノ上大蔵ニ返事スルトノコト
デアッタ

夕方晝頃門松帰ル 帰途車中ニテ気分悪シク鈴木克衛宅ニ泊セル由

夜清平來 明日大坂ニ帰ルノデ信太郎同行ノ爲メ 信太郎學校不成績ニツキ明日カ

ラ講習ニヤル予定ナリシモ家内モヤリタガルノデ、ツヒニヤルコトニス

夜家内川辺ニ行キ七円取ツテ來ル

宗里金呉レズ。猿田打電セシモ返ナシ

▲▼225ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月3日(土)

天気晴

信太郎ヲ大坂ニヤルニツイテ準備ス 土産物ニ困ッタノデツクダニノ外ニ有合セノカケジ
ヲ持タセテヤルコトニス

午前青山ノ見積書ヲ作り同三型ノ修理ヲ手傳フ

田中ノ姉及小供等來 飛ンデ見セテ居タ 汐ノ來ル時デモ田村ト桑原ガ來テ又準備
シテ居タ シバラクシテ出テ行ツタ。信太郎ノ出發デマギレテ居タガマダ帰ラナイ様ナノ

デ田村ニ聞クトモウ五十分ニナルトノコト 見ニ行ク様ニ命ジテ又仕度シテ居ル内ニ船
橋ノ山田君ガ自動車デ縣(ママ)ケ付ケ八千代橋近クオチタ 田中ハ大シタコトナイガ

桑原ハアブナイトノコトデアッタ スグ皆連レテ出縣(ママ)ケル 樋口ニ、十円渡シテ現

場ノ方付ケヲ命ジ、田中ノ居ル病院ニ行ク 大変ヨクムネノ打撲傷デ一週間程安静ニセヨトノコトデスグ自動車デ津田沼ノ帰り自宅ニ入ル。自分ハ再ビ桑原ノ入院先キニ行ク マダ手當モシテナカッタ 大分痛ガツテ居タ 夕方迄礼廻ヲシテ、安岡ト共ニ帰ル。何トモ引ツゞキノ事故デソレガ皆違犯ナノデドウモ工合ガ悪イ

▲▼226ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月4日(日)

天気晴

ユツクリ寢テ七時半起床 手紙ヲ書キ朝食後九時半田中ニ行ク 入院シタイトノ事ニ自動車ヲヨビニヤリ千葉醫大へ連レ手續キヲナシ一区ノ七號室ニ入ル。中村ニ会フ 大分ヤセテ居タ ニ云フコトハ大変ヨカッタガ音声ガ上ツテ居タ。オチツキガナカッタ 式日ノ支拂ガマダシテナイノデ氣ニツタガ如何トモ出来ナイ

二時頃終ツテ船橋ニ直行ス今夜ガアブナイカモ知レヌトノコトデアッタ 警察ニ立ヨリ帰宅ス
五時頃ニナル

▲▼227ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月5日(月)

天気晴

五時起床 徳次ト一所ニ千葉迄行キ六時十分病院ニツク 田中ニ會ヒ今日船橋警察署へ行クニツキ打合セテナス。尚過失傷害デアツタエラレヌ要(ママ)心ヲ要トトテオドカシテ居ク。一端帰宅 朝食後船橋ケイサツニ行ク 墜落ノ件ニツイテハ何ニモ聞カズ本人ノ経歴ヤ飛行機ノコトダケデアツタ 病院ニヨルト今日ハ大變ヨイトノコトデ明後日頃慶應醫大ニ入院サセルトノ親戚ノモノノ話トノコトデアツタ。スグ上京 佐藤ニ行ク マダ鈴木ノ配電盤出来テ來ズ 二時過ぎ店員ノ帰リヲ待チヨクタクノンデ東日ニ行キイス。パノ三百ホシイトノコトニ一合譲ル約束シテ帰宅

今日ハ日本飛行俱樂部ノ会合デアツタガ遠慮シテ居ク 最モ昨日川辺君ニ頼ンデ居イタカラ

夜早く眠ル 今日ハ非常ニツカレタ

▲▼228ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月6日(火)

天気晴

朝鈴木ノアプロノ翼使用ノ件ニツキ局へ電話カケタガ午後一時迄ツヒニカゝラズ 佐藤へ配電盤ノ事ヲ聞合セテ中止ス

安岡稲毛へ同乗者乗セニ行キ五六十円カセイダ由

▲▼229ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月7日(水)

天気 晴

六時半宅ヲ出テ上京 佐藤ニヨリ配電盤受取ツタガヨクナカッタ 局ニ行ク 田中ノ事故報告ヲナス 先ヅ森サンニ話シ課長、田中サン 次ギニ鈴木ノ仙台着陸ノ件ニツキ練兵場使用許可ヲ打電シテ貰フコトノ諒解ヲ新井氏ニ。イツレモ違ハシ事件ナノデ課長カラトテモヒドクヤラレタ

例ノ調子デ人殺飛行場ダノ、モウ補助金ハヤラナイ、ソシタラ止メルダロウダノ、トノ事デアッタ 之レハ半分ジヨウダンラシク半分ハ本當ノ事ナノデ、ユダンガナラナイ 後チ東日デ吉田君ニ會ヒ課長ノ眞意ヲ聞イテ貰フコト 尚工場ノ立場ナド話シテ頼ム。協会ニ行ツタガ誰レモ居ラズ、邦楽坐ヲ一寸見テ五時帰宅 今日ハ寒ニヒドイ暑サデアッタ

▲▼230ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月8日(木)

天気 晴

本年ニ入ツテ最大ノ暑サ 日中三十五度八トノコト 藤川ト云フノガ今日カラ入所ス 大キナ男デアッタ

朝安岡ニ行ク 昨日ハ成績悪ク金ガ余リ取レナカッタトノコトデアッタ 山田君ニ行キ 宗里君ノ分十円受取ル

鈴木菊ヨリ許可出タ今日中ニ帰ルトノ入電ガアッタガツヒニ帰ラナカッタ

▲▼231ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月9日(金)

天気 晴

今日ハ風ガアッテ少シ楽デアッタ 田中退院スルトノコトニ門松行クノデ服ヲ届ケサセル 朝安岡ニ行ク ヤット五円ヨコス。トウ、ガソリン代ガファイニナリソウダ。小栗ノ一型 借りニ行ツタ

夕方鈴木菊仙台ヨリ甲三ニテ帰ル 明日局へ出頭スル様ニ云フ

▲▼232ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月10日(土)

天気 晴

昨夜少シ下痢シタノデ今朝七時迄床ニ居タ

九時頃奈良原氏來場 直昇飛行機ノ件ニツイテ。イスパノ三〇〇トローン八〇ヲ拂下

テ貰ツタトノコトデアツタ 十時半頃帰ヘラル

西田君過日吉田氏カラ話シノアッタイス。パノ三百取りニ來ル 今迄使ツテ居タ分ヲ持ツテ行ク

井上保氏來場 山形ノ大場機タゞ預ツテ呉レ 一切マカセルカラトノコトデアツタガ運賃迄ハ出セナイトノコトデアツタ

西田ニ木下氏宛手紙事傳テ。ヘラ受取り方頼ム

▲▼233ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月11日(日)

天気晴

六時起床 朝ノ内ニライトプレーンクラブ規則書ヲ原稿用紙ニ記入シ様ト思テヤツタガ何ンダカウスラ眠ク間違ヒ多ク出來ナカッタノデ少シ横ニナツタラ、関東商業ノ學生ガ來タノデ起サレタ

所沢ヨリ高橋來 田中ト合ワセル 田中十五日迄ニ所沢ニ住ミ着クコトトス

川辺君來 學生ニ説明ヲ與エテ居タ

安岡宗里ノアンリオヲ借りテ一端着陸後稲毛ヘ行ツタ 今夜日野ト鈴木菊同道信州ヘ場所ヲ見ニ行ク由

▲▼234ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月12日(月)

天気 晴夕立

辻本氏來場 青山甲三、横廠検査。青山分合格 横廠片岡ト合議ノ上止メル事トス 午後三時頃ヨリ千葉方面ニアヤシキ雲起リ四時頃東京方面ヨリノ雲ト合シテ降り初メタ 雨ヨリモ雷ガカナリハゲシカッタ 七時頃迄鳴リ通シ。小供ハお蔭デオトナシクナツタ

▲▼235ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月13日(火)

天気 晴

今日モ夕立アリ ヨカッタ

小供ノ爲メニアブロノフロートヲ出シテヤツタラ夕立前トヨニ行ツタカ分ラズ、サガサセルト溝ノ方ヘ行ツテ居タノデ驚イテ川辺末君ニ行ツテ連レテ帰ツテ貰フ

千葉病院ヘ門松ニ外科ヘ代ツタカ見テ來テ貰フ マダ精神科ニ居ルトノコト 午後看護來ナゼ代ラナイカ聞クト退院スルモノトバカリ思ツテ迎エテ待ツテ居ルトノコト 何ンダ田中ノ報告デハ、レントゲンヲカケテ手術スル爲メ外科ヘ代ルコトニナツテ居ルトノコトデアツタノニ

▲▼236ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月14日(水)

天気 晴

安岡鈴木信州へ行く予定 雲深くカツ機体手入レノ爲メ中止ス
朝運送店へ行き根岸ノ請求書出スコトノ手續キヲナス 判ガ違ッテ居ルノデ一寸困ツタ
明日局へ行ッテ調べタ上父君ノ處へ押シテ貰ヒニ行ッテ來様
午前中十二日以後ノ工場票整理傳票ヲ作り記帳ス
鳥飼孝(ママ)母悪シク鳥飼氏ヨリ大蔵ニ事傳 金イクラデモトノコトデアッタガ今日ハ
困ルノデ其旨返事ス
佐渡島英祿氏ヨリ暑中見舞ニ対スル返事ガ來タ。ソレニ、ツチカヒシ朝顔咲クヤ、トナ
リ庭 トアリ面目ヲ失ス。何ントカ適當ナ返歌ト思タガ中々出來ナカッタ

▲▼237ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月15日(木)

天気 晴

時事 ツエ伯號世界一週第二コース東京へ向ッテ出發ス
安岡鈴木ノ出發ヲ見テ上京 局ニ行ク
富田氏ニ根岸ノ分ノ事依頼シ青山ノ内部検査ヲタノミ東日ニ行キ三百ノ發動機ノ値
段ヲキメ小物ノ分ダケ受取ッテ帰ル
ツエ伯號今朝午前四時三十四分フリードリッヒハーゲン出發セリト
大坂付近颱風ノ爲メアレテ居ルトノコト 四時半帰場後工場ノ風ニ対スル準備ヲナス
夜次第二風強クナル
今村夕方青森ヨリ帰ル

▲▼238ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月16日(金)

天気 晴曇雨風

今日ハ終日アレテ居タ
作業ハ鈴木ノアブロ金物取付。樋口午後休ム
颱風ノ、アトシノバスル、桐ノ木ニ
ニワカニ秋ヲ、思ワスルカナ

▲▼239ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月17日(土)

天気 曇リ

先日來眼付キガ変シテ声ヲ出セナクナツタトテ氣ニシテ居タ照子ヲ今日醫師ニ連テ行クト乳児カッケデ眼球ケイレンヲ起シテ大分悪イトノコトデ驚ク

▲▼240ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月18日(日)

天気 晴

時事 ツエ伯號順調ニ來ル

今日ハライトプレーンクラブノ会則ヲ印刷シテシマウツモリノ處十時頃老母死スグ來テ呉レトノ鳥飼氏ヨリ入電アリ ヤット六十何錢シガ金ガナイノデ困ツタガ止ムナク東京迄出カケ有樂町ニ寄ルト丁度鳥飼氏ガ來テ居タ。ソコデ池袋ノ住所ヲ聞イテ、日日ニ行キ吉田氏ヨリ二十円ヲ借り池袋ニ行ク 十円ヲ香奠トシ、役所ノ手續キナドヲ手傳ヒ御通夜ヲナス

▲▼241ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月19日(月)

天気 晴

時事 ツエ伯午後四時五十分東京上空ニ飛來ス

五時御通夜ノ明ケルト同時ニ帰宅 醫者行キノ爲メ五円渡シ少シ寢様ト思ツタガ眠レズ。田中ニ所沢ノ件ヲ打合せ公証スル爲判ヲ預ケ上京 佐藤ニピンノコトヲ請求シ、局ニ行キ工場アプロノ検査願ヒヲ出ス。ツエ伯號ノ飛來デ技術課ハ、ワン、シテ居タ。霞崎ニ行ク 四時頃ヨリ注意スル内見エル、トノコト事(ママ)ニ改正道路迄出ル ハルカ南東方ヲ南ニ向ツテ灰色(銀色ナレドモ)ニ見エル同船ガ、ユル、ト低空ヲ飛行シテ居タ。実ニ何ントモ言葉ガ出ナカッタ

六時告別式モ終リ桐ヶ谷火葬場ニ向フ。初メテ見ル東京ノ火葬場モ中々立派デアッタ。帰ツテ食事後ニオンランプヲ持ツテ帰ルノデ電車デハ困ルト思ツテ居タラ大場佐市君ガ自動車デ押上迄送ツテ呉レテ大ニタスカツタガスツカリ、クタブレテ觀音台デハ地上ニスワリタクナツタ位デアッタ

▲▼242ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月20日(火)

天気 晴

今朝ハツカレテスツカリ寢タ 晝前浦山來 分工場職工ノ代理トシテ解決ヲ乞フトノコトデアツタガ、スデニ田中ト契約済ミノ故ヲ以テ今後ノコトハ田中ト一切交渉スルコトト申渡シテ歸ヘス 明日田中ニ会フ爲メ東京ニ泊ル

午後清平、信太郎帰宅ス。土産ヤラ小遣ヲ貰ツテ來タノデ丁度御米屋ヘ支拂フコトガ

出來タ 然ルニ夜ニナツテモ米ヲ持ツテ來ズ 請求ニヤルト先日ノ分ニ入帳 アトノ分ハ
現金ニシテ呉レトノコトデアッタトカ 渡辺ハ以前カラ取ルナト云ツテ居タノニ、ウマク馬
鹿ヲ見セラレタガ金ガナイノデ困ツタガ金太郎ノ處デ他ヨリ十円借り入レ一時間ニ合
ス

▲▼243ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月21日(水)

天気晴

ニオンライト文字板ヲ作ル 午後分工場譲リ渡シ契約ノ爲メ田中ト千葉ノ公証役場ニ
行ク 時間オソク、ダメノ處頼ンデヤツテ貰フ 處ガ譲リ渡シニ六社員全部ノ同意ヲ必
要トストノ商法ニヨリ自分ダケデ出來ズ一時私証書ニシテ後チ公証スルコトニ取キメ帰
ル

浦山田中ト会ヒ今月中ニ田中行クコトニキメ、其趣キ手紙ヲ以テ帰ル

鈴木帰リタル由 満汐ノ爲メ下志津着陸

今日初メテ照子ガ大声ヲ出シタノデヤツト安心シタ 眼付ハ一昨日カラ、ハッキリシテ
居タ 先ヅコッチノモノダ。金ナク醫師行キ中止 モウ必要モアルマイ

▲▼244ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月22日(木)

天気晴

時事 ツエ伯號故障ノ爲メ出發延期

今日ハ悪イ日デアッタ 信太郎ガ手紙ヲ出シヤルト途中デナクシテシマツタリ、高橋
健ノ千弍百円ノロニツキ千葉ノ裁判所カラ通知ガ來タリシタ

鈴木菊帰ル 宗里ハ六安岡カラ確カニ送ツタ由 夕方佐藤ヲ取りニヤル

▲▼245ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月23日(金)

天気晴

ライトプレーンノ申込ミデハナイガ会ヒタイト云フノガ一人 規則書ヲ送ツテホシイト
云フモノガ一人アッタ

▲▼246ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月24日(土)

天気晴

朝上京 局ニ寄り特許局ニテ、ニオンランプニ関スル特許ヲ取調べ、協会ニ行き道永君ニ
田中ノ見舞金ノ件ヲ頼ミ日日ニヨル 金廿九日頃ニシテ呉レトノコトニガツカリシタガ止

ムナク佐藤ニヨリ材料ヲ求メ帰ル
帰途川辺ニテ少シ話シテ帰ル 馬話カラ除名スルト云ツテ來タトカ、フンガイシテ居タ
今日上京ノ金ニ困ツテ安岡ノ處デ五円取ツテ來タガ安岡カラモ何ントモ云ツテ來ズ不
都合ナ事デアッタ

▲▼247ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月25日(日)

天気 晴

殆ンド終日歴史ヲ讀ム

▲▼248ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月26日(月)

天気 晴

今日ハ手紙デー 金ノ請求ガ大部分デアッタ

青山へ明日來ル様打電シタラ行クトノ返電アリ コレガイクラカ持ツテ來ルダロウ事ヲ
想像ス

今頃ノ様ニ金ガ空ニナルト氣ガ立ツテ來テイケナイ 従ツテ小供ナドニモ温和ナ体(ママ)
度ガ取レス家内迄ガソウダカラコレハ、余程考へネバナラナイ
午後ライトプレーンノ写シモノナドス

▲▼249ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月27日(火)

天気 晴

奈良原氏來場 イヨ、ヘリコプターヲ作ルコトニナツタカラ、アブロノ胴体ヲ讓ツテ貰ヒ
タイトノコトデアッタ 明後日カラチヨイ、ハ、來ルカラトノコト

立川ヨリ青山君來 金ヲ持ツテ來タカト思ツタガ三十一日ニ持参スルトノコト 契約ダ
ケシテ帰ル

鈴木氣仙沼へ行ツタトカ不在 安岡カラハ何ニモ來ラズ。水産試験場へ金ノ請求電報ヲ
昨日出シタガ返來ラズ。夜日日ノ金百三十円這入 ヤット明日山縣ノ祭典ガ出來樋
口ノ約束ガハタセルコトニナル

▲▼250ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月28日(水)

天気 晴

明日十週年祭典ノ爲メ山縣墜落地ノ整理ヲナス 終日カ、ル ソレデモ面目ヲ一新スル
コトヲ得タ

樋口二十五円 山縣ノニ約五十円入ツタノデ皆ニ、式円ヅ、ヤツタダケ。別ニ、十五円
募金ス 今後ハ収入ノ一割ヲ必ず贈募スルコトニス
立花君來タガ金持参セズ。遠藤同ジク。保健署ヨリ三十日午前來テ呉レト云ツテ來タ
イヨ、困ツタ

佐野利一來 來月十五日ノ件確ク約束ス

田中二分工場分契約書会社分私証書ニ調印シテ渡ス

▲▼251ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月29日(木)

天気晴

全員デ工場整理サセル 晝迄カ、ルアト休ム

十時半ヨリ讀経 十二時前終ル 鳥飼夫妻、立川ヨリ荒木、來 伊藤西夫氏ヨリ借物
アリ

鳥飼氏夕食後帰ル

▲▼252ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月30日(金)

天気晴

氣ニナツテ居タ保険署ニ出頭 鈴木氏ノ同情デ八ヶ間敷事ハ云ワレナカッタ 九月十日
頃迄二三ヶ月分入レルコトヲ約シテ公証役場ニ行ク 田中トノ契約ノ爲メ調印ダケシテ
上京 局ニハヨラズ特許局デ願書心得ヲ貰ヒ日日ニ行ク 吉田氏休ミデ大蔵ニガソリン
ノコトヲ頼ミ、高橋健ノ件ニツキ村上熊八辨ゴ土ヲ訪問。ドウセ認メルモノナラ欠席デ
ヨイデシヨウ。差押ナド無イモノシテモ仕方ガナイノダカラ、ヤラナイ様ニ話シヨウ。
其代リ土地ノ方ヲ成ルベク早ク方付ケル様ニサイトノ諒解ヲ得テ、重荷ヲ降シタ
氣持ニナツテ、ツヒデニ造園上ヨリ見タル飛行場ノ設計ヲ買ニ行ク。ナカッタノデ送本ヲ
頼ンデ帰ル

夕方千葉ノ内山來 看護ノ金ダケ明日ニモ届ケルコトニス

▲▼253ページ▲▼ 昭和4(1929)年8月31日(土)

天気晴

待ツタ青山ガ來ラズ水産試験場ヨリ金到着ス 思ワズイタゞイタ 家内ニ千葉へ取りニ
ヤル

荒川沖ト北河ノ手形返送シテ手紙デ諒解ヲ求メル

田中本日所沢へ任ニ着ク 作業台ト帽子掛ケヲヤル 二三日内ニ千葉へ來ルコト、中村

田中引取ルコト 其節田中引受ノ下ニ証書ヲ作ラセルコト、公正証書ニ讓渡シ代金濟ニ

ナツテ居ルガ事実二百円足ラズ受取りノ分アルコトヲ認メル
特許局提出ノ願書ヲ書ク

◆▼254ページ◆▼ 9月

夜間飛行

ライトプレーンクラブ

飛行場設置運動

アンリオ引取り

カスミケ浦機引取り

◆▼255ページ◆▼ 昭和4(1929)年9月1日(日)

天気 晴

ライトプレーン圖ヤ表ヲ写ス

片岡立花等東京ヘヒラ撒キニ行ツテ帰ラズ。シバラクシタラ宗里へ降りタトノ知ラセ 発
焼ケツイタ由

◆▼256ページ◆▼ 昭和4(1929)年9月2日(月)

天気 晴

金ノ來ルノヲ待ツタガドコモ來ズ

◆▼257ページ◆▼ 昭和4(1929)年9月3日(火)

天気 晴

局デ根岸ノ金今日請求書提出シテ呉レルトノコトデ少シ安心。ガソリンノ件デ久松氏
ヲ訪問シタガ余リ乗氣ニナラズ話シヲ止メテ日日ニ行ク 吉田氏マダ來ナイノデ協会ニ
行キ見舞金ノ件ヲ小松氏ニ頼ミ、道永君居ナイノデ飛行場設置ノ原稿ヲ給仕ニ頼ム
日本飛行クラブノ事務所ニ送ルト麓々シク金沢ノ寄附者ノ名ガツラネテアリ、自分ト
川辺ト帽子掛ト書イテ消シテアッタ。イヤナ感シガシタ

新橋ヨリ所沢ニ行ク 片岡不在 工場ニ行キ四時半頃ヨリ田中ト行ク 結局未拂千九
百余円ノ内一廻分地代大毎残金等デ千四百余円トナル内昨年度地代ダケ田中ノ方
デ支拂フコトトシテアトハ田中今後ノ利益ノ内ヨリ支拂フコト 方法ハ田中ト協定スルコ
トヲ話シニ極リ時間ガ來タノデ自分ハ吉田氏へ行ク 八時過ぎ迄待チ所沢ノ結果ヲ報

告シ諒解ヲ得 ガソリンノ件ヲ依頼シテ十二時帰宅

▲▼258ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月4日(水)

天気 晴

青山ヨリ百円到着 今日米二間ニ合ツタ

川辺元自分ノ居タ上ノ坂田ノ別荘ニ引越シテ來タ 過日話シノアッタ東京青年團ノ口ガ進行スルノデ人ガ來テモ都合ガ悪イノデ近クへ來ルトノコトデアッタ。ソレハヨイガサテ金ノドウシタノカ人事ナラズヤハリ氣ニナル

▲▼259ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月5日(木)

天気 雨

久シ振リノ大降りデ百姓ハ大喜ビトノコトデアッタ

午後圖面ト地圖ノ整理ヲナス

樋口止メタノデ送別会ヲ開ク 今村、佐藤門松樋口自分ト五人 吉原ノ女郎屋ノ番頭悪ク云エリ 妓夫太郎ニナルトノコトデアッタノデ久シ振リニ昔シノ女郎買ヒノ話シガハツム

▲▼260ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月6日(金)

天気 雨

リバテイーノペラ穴明ケヲヤル

本日樋口東京へ引越ス

夜ゴソ夜ガソリン到着

伊東左内カラダレカ派遣シテ呉レトノコトデアッタノデ荒木ヲ出張サセ、ツヒデニアシ
リオ引取ラセルコトニ思ヒツキ荒木ニ行ケルカ打電ス。明日返事スルト返電アリ

▲▼261ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月7日(土)

天気 曇リ雨

青山甲三試運轉 ヤ、良好一安心

特許局へネオン點火装置ノ願書ヲ書留デ出ス

▲▼262ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月8日(日)

天気 雨

今日モ又雨 田中ヨリ第一回ノ報告書來ル 職工ノ方大分ゴタツイタガ予定通り行ツ
タト喜ビノ手紙デアッタ 局モ挨拶シテ居イタ由
晝メシニ一杯ノミニ二時間程眠ル
午後キングヲ讀ム

ウツトウシクテイヤニナル気分デアッタ

夕方横田來 菓子折ヲ持ツテ來タ イツモ変ラナイ男ダ 義兄トカニ工場ヲ見學サセ
テ貰ヒタイトノ事デアッタ

▲▼263ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月9日(月)

天気 雨

リバディー。ヘラ穴明ケニ骨折ツタ

後チ造園上ヨリ見タル飛行場ヲ讀ム

荒木來ナイデ電報ヲ打ニヤツタヲ行違ヒニ來タ

六時二十六分上野發デア立ツ事トシテスグ出カケル 伊東君へハ上野カラ打電スルコト。
山形ノ機体引取りノ事ヲヨク云ツテヤル

▲▼264ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月10日(火)

天気 風雨

七百四十六ミリノ颱風近ツキツ、アリトノコトニ午後三時ヨリ休ミ防風準備ヲナス
十五日ノ手形ニツナエルベク青山小栗へ金ノ件準備スル様手紙出ス
木工一名申込ミアリ 手紙ノ書キ方が如何ニモ氣ニ入ッタノデ十五日会见スル返事出
ス 鳥飼ノ方ノ者ハマダ來ナイシ來テモ差支ナイノデ、万一多ケレバ所沢へヤルツモリニス

▲▼265ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月11日(水)

天気 雨

今日ハ必ズ晴レルト思ツタシ予報モソウナッテ居タノニ又降り出シタ 午後少シ止ンデ
御輿シガ出タ 夜芝居モアッタ 九時頃迄見ニ行ク
ライトプレーンクラブノ規則書ヲ書ク

▲▼266ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月12日(木)

天気 雨

マタ今日モ降ル

飛行機ノ検査ガ受ケラレナイノデ十五日ノ手形ニ金間ニ合ワズ 鈴木ニ昨日電報シタガ返ナシ

今日千葉裁判所ヨリ高橋ノ今度ノ地所ノ方ノ競賣通知ガ來タ スグ大坂ノ兄ヘ竹島ノ方ノコト手紙ヲ出ス

上京辨ゴ士ヘ行コカト思ツタガ明日ノ事ニス

▲▼267ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月13日(金)

天気 雨後晴

上京 局デ検査ノ日取りノ打合セヲナス 鳥飼ニ會ヒスプリング注文スル處ヲ聞キ協会ニ行ク 田中ノ見舞金五十円ヨリ出ナイトノコトデアッタガ受取ツテ田中ヲ待ツタガ來ラズ。スプリグノ注文ニ行キ松岡氏訪問 高橋競賣ノ件ニツキ参考トナルベキコトヲ聞イタガ余リ親切デナクッタ 小栗ニ行クガ深川ヘ引越シタトカデ立花君一人居タ スグ帰宅ス

▲▼268ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月14日(土)

天気 晴

高橋ノ件デ千葉ノ國吉ヲ訪問ス 所番地ガ聞キナガラ行ツタガ分リニクク一時間半モ歩キマワッテイヤニナル頃漸クサガシ當テル 國吉ハ高塚式デコチラニ同情シテ居ルシ先方ノ報酬ノ少ナイ爲メニカ、コチラノ都合ヨイ様ニ相談スルトノコトデアッタノト期日ニハ約一ヶ月以上アルシ尚都合次第デ延期モ出來ルトノコトニヤ、安心シテ帰ル 金太郎金ノ件ニツキ変ナ手紙ナドヨコシタノデ夜呼ビヨセヨク申聞カセル

▲▼269ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月15日(日)

天気 晴

朝大蔵ニ行ク 今日西田ガ來ルトノコトデ一日待ツタガツヒニ來ナクッタ

荒木帰ツテ來タ 山形ノアンリオヤハリダメデアッタ 発動機ダケ送ツタトノコト 契約書作りカエテ送ツテ呉レトノコトデアッタ由 晝食ヲ共ニス

晝過ギ清平ト、大坂ノ姉ノ内ニ居タ清チヤントガ來タ パリー美容院ヘ講習ノ爲メ來テ居ルノデ今月デ終ル由 夕食後帰ル

キンヲ東京ヘ出スコトニツイテ家内ノ母ニ違(ママ)論アリゴタ、シタガ夜オソク解決シタラシイ 自分ハ一切ロヲ出サナイ

兄カラ昨夜デンシタキジヲ延期セヨトノ意味デアッタノデ、三十日間ノコトト外ニクワ

シク手紙出ス

▲▼270ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月16日(月)

天気晴

早朝三葉ニ蓄電池ヲ取付サセル 丁度西田來。モビールガ少シモナクナツテ居タノト廻
轉計ヲ取オヌスマレテ居タニハ閉ロシタ 午後廻シテ見タガ千四百ヨリ廻ラズ 追風ガ
カナリアッタノデ明朝ノコトニシテ中止シペラノ取付部ヲ平ニ削リ直ス
今村ヲ猿田へ出張サセル 伊東左内ノ爲替デ間ニ合ス

▲▼271ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月17日(火)

天気晴

今日ハイソガシカッタ。五時起床 三葉ヲ引出シペラヲ取付運轉 千四百四十迄廻ツタ
ガ廻轉計コワレル
坂本、駒林氏來場 青山甲三、藤田アプロ受檢 イヅレモ合格シタガドチラモペラニキ
ズアリ 板金巻キノ上堪航証出ルコトニナル 工場アプロ内部検査終リ通過ス
式時半終了 皆休マセル
夕方川辺ニ行キ碁ヲヤル 三番デ一番勝ち 一番ハ相碁トナル 勝負ナシ。漸ク見エル
様ニナツテ來タ

▲▼272ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月18日(水)

天気晴

青山甲三ペラ板金張り

昨日川辺ニ聞イタ處ニヨルト東京飛行機製作所ニ行ツテ居タ上野、高野、因幡三名共
僅十円ノ手當ダケデ突然解雇サレタ由。美ニヒドイヤツ等デアル

▲▼273ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月19日(木)

天気晴

午前中青山甲三ペラ仕上げヲナス

金ガナクナツタノデ少シ拂下ヲシテ二十二円ヲ得ル

午後信太郎ノコトデ佐倉ノ學校ニ行ク 英語ト漢文ヲ特ニ練習サセテ呉レトノコトデア
ツタ 平均點五點不足ダカラ今少シノ處ダカラトノコトデアツタ

▲▼274ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月20日(金)

天気 晴

終日藤田アプロノペラ板張りヲナス
今村猿田ヨリ帰ル

▲▼275ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月21日(土)

天気 雨

小栗カラ金ヲ取ルベク六時宅ヲ出黒江町近附(ママ)ノ新宅ニ行ク スグ分ツタガマダ寢
テ居タ ヤツテ会ツテイロ、話シテ見タガ一文ニモナラナカッタ 局ニ行キ検査日取り
ヲ相談シ後刻電話シテ廿六日ト決定シタコトヲ聞イテ帰ル。大蔵ニ吉田君カラ金ヲ貰
ツテ帰ルコトヲタクシタガ夜ヤツテ見タラ吉田君來ラズ貰エナカッタ由
夜川辺カラ呼ビニ來タノデ行ク 囲碁ニ番 今日ハ二二回共大石ヲ死ナシテ大敗

▲▼276ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月22日(日)

天気 雨

手紙ヲ整理シ帳簿ヲ記入シ昨年度ノ決算ヲ終ル
中山氏へ貸借対照表 ■ヲ送ルツイデ二分工場始末ヲ報告ス

▲▼277ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月23日(月)

天気 雨

今日仕事ノツモリデ皆出テ來タガ休マセル 嬉(ママ)ンデ居タ 正午ヨリ川辺君ノアブ
ロノスパークヲ見テ呉レトノコトデ第一へ同道ス 一本ダケハイデアルガヤ、ヨイノデ下見
ヲシテ貰フコトニキメテ明日津田沼へ運ブコト

夜川辺君ト囲碁 大敗

▲▼278ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月24日(火)

天気 晴

藤田ノペラ板金巻キヲ仕上ゲル
夜又左手ノ平ノ神経痛デナヤム
キンヨリ無事ツイタコト 女ガキン共四人居テ一人ダケカヨイトノコトデ大ニ安心シタ

▲▼279ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月25日(水)

天気 晴

朝大蔵ガ二十円東日デ借りテ持ッテ來タノデ十円ヲ内ニ渡シ川辺君ヲサソヒ所沢行キ 拂下ニ参加シ小道具ヲ少シ取ル 分工場ヘローン80一台 オソクナッテ六時半工場ヲ出麻布ヤ割ピンノ買物ヲシテ帰宅シタラ十一時デアッタ
夕食又キニシテ床ニ入ル

▲▼280ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月26日(木)

天気 雨

今日ノ検査雨ノ爲メ受ケラレズ困ル 午後川辺ニテ囲碁。居ナイ内ニ藤田ガ來タソウダガ會ワナカッタノハ残念デアッタ

▲▼281ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月27日(金)

天気 晴

朝局ヘ電話シタガ今日明日行ケナイトノコトニ困ツタガ止ムナク銀行ニヨリ手形ヲノバシ荒木三二十日來ル様手紙ヲ出シ青山君ニ當日金ヲ持ッテ來ル様云ツテヤル
午後上京 吉田君ヨリ残金受取り。大蔵ト三人松喜ヘ夕食ヲ共ニス
信州上田ヨリ山田君帰り発動機修理ノ爲メ佐藤ヲ最(ママ)非ニトノコトデ自分ノ帰りヲ待ッテ居タガ時間ガナクナッタノデ連レテ行ツタトノコトデアッタ

▲▼282ページ▲▼ 昭和4(1929)年9月28日(土)

天気 曇リ

伊東左内ノ願書ニ判ヲ押サナイデ出シタノデ今日押ス爲メ二局ニ行ク 丁度受付ニ書類ガアッタノデ押印ス 荒井少佐ニライトプレーンクラブノ件ヲ話シアンザニートアンリ
オノ事ヲタノム アンザニー早速陸軍省ヘ聞イテ呉レタ處マダアルカラ安心セヨトノ事デアッタ

上野ノ院展ヲ見ル

後チ時間ガアッタノデ朝日ニ旭君ヲ訪ネ尚部長ニ会ッテ將來ノコト後差當各務ヶ原ノ仕事ヲ貰フコトヲ話スツモリノ處此間ノ所沢ノ拂下ニ高橋ガ古物屋ト連絡シタコトガ工場デヤッタコトニナッテ居リ不信行爲ヲセメラレテ話シハ次ニス 部長モ不在トノコトデアッタ

◆▼2883ページ◆▲ 昭和4(1929)年9月29日(日)

天気 雨

時事 田中義一政友会総裁今朝キヨウ心症ニテ急死ス 時節柄自殺トノ噂タツ
トウ、雨ニナツタ 予報ニヨルト又颱風アラワル 明日モダメラシイ。午後拂下ヲ行フ
ヤット二十円足ラズノ金ガ出来タガ夜清平ヨリ時間外電報ニテ十円送ツテ呉レトノ事
サテ困ツタコトダ

◆▼284ページ◆▲ 昭和4(1929)年9月30日(月)

天気 風曇

七百十八ミリノ颱風來トノコトニオヒテ居タガ海上ハルカヲ通過シタ爲メ先ヅヨカッタ
荒木モ一日滞在サセル 夕方ヨリ次第二晴レテ來タ
兄カラダメラシイハガキ來ル 中山氏一兩日中ニ來ルトノコトナリ
清平ニ、十円送金シテヤッタ アトデ信太郎ノ定期券ヲ買ワネバナラヌ事ヲ思ヒ出シテ
大困リ 夜家内ガトコカデ借リテ來タ

◆▼285ページ◆▲ 10月

工場アブロ中頃完成

夜間飛行ノコト

三葉受検ノコト

ライトプレーンクラブ進行ノコト

飛行場設置運動

カスミヶ浦引取り

◆▼286ページ◆▲ 昭和4(1929)年10月1日(火)

天気 晴

飛行機ヲ引出シテ待ツタガ検査官來ラズ 十一時電話カケニ行ク 丁度晝ニナツテタレ
モ居ラズ江口君ガ聞イテカケテ呉レルトノコトニ待ツ 一時カ、ル 玉宮サン出テ貰タガ
昨日ハ行ク予定ニナツテ居タガ雨ノ爲メ行ケズ アトイツニナルカワカラヌトノコト フン
ガイシテ見タガ追ツカズ支拂ハ皆コトワル
青山カラ電爲替ニテ取レルトノ入電アリ
中村退院ノ報アリ 電車賃モナイ仕(ママ)末ニ夕方拂下處分ヲ行ヒ廿五円ヲ得

◆▼287ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月2日(水)

天気 晴

時事 神宮式年祭ニテ休ム

昨朝カラ西式強健法ヲ初メタガマダウマク行カナイ 然シ、ヤツテ居ル内ニゲップガ出テ來 奥レイルノデ大分氣持ガヨイ

午後川辺デ碁

◆▼288ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月3日(木)

天気 曇リ

千葉病院ニ行キ約三時間カ、ツテ、ツヒニ來月十日ヲ期日トシテ内山ト連帶ノ借用証ヲ入レテ帰ル 中村ハ今日ボールトヌクノデ夕方門松ヲ迎エニヤル

午後ポツ、ヤツテ來タガ局ニ行ク 西川氏帰ツテ居タノデ交渉 土曜日カナラズ來ル事ニ約シテ帰ル。佐藤商店デ電話ヲ借り所沢へ電話ヲカケ田中ニ中村ノ事、根岸戦鬪機ノコト道具送ツタカナド聞イタリ話シテ帰ル

◆▼289ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月4日(金)

天気 雨

終日大降りデアッタ 明日ノ天候ヲ氣ヅカワレタガ夜晴レタ

夜佐野利一來 大分ヤカマシカッタガ丁度鈴木へ請求ニヤッタラ家内ガ云ヒ訳ニ來テ居タノデ鈴木ニ対シテヨカッタ。今夜ハジメテ千葉ニ入院シテ居ル事ヲ話シタ

◆▼290ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月5日(土)

天気 晴

心地ヨイ秋晴レデアッタ 今日コソ検査官ガ來ルト待チ受ケタガ十時ニナツテモゴズ 一時シビレヲ切ラシテ電話ヲカケニ行ク 出タラ何ント云ツテヤロウカ、モウ、ヤメルツモリデ、ケンカシテヤロウカト思ツテ急報デカケル 西川氏出テ松浦君ガ行ツタトノコトニヤツト安シテ帰ル マダ來テ居ナカッタ 十二時一寸前ニ來場 コンドハ一瀉千里デニ時迄二三台共終ル 大蔵機飛行シテ呉レタ。青山君モ來 今カラ國へ行ツテ明日金ヲ持ツテ來ルトノコトデアッタ

◆▼291ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月6日(日)

天気 晴

今日ハ青山ガ金持参スルトノコトデ待ツタガツヒニ來ラズ米デ心配ス 午後電報ニテ九日持参スルトノコトニ閉口ス
朝相羽君ガ千葉ヘ行ク途中デヨク川辺ト三人話シ合ッテ帰ル 午後千葉ノ代理店主ヲ連レテ再ビ來場。

夕方古賀写真眞店來 藤田ノ機体借りテヤルコトノ話シテ明日キメテ返事スルコトトス

▲▼292ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月7日(月)

天気 晴

米ニ困ツテ家内ガ二十円都合シテ來ル ソレデヤット間ニ合セ明日立川ヘ行クコトニス 今日ノ工藤ノ約束ハハタセナカッタ

物資ニコマル時思想ノ悪化スルノハ実ニ無理ナイ事デアル事ヲツク、感ズル 自分等デモ何ントナクイラ、スル氣持ニナル

西式強健法大分ナレテ來テ十一分デ出來ル様ニナッタ

▲▼293ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月8日(火)

鈴木機ノ條件付ガ馬鹿ニ氣ニナル 局ニ行ク 制限事項曲技ダケニナツテ居タノデホツト安心ス。青山ノ登録申請ヲ出シ鈴木ノハ晝直ス必要リ止メル

立川ニ行ク 東京駅デ元佐藤ニ居タ赤川ニ会フ 立川迄同行ス。青山ト道デ会ヒ學校ニ行キ百円受取ル アト補助金トノコトデアッタガ來月ニナルカラ今月貰ヒタイ旨述べル 廿日頃父ヨリ直接送ルカラ、請求シテ呉レトノコトデアッタ。御国ニ行キクルルジ一部品借りル 代金ハ又何ニカ品物デ貰フトノコトデアッタ 藤田君ガ百円クレタノデヤツト安心 荒木競技会参加打合セヲナシ、東日ニ西田ヲ訪ヒ十三日ノ日曜ニ大蔵ノ都合デ三葉ヤルコトニキメル。自動車デ送ッテ呉レタ。東京ニテ岡田氏ニ電話シ東京駅デ会ヒ羽布受取ッテ円タクヲ張込ンデ帰ル

就床後本ヲ讀ム 益々目ガサエテ眠レナイノデ一時二十分前カラ合掌ヲ初メツヒ二十四分ヤッタ。ビッシヨリ冷汗ヲカイタ

▲▼294ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月9日(水)

天気 曇リ

青山ノガソリンノ件デ朝宗里ヘ行ク 丁度津田沼ヘ行ツタトノコトニスグ停留所ヘ行ツタラ丁度一所ニナル 共ニ來津 氏ハ山田君ヘ一寸ヨリ後來場 川辺君ト久シ振りニオチ会ツタノ晝食ヲ共ニス 談ハ終始貧棒(ママ)ノ話シデイヤニナルガオタガイ之レデハ仕

方ガナイガ自分ノ此ノ数日來何ントカ前途ガ楽シメル様ナ気分ニナレル。或ハ西式ノ御蔭カ、ライトプレーンニ自信ヲ持ツテ來タ爲メカイヅレカダロウ
安岡ノ不徳問題ニテ宗里氏ノ奮(マ)慨甚ダシク問題ニスルトノコトデアッタ

▲▼295ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月10日(木)

天気 曇リ

朝カラ局へ行ツテ青山ノ申請書ヲ出シ工場アブロノ検査ノ件ヲ打合せ 日ヨリ行ツテ大蔵ニコトツケガアッタノデ久松氏訪問 丁度他二人ガ居ナカッタノデスグ要點ニ入り台湾内地ノ定期飛行ヲヤリタイノデ僕ト木下君ト三人デヤロウジヤナイカトノコトデヨイ事デアルカラ讚(マ)成ス。シカシドウモ何故ニ自分ヲ仲間ニ入レルカニツイテ尚ヨク話ソウト思フ内人ガ來タノデ後日ノコトトシテ日ヨリ行ク 一三式ノ車輪發送ヲタノマレ時刻ヲハカツテ日本飛行クラブニ行ク 高木、福永、馬詰來テ居テ競技会ノ打合せアリ。ランチデタ食ヲ共ニ帰宅

▲▼296ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月11日(金)

天気 曇リ雨

各方面ノ手紙ヲ書ク

猿田ヘケレルジ一部品取リニヤル 佐々木ヲヤルノニ金ナク、スシヤヘ米モ入レルノデ三十円借りニヤッタガ十一時過ギニヤツト十円出來ル 半分ヲ米ニ半分ヲ佐々木旅費ニヤル。安岡ノ宅ニヨツテ見タガ家内ガ泣クダケデ困ツタ 僅カシカナイガ一円ダケヤツテ来ル

中山氏ヨリ今夜乗ル明日アイトノ電アッタガドコニ行ツテヨイカ一寸困ツタ
運送店ヘ交渉シテ廿五日ニ支拂フ約束デ山形ノ發動機ト安藤カラノペラ受取ル

▲▼297ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月12日(土)

中山氏今朝上京ノ筈ダガ晝食後行クコトニス

今日千葉裁判所ヨリ書留來 テツキリ高橋ノ検査期日通知ダト思ツタラ白井ノ差押エノ通知デアッタ 一度辨ゴ士ニ会ツテ話シテヤル處迄ヤラセルコトニ腹ヲキメル
上京 佐藤サンニヨリ秋田ヘ聞イタガ中山氏來ナイトノコト 「イワナカ」デ分ラナイノデ聞イタラズグ分ツタ 日ヨリ行キ四時頃迄待ツタガツヒニ來ラズ
吉田氏ト茶ヲノミ後チ立川ヘ電話シテ山形ノ發動機ノコトヲ聞ク 夜歸ル 橋本善喜來タトノコト 川辺ニ泊ル由

▲▼298ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月13日(日)

天気 晴

橋本善喜夜帰ル

▲▼299ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月14日(月)

天気 晴曇

アブロ金具作りヲナス マダ、仕事ハ出來ル

▲▼300ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月15日(火)

時事 早慶決勝戦 早大勝 年俸千弍百円以上ノ官吏ニ一割減ノ決定 號外出ル
戸ヲタ、ク音ニ目ヲサマスト田中デアツタ 時間ヲ見ルト三時 人ヲ馬鹿ニシテ居ル
ド
コカデノンデ來タニチガイナカッタ 五時前迄話シテ長屋へ行ク
中村ニツイテ千葉病院ヲ行ツタ 後チニ聞クト又足ノ甲ノ手術ノ爲メ入院シナケレバナ
ラナイトノコトデ保険署ヨツテ署長ニ手續キノコトヲタノンデ來タ由 ソレハヨイガ、ス
グ入院ニツイテ話シテナイトノコトニ困ツタモノデアツタ
午後ヨリ上京 日日ニテ藤田君カラ金受取ル 知覽君ニ会ヒライトプレーンクラブヲ話
ス
情報學校デ廿八日ノ服ヲ買フ 二十年前ニ帰ツタ型チ

▲▼301ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月16日(水)

天気 晴

銀行荒川沖分入金 所員ニ配當ス
随分儉約シテモトテモオツツカナイ
今後三葉ノ金ガ這入ツテモ之レハ融通資金ニアテ支拂ハ■ニ内入シテ全部延期ヲ乞フコ
トニ決心ス
中村入院ニツキ今日迄ノ經過ニツキ中村ニ手落シテ親共ノ不都合ヲナジル 午後丁度
母カラ礼状ガ來タ

▲▼302ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月17日(木)

天気 晴

今日上京ノ予定デアツタガ發動機タ方ヤット廻シタ處全回デ少シ振動アリ コトニバル

ブス。ピンドルガコスルモノ多く中止シテ作業進行ヲハカル
高橋健ノ格納庫残金対スル判決通知來ル

▲▼303ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月18日(金)

天気晴

安岡昨夜帰ツタトテ挨拶ニ來ル 色々話シテ聞クト宗里君ノ云フ様デモナイ 機体ハツ
イテ居ルガ運賃ガ來ナイノデ引取りナイトノコトデアッタ
今朝アプロ試運転中クレルジー煙出テ調べテ見トル(ママ)ポンプノ出口デパイプガツマッ
テ居タコトガ分ツタ 後チ佐藤ニ注意ヲ與尚一曾勉強ノ必要ヲ説ク

▲▼304ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月19日(土)

天気晴

朝局へ電話シテ検査ノ件聞キ合セタガ皆出張中ニテ今日中ハダメダトノコト ガツカリ
シテ競技会参加モ中止ス 荒木、川辺君行クトノコトニ手紙事傳ル

▲▼305ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月20日(日)

天気晴

田中来 十年式ノペラト火鉢三ツ渡ス
午後庭ノ手入レヲナス

▲▼306ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月21日(月)

天気晴

▲▼307ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月22日(火)

天気曇リ

終日在所。ドウモ神経衰弱ノ様デ心細イ 西式強健法ヲオコラズヤツテ居ルノダガ
中村ニ所沢行キヲ話シ今治療中ノ齒直リ次第ヤル事トス
安岡信州デ世話シテヤッタト云フ山田ト三人岡谷ノ人來場 十一月三日飛行ノ件デ
アツタガ機体間ニ合ワズ藤田ニ添書ヲ持タセテヤル

▲▼308ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月23日(水)

天気 曇り

時事 陸軍台湾帰還飛行成功ス

寒イ日デアッタ 青山自宅へ請求電報ヲ発シタガツヒニ返ナシ 若シヤト郵便ノ來ルノヲ待ツタガ來ラズ 正午ヨリ上京 局ニ行ク 辻本氏居タノデクレルジュートローン検査ノ件頼ム 來週ダトノコトデアッタ。アンリオ、ライトプレーンクラブノ名ニ仕様ト思ツタガ代表者ガ入ルトノコトニ自分名儀(ママ)ニス。クラブハ届出ダケデヨイトノコトデアッタ

日日ニ行ツタガ吉田氏今朝帰京シタガ出社ナク大蔵ト久シ振リデ羽太氏ニ會フ。久松氏訪問 木下氏ニ會フ 話シハ來客多ク出來ズ帰ル 不在中奈良原氏來場 明日來ル由

▲▼309ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月24日(木)

天気 曇り

午前中奈良原氏來場 ドウ云フ關係ノ人カニ三人同道 工場ヤ今後借用スル機体發動機ニツイテ説明シテ晝過ギ帰ル

川辺同道上京 押上デ分レ阿比留先生ヲ訪問 二番低(ママ)當ニツイテノ権利ニツキ聞合セ日日ニ行キ吉田氏ニ車輪値上ノ交渉シタガダメナノデ温度計ヲ買ツテ貰フ約束ヲシ金ノ件ヲ大蔵ニタノンデ飛行協會ニ行ク。田中館博士ノ帰朝談大ニ得ル處ガアッタ

▲▼310ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月25日(金)

天気 曇り後雨

終日在所 頭重ク不快ヲキワム

▲▼311ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月26日(土)

天気 雨

終日大雨 イヤナ日デアッタ

頭痛ハシナカッタガ今日ハ少シノ金デイヤナ目ヲ見タ 米ガ夜ノガナイトノコトデ大蔵ニ依頼シタノガダメナノデ山田ニ行ク 船橋迄行ツテ呉レトノコトニ自動車ヲ待ツタガ二時間モシテ來ズ ツイニ母歩イテ電車デ行ツタガ例ニヨツテ無イノ一點張り 帰りニ吉田ニ電話カケタガ井上喜代司ト食事ニ行ツテ不在トノコト 大蔵デラチ明カズ帰ル 今日ノ分ハドウニカ間ニ合フ 明朝ノ分川辺デ借り井上ノ自動車ヲ賣ルツモリデ古物屋

ヲ見ニヤツタガ不在 明朝ノコト
夜床ニ入ツテカラ清平來ル

▲▼312ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月27日(日)

天気 晴

自動車ヲ見セタガ十円シカ買ワナイノデ中止シニュームヲ見付テ賣ル 十四円余ア
ツタ
米ダケ間ニ合ス

▲▼313ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月28日(月)

天気 晴曇リ

早朝吉田君訪問 車輪ノ金ダメナノデ十年式ノ脚ヲ五十円デ買ツテ貰フコトニキメ午
後一時ヲ約シテ出タガ時間ガ早イノデ上野ノ美術院ニ行ク 五十銭ノ處今日ダケ一
円ダゲ入口迄行ツテ帰ルノモ變デ思切ツテ這ル。トテモ見切レナカッタ 正午出テ上野
駅迄來ルト女ノ人が児供ヲ連テ飛込ミ自殺ヲシタ處デゴツタ返シテ居タ
吉田君ヨリ五十円受取り局ノ井上氏三十一円支拂ヒ、伊東ト青山ノ請求書出シテ
藤田君ガ來ルカト思ツテ大急ギデ帰ル

▲▼314ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月29日(火)

天気 雨

終日在所 田中來場 中村連レテ帰ル
借用証及ビ契約書追ツテ作ルコト

▲▼315ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月30日(水)

天気 曇

工場整理ヲ行フ 木工場ヲ廢シ組立へ合同ス

▲▼316ページ▲▼ 昭和4(1929)年10月31日(木)

天気 晴

朝大蔵ニ行キ伊東左内ノ金ヲ頼ミ山田君ニ第一ノ金ヲ頼ンデ帰ル 九時頃山田君十
円ダケ持參 佐藤仕事ニヤル 川辺君立川行キニ藤田、木下両氏ニ手紙事傳ル

◆▼317ページ◆▼ 11月

工場アプロ受検急グコト
夜間飛行注文取ルコト
三葉受検ノコト
ライトプレーンクラブ進行ノコト
カスミヶ浦引取り
飛行場設置運動

◆▼318ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月1日(金)

天気 曇
寒イ日デアッタ 工場整理

◆▼319ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月2日(土)

天気 曇リ
早朝川辺君ガ心臓デトテモ苦シガテ居ルトノコトニ見舞ニ行ク 宮内醫師ガ來テ注謝
(ママ)シテヤ、ヨクナツテ帰宅 仕度シテ上京 局へ検査ノコトヲタノム 西川氏今日帰ッ
タ處デ明後日決メルトノコトデアッタ。鈴木ト青山ノ補助金出ルトノコトデ請求書持
ツテ行ツタノダガマダ査定モスンデ居ナカッタ。大蔵ノヤツ何ヲ間違エタノカ
夕方早く帰ル

◆▼320ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月3日(日)

天気 晴
五時前起床 五時宅ヲ出七時十五分前ニ上野駅着 七時着ノ汽車ヲ出口デ待ツタガ
中山氏ノ姿見エズ 止ムナク岩中商店ニ行ク マダ電話カゝラズ。近所ノミルクホールニ
テ朝食後八時半再度行ク 丁度中山氏ヨリ電話アリ 十時ニテ帰坂スルカラ東京駅へ
來テ呉レトノコトニスグ行ク 色々聞イタガ竹島ダメラシク千円ダケナラ中山氏作ルカ
ラトノコトニ交渉シテ返事スルコトトス。十時ニ見送ッテ久シ振りデ高見氏ヲ訪問ス 例
ノ方マダ解決セズ困ツテ居ルトノコトデアッタガ家ノ内ハキチントシテ、外観ハ、ソナナデ
モナカッタ 共二代々木ノ競技大會ニ行ク 丁度終ル處デアッタ。長岡サント徳永サンニ、
ライトプレーンノコトデ近々御伺ヒスル旨事ワツテ鳥飼氏ニサソワレ池袋ニ行キ夕食

後近所ノ鳥屋デ久シク、ホシカッタ、コバルトノインコーヲ買ツテ帰ル 家ニハ矢沢サンニ
貰ツタコトニシテ居ク 代価弍円八十銭 安クナッタモノダ 一時八千円以上モシタモノ

▲▼321ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月4日(月)

天気 晴

九時頃ヨリ千葉行き 國吉氏ニ會見 千円ダケニテ打切ルカ或ハ出世証文ニスルカニテ
交渉シテ貰フコトニナリ明後日返事聞クコトトシテ帰ル 午後中山氏兄ハ右報告ス外
ニ手紙七通書ク

▲▼322ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月5日(火)

天気 晴

大蔵安岡來 三葉試飛行 プラッグ悪ク手入レ後ハ汐ノ爲メ地上運轉ノミニテ終ル 明
日天候ヨケレバ今一度飛行ノコト

西川氏來場 クレルヂエートローン80内部検査合格 二時頃帰ル

田中へ内部検査ノ件トアンリオ試飛行ダケ最(ママ)非ヤラセル様峯岸ニ話ス様手紙出ス

▲▼323ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月6日(水)

天気 曇

終日在所 米ハマダアルガ金ガナク千葉へ行クコトモ出來ズ無爲ニ日々オヲ送ル 中君
明後日東京着ナノデ其金ニモ一寸心マヨウ

▲▼325ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月8日(金)

天気 曇リ

午前中小雨 午後ヨリ千葉行 國吉ニ行ク 今度ハ高橋ノ方カラ話シガアル筈ダカラ
返事有次第知ラセルトノコトデアッタ。徳永氏訪問 ライトプレーンクラブノ會計カン
トクヲ頼ンダガ金ノコトトノコトニ名譽顧問トシテ時々講演シテ貰フコトノ諒解ダケヲ
得 後チ民間ノ問題ニツキ聞カレタノデ、スデニ行ツマツテ居ル 今日合同以外ニ六道ノ
ナイコトヲ説クト非常ニ共鳴シテ最(ママ)非何ントカシタイモノトコトデアッタ 方法ト

シテハ熱心ニ努力スル人ガ一人アルカ、協会ガ指導シテヤルカ最モ確実性ノアルノハ局デ
マトメルコトデアル

今日川辺ヨリ五円入り大蔵ヨリ五円受取ル

◆▼326ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月9日(土)

天気 晴

昨夜ハ徹夜デ演習アリ タエズ砲声ガシテ居タ 今朝ハ前ノ街道ハ軍隊デ一杯デアッタ
朝アプロ試運轉ヨカッタノデスグ上京 局ニテ検査日取リヲ來週木曜日ト決定。三葉
試験成績表ヲ西川氏ニ渡シテ日日ニ行キ車輪ノ金デガソリンノ件ヲ交渉シタガ金六十
二月トノコトニ出來ズ。直接細山ニ交渉センカト考ヘタガ一寸タメラワレタ

鳥飼氏ニ會ヒ、マグネトヲ買フコトヲ約シタガアマチヤーガトケテ居ルトノコトニウンザ
リシタガ見タ上ノコトニス 協会三行ツテ中君ヲ待ツタガ來ラズ 明日ニナツタトノ入電
アリ帰宅ス。川辺ト安岡ハ中ガ來ルツモリデ待タセテアッタノデタ食ヲ共ニス 終ツテ安
岡ヨリ川辺氏ニ内田君ノ件ニツキ誤解ノ點ヲ解カレタシト話シ合フ

◆▼327ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月10日(日)

天気 雨

今日ハ中君ガ來ルトノコトデアッタガ雨がハゲシイノデ、來ナイダロウト思ツテ午後ヨ
眠クナツタノデ少シ横ニナツテ居ル處ヘヤツテ來タ。色々シ振りニ話シコミタ食ヲ川辺
ト三人デナス 安岡見ニヤツタガ不在 現在將來ニツキ食後大ニ論ジ合同論ニ及ビ彼レ
ノ筆デ輿論ヲ喚起シテ貰フコトヲ頼ム

夕方前田猿田氏來 猿田氏ノ水上前田氏購入 猿田氏破損機整備依頼ヲ受ケル

◆▼328ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月11日(月)

天気 雨

今日モ雨 中君午後上京ス 高下駄ヲ借(ママ)ス

◆▼329ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月12日(火)

天気 曇後晴

安岡來 アンリオ鮮人高橋ガ買フコトニナツタカラ諒解シテ呉レトノコトデアッタガ絶対
ニ不可ヲ返答ス 夕方高橋三郎來タガ同様コトワル ドウモ内田ノ關係ラシイ様ニ思ワ
レタ

田中へ不道德ナ取引ヲシナイ様ナ意味ノ手紙出ス

▲▼330ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月13日(水)

天気 曇リ

仕事金欠ノ爲メ作業進メラレズ 工場整理ヲナサシム

▲▼331ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月14日(木)

天気 曇リ

局へ電話シテ漸ク明日阪本氏來場ノコトニキマル

局ヨリ帰途保健課長ノ一行ニ会フ 帰宅懇談 今月ニケ月分來月ニケ月分三葉ニデア
ト全部ト口約ス

▲▼332ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月15日(金)

天気 晴

朝暗ク少雨アリ心配シタガカラリト晴レ嬉(ママ)ンダガ坂本氏來場。発動機少シノ振
動ノ爲メオソク迄重々ヤツタガツヒニ次回トナリ坂本氏帰ラルアトデ、藤田君ノペラ
フ付替テ見タラ、ピリットモセズペラガ悪イコトヲ確カメタガ霞ヶ浦ノペラツク迄ヤムヲ
得ナイ スグ聞キニヤルトマダ案内モナイトノコトデアッタ

▲▼333ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月16日(土)

天気 曇リ

時事 陸軍大演習水戸ヲ中心ニ行ワル

今村ニ模型ノ圖面調査ヲ命ジ上京 局ニ行キ坂本氏ニ昨日ノ発動機ノ振動ペラデアッ
タコトノ報告ヲナシ、アンリオ名儀(ママ)勝手ニ変更出來ザル様諒解ヲ求メタル處願書
提出ノ要アリトノコトニ荒井ニオソワリ書イテ出ス 坂本氏ニ頼ンデ貫ヒ課長ニハマダ見
セナイデ居イテ貫フコトトス。内論ノコトヲ知ラセタクナイ爲メ、補助金ハ漸ク明後日
經理へ廻ストノコトデガツカリシタ。日日ニヨリ、鳥飼ニ寄ル マグネトヲ見テ一時事ワツ
テ居ク 十九日、老母ノ百ヶ日ヲツトメルカラ参ッテ貫ヒタイトノコトデアッタ 協会ニ
行キ長岡氏ヲ待ツ間馬詰ニ会フ 十八日会合スルカラ最(ママ)非來テ呉レトノコトデア
ッタ

長岡氏会见 クラブ名譽顧問ノ諒解ヲ得。飛行クラブ名稱問題ニテ長岡氏ヨリ話シア
リ 右徳永氏ニ任シタキ旨考ヘテ居ク

日比谷ノ盆栽屋ヲ見テ帰ル
夜田中安岡來。田中大分ヨツテ居テイヤダツタガ今夜帰ルトノコトニ会フ 高橋へアン
リ才賣タ件ニツキ今月金ガステニツキタコトカラ諒解ヲ求メタノデ今日ハ兎ニ角聞キ居
クコトトシテ帰ヘス。川辺君來 安岡ニ内田ノコトデカレコレ云ツテ居タガ要領ヲ得ナカッ
タ。自分聞キ役トナル

▲▼334ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月17日(日)

天気 曇リ少晴

六時半起床 七時半駅へ。ラツイタカ見ニヤル 今日運搬スルトノコト 伊東左内君ニ金
借りタコトヲ詫ビト諒解ヲ得ル手紙ヲ書キ昨夜ノ田中ノ辨解ヲ詫ビ状代リニ証書ヲ取
ルコトニシ下記キヲナス 今日ハ何ンダカ勇氣ガ出デ、ジツトシテ居ラズ、頭腦モ茲ニ一
三日非常ニ透明ナノデ千葉ニ行クコトニス、徳永氏ヲ訪問シタガ不在 軍服着テ出タガ
行先キ不明 ヤムナク竹内氏へ先キニ行クツモリデ附属小學校前迄來ルト運動会ヲシ
イノデ、何ンダカ徳永氏ガ來テ居ル様ニ思ワレタノデヨツテ見ルトハタシテ居ラレタ 第
六感ノ的中。長岡サンノ顧問承認ト同時ニ徳永氏ノ同問題モ承認ヲ得。長岡氏対馬
詰ノクラブ名儀(ママ)問題ニツイテ、調程(ママ)方打合セヲナシ、合同問題、飛行場問
題ヲ懇談シテ、竹内氏へ行ク 一寸宅ガ分ラズ、クタブレタガ不在ノ處スグ帰ツテ來テ
ト会員ノ申込書ヲ受ケ、海外交渉ノ手紙ヲ書イテ貰フコトトス 晝食ノ馳走ニナリ三
時半帰ル。夕方へ着 田中今朝帰ツタ由 会エナカッタノハ残念デアッタ
今朝今村退所決定 尚今年内ヅテ滞在承認 一安心ナス

▲▼335ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月18日(月)

天気 曇少雨

午前十時ヨリ上京 佐藤ニヨリ局ニ行ク 玉宮氏ニ三葉ノ件頼ム 計算ヲクワシク出シ
テ貰ヒタイナドトノ話シモアツタガ今一度辻本氏ニ調ベテ貰フコトトシテ帰ル
東日一寸ヨリ久松氏ニヨリ協会ニ行ク 日本飛行クラブ会合ノ爲メ、七時迄会議
漸ク學校講習費ノ協定一種ニ種ト区別シ一種百二十円二種百円トス 練習生徒業
員ノ争ダツヲナサザルコト 外ニ協会へ飛行士奨励金増員増額請願ノ件ヲ決定ス 会
食後散会 鈴木菊雄ト久シ振りニ浅草ノ活動ヲ見テ帰ル 十一時半

▲▼336ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月19日(火)

天気 晴曇

晝頃ヨリ上京 日日へ行き大蔵ニ前田君ノマグネト一渡シテ居ク

時刻ヲハカッテ池袋ニ行キ少時待ッテ田中來 高橋田中ノ証書ヲ取ルコトノ話シ承認シ
原稿ヲ渡ス 尚外ニ今度ノコトニツキ注意スベキコトヲ手帳ニ書キツケ渡シテ居ク
五時鳥飼氏ニ行キ七時散会 帰宅ス 余リ御馳走ガアッタノト何ニモ持ッテ行カナカ
ツタノデキマリ悪カッタ

◆▼337ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月20日(水)

天気 曇

今日ハ終日工場 中央格納庫ノ整理ヲ終ル
模型製作ノ方ヲ手傳フ

伊東左内君カラ手紙ガ來テ居タ 大分困ッテ居ル様子デアッタ 誠ニ氣ノ毒ナコトヲシ
タ

局へ晝電話シタガタレモ居ラズ検査未定

田中來テ居タ(昨日ノ件解決ノ爲メトカ)ガ本石町ノ叔父危篤ノ電報ニ驚イテ歸ル

◆▼338ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月21日(木)

天気 晴

千葉へ出カケテ居ル處へ佐野君來 手形不渡リデ歸ッテ來タトノコト 今度ハ銀行カラ、
チットモ通知ガナカッタノデマダコナイモノト思ッテ居タノニ困ツタガ今日局ノ方聞イテ
返事スルコトニス 先ヅ徳永氏訪問 不在ノ爲メ白戸ニ行キ久シ振りデ会フ 主人東京
へ間モナク出懸ケル 局へ行クノガオソクナリソウナノデ技術課ト管理課トニ電話シテ
検査ノ件ト補助金聞合セル 検査官一名モ居ラズ 補助金來週中ニ六出ルトノコトタ
方佐野へ右打電シハガキヲ出シテ居ク

徳永氏ニクラブ名称中サイノ件ヲ依頼シ、船橋飛行場設置請願書原稿ヲ讀ンデ居イ
テ貰フ様渡シテ居ク

帰宅シタラ徳島ノ坂脇氏來場 持ッテ居タ ローソ部品持ッテ歸ル

◆▼339ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月22日(金)

天気 曇リ

終日在所 局へ電話シタガマダ一人モ居ラズ 何日検査ニナルコトヤラ

晝前川辺宅ニ行ク 天王寺谷マダ居リ、二人ニナツタ時早川氏ガ僕ニヒソカニ会ヒタイ
心持チヲ持ッテ居ルコト 寺谷ガ川辺ノ救済ノコトヲ話シタラ、早川ヲ先ヅ伊藤君ヲ何
ントカセネバイケナイト云ツタトカ。東京製作所へ荒木ヲ入レタノハ將來北山ヲ止メサ
セ荒木ニヤラセル御膳立ダトカ色々好意ラシイ話シデアッタガ早川氏ニハゴ解カモ知レ

又ガ、イ、氣持ハ持ツテ居ラナイガ、イツレ御好意ヲ考慮シテ会フコトニシマシヨウト答エテ居ク。内田ノ件ニツキ川辺ト安岡ノ中ニ入り天王寺谷ガ中サイシテ特別課トシテ、アンリオデ練習スルコトヲ許スコトニシタトノコト ヤハリ、アンリオハ内田ノモノナリトノコトデアッタ

▲▼340ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月23日(土)

天気 晴

鈴木ノ計算書ヲ作り請求ス 五百五十余円ニナッタ 今日ワツカニ五円持参ス

▲▼341ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月24日(日)

天気 晴

金ガナクナルト仕事ガハカドラナイ 今月ハツヒニ何等仕事ラシイ事ヲ出来ナカッタ 三葉ノ試験モイツノコトヤラ氣ニナル

佐藤ガ此頃碁ヲ初メタノデ且代君トノ手合ヲ見ル 中々考ヘルノデ一番二三時間モカハッタ

夜佐藤ト一石ヤル 二目ノ勝(セイ目オカシテ)

▲▼342ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月25日(月)

天気 曇リ少雨

十時頃ヨリ上京 協会ニ行キライトプレーンクラブノ届書ヲタイプライターデ打ツテ貰ヒ日日ニ一寸ヨリ大蔵ガ局ニ行クノデ自動車ニ同乗 局ニ行ク

坂本氏ヨリ伊東左内ヨリ僕ノ手紙ヲ送附シダマサレタ如ク申入レシ由ニテ、スデニ坂本氏ノ手前送金シタコトニシテアッタノデ非常ニ赤面シタ、ガ結局鈴木ノ分デ送ル予定表ヲ示シ悪意ニアラズ 補助金ノ遅レタ爲メニ今日ニナッタコトヲ釋明シテ出次第(多分廿八日)送金スルコトノ諒解ヲ得テ、鈴木ノ甲三願書トライトプレーン届書ヲ出シ課長ニ話ソウト思ッタガ急(ママ)ガシノウナノト伊東ノ問題デ頭ヲナヤマシタノデスグ帰ル

アンリオノ件補遺ニアリ

(380ページへ続く)

▲▼343ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月26日(火)

天気 晴

朝カラ米問題デー工夫 鈴木ニ話シタガ無ク夜五円ダケ持参。家内ニ大蔵へ前田ノ金ヲ聞キヤル 夜十一時ニナツテモ帰ラズ垣山ヲ見ニヤルト間モナク帰ツテ來タ 大蔵ノ方ダメデ鈴木ニ寄ツテ來タノデ遅クナツタトノコト 鈴木ノ家内ト面白クナク、大分コウフンシテ居タ。局ノ補助金下附ノ通知ガ來テ居タノデ明日行クコトニス。夕方ノ米ハ広瀬デ持ツテ來タノデ間ニ合ツタ

大蔵カラ五円借リテ來タノヲ種育場ノ鳥ノ代ニ仕様カト思ツタガ信太郎ノ今月ノ月謝ガマダナノデソレニ當アル ソンナコトデ三時頃迄眠レナカッタ。西式ノ効果ノ少ナイノモノツハ心配ノ多イ爲ト思ワレル。野田醬油へ夜間飛行ノ手紙出ス ヨキ返事アレカシ今夜久シ振リデ家内ニ代ツテ御着経ラス

▲▼344ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月27日(水)

天気 晴

大蔵ニ補助金取リニヤル 夜聞キニ行ク 明日ニナツタトノコト
鈴木菊雄ニ金請求

▲▼345ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月28日(木)

天気 晴

補助金貰ヒニ大蔵同道上京 十一時金ニナル スグ現金ニカエ伊東左内ニ残金送金シ、佐野商店ノ支拂ヒヲナシ、京成電車ニ行キニケ月分ヲ支拂ヒ帰宅 皆ニケ月分ツノ支拂ヒヲナス。ドウ勘定シテモ足ラナイノデニ三日來頭痛ノスルコト

▲▼346ページ▲▼ 昭和4(1929)年11月29日(金)

天気 曇リ

保健課へ保俵(ママ)料ヲ持参シ鈴木ノ金ヲ聞ク スデニ会社ノ方ハ出シテアルカラ今日アタリ通知スルコトニナルダロウトノコトデアッタ
北道場へ樫材ヲ買ヒニ行キ丁度晝ニナツタノデ佐倉迄行ケズ、スグ上京 協会ニ行ク。クラブノ組合決議ニ調印シ六時カラ、ツエ伯號ノ世界一週(ママ)映画ヲ見ル 十二時帰宅

川辺一文ナシデ困ツテ居ル様ナノデ朝今日ノ上京費トシテ三円貸シタ處其アトエ練習生ガ一人這入ツタトノコトデ大分助カッタラシイ

青山对宗里ノ計算ノ中ニ立チ解決 山田君二百円渡ス アト三十円八十二月十五日迄ニ親ヨリ送ルコト

◆▼347ページ◆▼ 昭和4(1929)年11月30日(土)

天気 曇後雨

今朝ハモ一十五六円ヨリ金ナク家内ト相談シテ内ノ支拂ヲキメ、アトノ入金予算ヲナシドウシテモ三葉ノ補助金ヲ貰ワネバ十二月ガ越セナイノデ努力セネバナラナイ
右ノ内カラヤット鶏ノ金ヲ残シ佐倉ノ種育場ニ行ク 丁度晝ニナッタノデ中學ヨリ先生ニモ會ヒ信太郎ヲ連レテ行ク。スグ現品ヲ呉レルトノコトデ信太郎ト二人モサゲテ帰ル 此頃ヨリ雨降り出シ今日ハカゴノマ、居ク

安岡金貸シテ呉レト來タガトテモ貸セソウモナイノデ川辺ノ昨日ノ金ヲ取ツテ貸シテヤルツモリデ行ツタガ練習生ガ來テ居デシバラク待ツタガ來ズ 一度帰ツテ後チニ行ツタラ今千葉ヘ一緒ニ出カケタトノコト 実ニ人ヲ馬鹿シタ行爲デアッタ 昨日ノ金ナド川辺カラハニヒニカロウト思ツテ氣ヲモカキカシテワザ、持ッテ行ツテヤッタ位ニシテ居ルノニ、行ツテモ会ワナイナド不ラチ仕(ママ)極デアル 今後一切友人トシテノ心持チヲ捨テルコト

◆▼348ページ◆▼ 12月

工場アブロ、三葉、受檢補助金貰フコトニ努力スルコト

夜間飛行ヲ行フコト

ライトプレーンクラブ進行ノコト

カシミケ浦引取り

飛行場運動

◆▼349ページ◆▼ 昭和4(1929)年12月1日(日)

天気 晴

昨日幸ヒ鈴木ノ保儉(ママ)金ガ來タノデ取リニヤル 予定以上多カッタノデヨカッタ
午後スグ上京 先ヅ局ニ檢査ノコトデ行ク 玉宮氏ガ居タノデ話シタガ神戸カラマダ
帰ラズ十日過ギニナルダロウトノコト 非(ママ)觀。荒井少佐ニ葉方アブロ希望 上田名儀(ママ)ニテ提出 尚將來ノ飛行界ニツキ學校問題デ意見ノ交換ヲナス
森氏トライトプレーンニツキ協議ス

日日ニヨリライトクラブノ用箋ヲ注文シテ、佐藤ニヨリ時間ガアッタノデ両国ノ工藤君ヲ訪ネ空中写真ニツキ話シ合ヒ今後一回三十円デ材料持チャツテ呉レルコトニキメ、尚來年ノ博覧会ノ出品物ニツキ打合せシテ帰宅シタラ内山ガ來テ持(ママ)ツテ居タトノコト 明日來ル由

右記事八二日分

▲▼350ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月2日(月)

天気 晴

本記事八一日分

今日八鶏小屋作りニ大塚ヲタノミ終日カゝル

▲▼351ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月3日(火)

天気 晴後曇

寢テル内ニ内山來 十五円ダケ渡シ十日頃迄ニ行クコトニシテ歸ヘス 手紙ヲ二三書イテ居ルト大學カラ來タ 入院料ノコトカト思ツタラ看護婦ノ方ノコトデアッタ 之レモ十日頃ト云ツタラ十五日迄デヨイカラ三分ノ一デモ四分ノ一デモ與レトノコトデアッタ

田中來場 別ニ之レト云フコトモナカッタ様子デアッタ 病院へ行ク様ニ云ツテ居ク

豊田商會員本日ヨリ來場 食堂十五円宿舍二円

石川東京へ温度計取りニヤル 夜帰ル

安岡山田來 アンリオノ件相談アリ 百円デアト月賦交渉ヲサセルコトニシ百円ハ仙台

行飛行料流レヲ宗里ノ方デナイモノトシテ出サセルコトニ山田君ニ渡ス

▲▼352ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月4日(水)

天気 曇晴

ライトプレーンクラブノ規則書ヲ作ラセル

十一時半幕張登ニテ大根飛行場ニ行ク 車中年賀状ノ原稿ヲ作ル

場長不在 宮田氏ニ電話ヲカケテ貰フ 今カラ上京スル處ダトノコトニテ四十円ダケ近

所デ都合シテ呉レタ アトニ二日中ニ最(ママ)非送ツテ貰フコトトシテ五時二十五倉ニ

テ夕食ノ馳走ニナリ自動車デ送ラレテ帰宅ス

▲▼353ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月5日(木)

天気 晴

霜深ク急ニ寒クナッタ

今村二十円ダケヤルコトニ話シス
安岡來 船橋ノ件向フノ運送店ニ聞合ス由

◆▼354ページ◆▼ 昭和4(1929)年12月6日(金)

天気晴

川辺ト共ニ上京 川辺所沢へ行クトノコトニ手紙事傳ル 日日ニヨリ岸田ノコトヲ頼ミ
須田分宜ケレバトノコトデヤット安心。新年状ノ原稿ヲ吉田君ニ見セタガ非常ニ賛成シ
テ呉レタノデヨカッタ 協会ニ行ク 理事会ガアッタノデ馬場参事ニクラブノ会則ト趣
意書ヲ預ケ、道永君ニ一月号ニ記載ノコトヲ頼ミ川辺君ニ会フ 月曜日所沢へ検査ニ行
クトノコトデアッタ 駒林氏ガ居ルトノコトニ電話スル。マダ津田沼ノ方ハキマラストノコ
トデアッタ

今日ハ気分悪シク行キノ自動車中デ上ゲソウニナリ途中ヨリ下車シタ
安岡ヲ野田醤油へ広告取りニヤル

◆▼355ページ◆▼ 昭和4(1929)年12月7日(土)

天気晴

朝大蔵へ行キ岸田ヲ照(ママ)介シ立川へヤル
検査ト校正刷ノコトヲ大蔵ニタノシデヤル
安岡へ寄ツテ昨日ノ結果ヲ聞ク 宣传部ハ東京ニ置イテアルノデ其方へ行ツテ呉レトノコ
トデアッタ由 尚外へ話サナイデ呉レトノコトデアッタカラ有望ラシイ 安岡ヲヤルツ
モリデアッタガ小供ガ悪クテ次ギノコトトス
会報飛行ノ原稿ト新年状ノ原稿ヲ書ク

◆▼356ページ◆▼ 昭和4(1929)年12月8日(日)

天気晴

終日内ニテ居テ裏ノ崖カラウメモドキヲ見ツケル
清平夜帰ル

◆▼357ページ◆▼ 昭和4(1929)年12月9日(月)

天気晴

豊田ヲ連レテ所沢行キ 十一時頃ツク
徳川氏ニ会フツモリノ處ツヒニ会エナカッタ

川辺アプロ検査終リ アンリオ間ニ合ワズ明日ノコトナル
川辺ト帰ル

玉宮氏ヨリ三葉補助金出ナイト課長ノ話ダカラ止メタラドウカトノコトデアッタガ最
(ママ)非受ケタイト頼ンデ居ク

▲▼3588ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月10日(火)

天気 晴

遠藤君晝頃來 タ方サルヲ持ッテ來ルカラ宜シク頼ムトノコトデアッタ
四時頃來ル スグ入庫 明日ヨリ作業ニカ、ルコトトス

今朝ハ昨日ノコトガ氣ニナッタセイカ課長ト三葉ノコトデ争ッタ 芹夢ヲ見タ

今朝大蔵ニ行ク 大毎ノ十三式モ補助金出ズ今運動中トノコトデ之レガ決定ヲ待ツ方
ガヨイト思ッタ

朝早ク千葉ノ國吉ニ行ク 明日土地競賣ノ件。處ガ案ジルヨリ生ムガ安ク高橋健ノ名
儀ニシテイッデモ式千円デア買ヒモドセル様ニ証書ヲ作ラセルトノコトデアッタ 競金位ハ
コチラデ支拂フコトヲ約ス

▲▼3599ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月11日(水)

天気 雨

雨午後晴レル 晝前大坂ノ兄來 今日ノ競賣ガ氣ニナッタラシイ 昨日ノ話シヲシテ安
神(ママ)サセル

色々大坂ノ話モ聞ク 父モ近頃時々大便ヲシクジルソウダ。年老タモノダ。何ニカナガ
サメルモノヲ送ッテヤリタイガ
三時頃ニ帰ル

▲▼3600ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月12日(木)

天気 曇リ

田中來 アンリオアト作ルコトノ打合セ出來ル迄ニ五百円ヤルコト。カスミヶ浦工場ノコ
ト考慮スルコト

内田トクラブノ覺書キ作製交換ス
工場ノ検査ノ件田中局ヘ行キ打電スルコト

▲▼3611ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月13日(金)

天気 曇リ

豊田朝帰ル 午後金ノ話シ スグ打電ニ行ク
大口來 明日カラ樺太へ又行クトノコトデアッタ
夜一時頃田中來 川辺ノ契約ノ爲メダト
田中帰ッタアト眠レス明日

▲▼362ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月14日(土)

天気 曇リ

夜明ニウツ、シテ眠カッタ 満ノ小便モラシニ腹ガ立ツテ家内ヲタ、キ起シテアトデオ
カシカッタ 坐敷中バラ、雨ガフツタ様 小供モ皆目ヲサマシタ 丁度三時半頃 結局
自分ガウロタエテ窓マデ連レテ行ツタ爲メデドコカデ、ジツトサセタ方ガヨカッタ
朝大蔵へ校正刷ノコトヲ頼ミニヤリ千葉ノ国吉へ行ク 東京ノ事務所へ行ツタカラ三時
頃ニ來テ呉レトノコトデアッタガ午前ノ約束デアッタノデ午後來ラレナイカモ知レヌカ
ラ其時ハ明日來ルコトニシテ帰リ多田屋二年賀状注文 帰宅後遠藤サルノカバー直シヤ
ヤル 腕ガイタカッタ 太田ノ兄來 金受取ル 大ニ助カッタ 今村ニ廿五円ヤル
天王寺谷來 荒木発ヲ借りタトノコト 手紙持参 アンリオ晝前到着ス 川辺アブロモ
着ク
旦代熱ガ出タトノコト

夕方葛西來 五円渡ス。関根明日行クコトヲ打電ス

▲▼363ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月15日(日)

天気 晴

時刻ヲハカツテ九時國吉氏訪問 丁度今出懸タトノコト 明朝ヲ約シテスグ調べルト十
時半船橋発ガアルノデイソイデ行ク 丁度発車シタアト 一時間余リ待ツテ初メテ柏
線ニノル 柏ニツクト丁度ヨイ工合ニ連絡ガアッタノデスグ乗ル モウ牛久アタリカト思
ツテ見トル(ママ)フサト書イテアル 変ダト思ツテ調べルト成田行キダ スグ次ギノ木下
シデ下車 次ギノ上リ迄ニ一時間半アルノデ駅前デ晝食 アビコデ又一時間待ツテ関
根ヘツイタノガ四時半 一通リ見テ馬車四台ニハンサー機ニ一台機其他ノ用品ヲ賣ルコ
トニシテ五十七円トナリアト四十三円支拂テ全部引取レルコトニシテ約束ス 馬車ノ都
合ツキ次第電報ヲ貰フコト 十時帰宅 今日ハ帰リノ自動車途中破損シテイヤナ日
デアッタ

▲▼364ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月16日(月)

天気 曇少雨

早朝國吉訪問 又不在 九時二帰ルトノコトニ判屋デクラブノ判ヲ注文ニ行キ朝食ニ。パントコーヒーヲヤツテ行ク 丁度帰ツテ居タノデ話シヲ聞クト式年ダケ高橋ノ名儀(ママ)ニシ二年ハ二番分トシテ残シテ見ルトノコト 尚滞納税金ノ式百九十五円モ高橋デ支拂フコトニシタトノコト トテモ有難イ條件デアッタ

此間カラ病人ガアルラシイノデ聞クト御産ヲシタノダソウデ十円御祝ヲシテ帰ル 電池ノ発電ヲ引取り帰宅後上京 局ニ行キ明日カ明後日ニ來テ貫フコト 葉方ノ飛行場許可ノコト、安岡一型拡張ノコト 荒井サンラカラ、ライトプレーンノコトヲ聞カレ予定通り皆ヨク行ツタ、此ノ勢デ田辺ニ行キ通帳ニシテ入金 十円利子 式百五十式円ノ手形書イテ呉レトノコト マケテ呉レトモ云エズ送ルコトニシテ鳥飼氏訪問 夜間飛行ノ話シアツタガ例ニヨツテツマラヌコトデアッタ 日日ニヨリ、岡田ニ銀坐デ会ヒ三十円支拂ヒ、工藤ヲ訪問 連続写真ノ研究ヲシテ帰宅

▲▼365ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月17日(火)

天気 曇リ

來年度ノライトプレーン計畫ニツキ考慮 成案ヲ行

▲▼366ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月18日(水)

天気 晴

久シ振リニヨク晴レタ 駒林氏來場 遠藤サルト工場アブロスラ、ト済ム

▲▼367ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月19日(木)

天気 雨

上京 局ニヨリ松屋ノ広告ヲ取ルベク昨日知覧君ニ午後三時ニ会フ電報ヲシテ居イタノデ協会ニ行ク途中日日ニヨル 知覧君昨日死ンダトノコト 何ンタガ夢ノ様ナ話シ 協会ニ行ツテ道永君ニ聞イテ見ルト往來デ、タオレタマ、ツヒニ回復シナカッタトノコト 昨日二時頃ノ由。ソレデハ電報ヲ打ツタ頃ハスデニ死ンデ居タノダ。道永君ニ五円借り香奠ニツ、ミ宅ニ行ク 明日銚子行キガアルノデドウシヨウカト思ツタガ告別式ニハ間ニ合ワナイノデ今夜ハ御通夜ヲスルコトニス

▲▼368ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月20日(金)

天気 雨

五時半知覧君ニ永訣ノ祈リヲシテ銚子ニ行ク爲メ帰宅シタガ十一時ノ汽車デナケレバ
間ニ合ワズ雨益々ハゲシク中止シテ工場ニテ局ノ書類ナド作ル

▲▼369ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月21日(土)

天気 晴後曇

猿田ヘ行クベク早起キシタガ一寸ノ事デ乗り遅レ気持チ悪ルカッタ 九時ニテ千葉ニ行
キ年賀状トゴム印ヲ受取り銚子ニ行ク 十八日一日デ検査ヲ終リタル由 丁度今日手
紙ヲ出ス處デアッタトノコト 検査當日ノ模様ヲ聞キ尚クレルジ―ヲ最(ママ)非買取ッ
テ貰ヒタイ、ソレニハ補助金カラ少シツ、差引イテトノコトデアッタノデ來年度ノ分カラ
ト云フコトデ承知ス 尚イス。パノト交換ノ件ヲ持チ出ス アプロ機翼譲リ受ケノコトモ話
シテ居ク
夜十時頃清平來ル

▲▼370ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月22日(日)

天気 晴

清平ニ頭文タイプライターノ件ヲ依頼ス

▲▼371ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月23日(月)

天気 晴

上京 大蔵ト行キモ帰りモ一所ニナッタ

協会ニ行キクラブノ局ヘノ回答ヲタイプライターニ打ツテ貰フ 馬詰相羽ニ會フ 馬詰ヨ
リアンリオ使用ハ困ルトノ抗議ガアッタガ學校トクラブノ相違及クラブモ過渡期ダケ
デ、イツ迄モ使フツモリデナイコトヲ話シテ居ク

日日ニテ吉田君ニ來年度ノ計畫ヲ話ス。石川島ノ山本氏ニ會フベク電話シタガ三四回
デ漸ク出テ來タガ急(ママ)ガシク次回ニス

井上長一來テ居ル筈ダガ會エナカッタ。大毎ニ出テ居タ。兄カラ送ツテ來タ輕飛行機
學校ノ計畫ニツキ話シタカッタガ

▲▼372ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月24日(火)

天気 晴

今日夜間飛行サスベク準備シタガ午後カラ急ニ大風ニナツテ汐モ引カズ中止ス

川辺対高橋内田問題中ニ入り解決ス 正式ニ入學願書ヲ出サセ内田ヨリ校長宛陳謝

状ヲ書カセル。前田納入ノ練習費残百余ノ問題ハ内田ヨリ自分ニ委サレ川辺ニ話ス川辺ハ半分ダケ終リニ現金デ返ス追追ッテ來タガ尚余リアルコトダカラ考慮ヲ求テ居ク高橋三郎内田契約ガ出來テ居ナイトノコトデアッタノデ高橋二色々サトス

▲▼373ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月25日(水)

天気 晴

夜間飛行ノ準備ヲナス 晝頃関根來 金六持ッテ來ナカッタ 先日キメタノガ五十七円アトノ發動機ヲ廿三円 計八十円トシ十年式ダケ年内ニ送ルコト 三十円渡シ但シ自動車廿五円ノ割 五十円ヲ明日カ明後日電送スルコトニキメル。

アトニ井原君來 数年振りデアッタ 一時間程話シテ歸ル アトエ又三年程前ニ御厄介ニナリマシタト云フ青年來 丁度川辺君來テ居テ川辺君ト話シガ持テル 自分ハ手紙ヤ手形デ急(ママ)ガシク余リ多クヲ語ラナカッタ

女工金貰ヒニ來タガ事情ヲハナシ小遣ヒ位都合スルコトニス

栄助地代事ワリニヤル。

猿田ヘアス○送ル様打電ス。京成弍ヶ月分四十八円余支拂フ

飛行協会ヨリ評議員ヲ擴張ストノ手紙來 毎回出デ少シ様子ヲ見タ上漸時(ママ)協会ヲ善導シテ見様

▲▼374ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月26日(木)

天気 晴

年賀状ノ住所調べテ終日カハル

午後ハ夜間飛行ノ準備ヲヤラセル 薪ハ裏山カラ、カヤヲカリ沢山出來タ。ソレニ油ボロト古石油ガ一カン半

五時半頃ヨリ飛行ニ回 高度三百ト五百ニテ地上ヨリ見ルニ三百ニテハ明リヨウニ見エ五百デハヨクワカラナカッタガ三百ノ時ニ五百米ノ高度ニ思ワレタ

兎二角好成绩デアッタ 後大蔵來タノデ明日ノ夕刻ニ出ズベク原稿ヲ作ッテ渡ス

▲▼375ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月27日(金)

天気 晴後曇リ

猿田ヨリ金來ラズ朝打電ス 関根モ又送ッテ來ズ困ル 今村今日歸ル予定デアッタガドチラモ來ナイノデ帰セナクナル

仕事ハ今日カラ工場掃除ヲナス

自分ハ年賀状ノ封筒ヲ書ク 夜九時迄カッテ四百枚書ク アト弍百枚バカリアルノデ

印刷物が不足ニナツタノデ、大低(ママ)ノ處ハ中止スルコトニシテ五百枚ニ合ス

▲▼376ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月28日(土)

天気 曇り後雨

昨日ノ夕刊ニモ今日ノ朝刊ニモ出ズ 大蔵モ當ニナラヌヤツダ

今日全部書キ終ル 五百十四枚 外ニガキ四枚ヲ加フ

今日ハ長屋ノ附近ヲ整理 雨ノ爲メニ時半終ル

アンリオ練習ヲ行フ 今日ヲ以テ終ル

大蔵ニ手紙デ今日田中ニ金ノ件交渉方ヲ頼ンデヤル

朝猿田ト関根ニ打電シタガ返事ハ勿論金ガ來ズ閉口頓首

佐野ハ手紙デ手形デヨイトノコトデスグ書イテ今村上京ニツキ東京デ書留ヲ事傳ル

▲▼377ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月29日(日)

天気 曇雨

終日待ツタガドコカラモ金來ラズ

鈴木カラ五十円來 スグ米屋ノ支拂トモチ米ヲ二斗ダケ取ル(一俵ノ予定ヲヘラス)

今村ニ、十五円渡シ午後帰郷ス 関根ヨリ三十円ダケ來ル 年賀状ヲ發送ス

▲▼378ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月30日(月)

天気 雨

朝大蔵ニ行キ十年式シートノ金受取方ヲタノミ、所沢ト猿田ニ金請求打電ス。安岡所
沢へ行クトノコトニ遠藤サルノ内金五十円及三百円ヲ依頼シテヤル。念ノ爲メ打電。銅
板ヲ求メ内田アンリオノペラ板金ヲ巻ク。表皮ダケ出來ル

今日ハツヒニ金來ラズ安岡帰ラズ不安ノ内ニ床ニツク 明日イヨ、來ナケレバ發動機デ
モ處分スルコトニ決心ス

▲▼379ページ▲▼ 昭和4(1929)年12月31日(火)

天気 雨

門松ヲツヒニ銚子ヘ金取リニヤル 三十円バカリニ随分手間ト費用ノカヽルコトダ。安岡
來 昨日サル分トシテ五十円田中ヨリ受取リスデニ廿五円ヲ諏訪ニ送リアト内ノ支拂
ヒニ當テタリトノコト 不都合ヲナジタガ後ノ祭りデ何ニモナラズ、シカリ居ク程度ニ終
ツタガ終ラナイノハコチラノ都合。ツヒニ決心通り金物屋ヲ呼ビイス。パノ式百式十一台

ト三百ノシリシランダ一ニケ出シテ六十二円余ニナリ川辺ヨリ格納庫料ト内田ノ格納庫料這入り皆一ヶ月分ト外ニ未給ノ分ヲ渡ス 米ヲ取り運賃ヲ支拂ツタラアト四十銭シカ残ラズ 聞ケバ川辺ヨリ安岡ニ五十六円支拂ツタトノコトニスグ取りニヤツタラ十五円ダケヨコス。コレデ小供ノ下駄ト足袋ダケ買ヒ、シヤツヲ買ツテヤレナカッタ 門松夜帰ツタガ廿八日送金シタトノコトデ金ハツヒニ來ラズ 門松氣ノ毒ニヤル金ガナカッタノデ四円バカリ残ツタ内ニ円ヲ小使ニ渡シテ居ク アト猿田ノ金ヲ待ツノミ。今日ハペラ板金張りハカドラス仕事残ル
家内ハソレデモ二時半頃迄明日ノ準備ニイソガシクシテ居タ
清平午後來 酒モ買エズ、トソダケ準備ス 之レデモ迎春ノ準備ハ出來タ アトハ來年ノ事ダ 年末ノ感モナニモ頭ニ出テ來ナイ

◆▼380ページ◆▼ 補遺

(342ページから続く)

十一月二十五日

安岡來場 アンリオノ件高橋買ツタガ残金出來ズ 結局内田ガ残金ヲ出スコトニナツタガ内田ハ高橋名儀(ママ)デハ、イケナイノデ内田名儀(ママ)ニシテホシイ、ツイテハ、ソレデコチラデ練習サセテ貰ヒタイノデ諒解シテ呉レトノコトデアツタガ自分トシテハ、ライトプレーンノ性質上名儀(ママ)ハ代機ノ出來ルマデクラブ名儀(ママ)ニスルコト 川辺ノ解決ヲツケテ來ルコト、代機ノ出來ルマデ練習サセルコト 他へ持ツテ行カナイコトノ條ナレバヤラセルコトニ返事ス

◆▼381ページ◆▼ 補遺

本年度事業ノ事共

ライトプレーンクラブヲ組織セリ 日本最初

住居菅野ヨリ津田沼ニ移ル 五月十六日

菊池ノ死。同所員ノ退所。航空局(技術課)ノ圧迫。所沢ヲ田中ニ譲ル。ライトプレーンニテ更生ヲ計ル。

年末飛行協会評議員ヲ擴張サル

來年度ノ決心ヲ年賀状ニ記ス

▲▼390ページ▲▼ 補遺

回数	組	番號
七〇	拾	一三九七二
七〇	拾	一三九七三
七二	五	一一八八三
七六	十	八九八九一
七六	十	八九八九〇
七七	五	七一三五〇
七七	五	七一三四九
七八	八	一六一七五
七八	八	一六一七六
八〇	九	〇一六一八四
八〇	九	〇一六一八六
八二	八	一二三四四
八二	八	一二三四三
八三	七	三七六三四
八三	七	三七六四〇
八六	三	三八三三
八六	三	三八三二
四	一〇	〇三〇一三〇

▲▼404ページ▲▼ 手控

姓名 伊藤音次郎
住所 千葉県東葛飾郡八幡町菅野164
勤務先 合資会社伊藤飛行機製作所
時計番號 ウデ用S9型楯円 29732 136523 モバアト一個
帽子寸法 6 3/4"

吉子	三十年三月十日		
信太郎	大正四年十二月九日	夜〇時三十分	辰 十四才
徳次	九年八月四日	午前六時	申 拾才
恵美子	十一年十月廿一日	午前五時半	戌 八才
仁三郎	十三年八月廿五日	午後二時三十分	子 六才
満	十三年十一月十九日	午後八時四十分	寅 三才
照子	四年三月十四日	午前四時半生	